

No 9003



明治二十一年二月刊行

回取調書

白耳義國之
部全 五



農商務省藏版

緒言

歐洲ノ巡回中白耳義國ニ就キ取調ノ目的タル同國ハ建國以降漸ク五十年ニ過キスト雖其國ノ位置歐洲ノ中部ニ位シ交通ノ便製造ノ隆農業ノ盛其他文物ノ燦然タル實ニ見ルヘキモノ多ク殊ニ同國政府ノ民業獎勵保護ニ汲々トシテ殊ニ委員ヲ歐米各國ニ派遣シ其長ヲ執リ折衷以テ宜シキヲ制シタリトハ歐洲人ノ評スル處タレハ其制度中自ラ取ルヘキモノ多カルヘキモ彼レハ僅々六百萬口ニ滿テサルノ小國ナレハ規模ニ大小ノ差アリテ我國ノ參考ニ適セサルモノナキヲ保セス故ニ當初ヨリ政府ノ組織及關係等ノ事ニ涉ラス只農商工務一事一物上ノ施務ニ就キ參考トナルヘキモノヲ得ントスルニアリ(國小ニシテ設ノ多キハ歐陸ノ最一位ニ居リ交通上ノ便無比ナレハ)
席上ノ取調ト實地ニ就キ参照スルニ最モ便宜ヲ得タリハ
 故ニ大體ニ關シテハ農工務兼工部(商務ハ外務省中ニ在テ其要領ハ特報第十一號ニ掲ケタリ)省組織職制及經費ノコト取調書第壹號及官吏登用法ノ一取調書第二號ニ止メ他ハ夫々施行上ノ事ニ涉リテ取調巡回中特ニ報道セシモノアリ又ハ追

加セルモノアリ之ヲ(取調書第三號)トナス其目如左

特報第十一號	領事ノ配置及商業博物館	十三丁
全 第十二號	農區及巡回教師	廿三丁
全 第十三號	農業監督官及農務委員	廿七丁
全 第十四號	農商工業者褒章ノ典	三十一丁
全 第十五號	統計ノ調査	三十七丁
全 第十六號	アンペルス港商品陳列場	四十三丁
全 第十七號	需用品ノ原價ニテ輸入スヘキ方便	五十一丁
全 第十八號	農業貸附金方法	五十九丁
全 第十九號	獸醫及獸醫區	六十七丁
全 第二十號	製造學校	七十三丁
全 第二十一號	農業用分析所	七十七丁
全 第二十二號	家畜販賣規則	八十三丁
全 第二十三號	職工學校及工藝教授所	八十七丁

全 第三十號	田野警察	九十三丁
全 第三十一號	小作條例	九十五丁
全 第三十二號	製造監督官	百一丁
全 第三十三號	農大學校	百三丁
追加第三十四號	家畜衛生規則	百七丁
全 第三十五號	ピルホルト果樹學校	百廿一丁
全 第三十六號	ガン花園大學校	百廿五丁
全 第三十七號	獸醫大學校	百廿九丁
全 第三十八號	植物園	百三十七丁
全 第三十九號	土地所有規則	百三十九丁

要之ニ白國農商工務運用ノ機關ハ法律監督監督ニ製造ニ各(各)教育ニ各(各)種ノ學工
 校アリ及農業巡廻農工業者並ニ共進會名譽共進會(保)護、田野警察、商業博物館、農務分
 回教師アリハ(各)屬農會農務委員及農務試驗場等ヲ云(保)護、田野警察、商業博物館、農務分
 等(各)資本融通ニ貸付ルノ制度ヲ云(保)護、田野警察、商業博物館、農務分
 規則類ノ報道ニ渡レタルモノヲ左目ノ通添附シテ取調ノ局ヲ結フ

取調書第四號 農業上等會議勅令	百四十九丁
全第五號 官立農用試驗場及農用舍密局管理規則	百六十三丁
全第六號 縣立農業委員會組織及農會組織	百七十五丁
全第七號 フラパンハイノ農業組合名譽褒賞授	
與ノ共進會	百八十五丁
全第八號 農業律	二百十九丁
全第九號 農業貸付金ニ係ル訓令	二百六十七丁
全第十號 果樹栽培法伐採法布達	二百八十一丁
全第十一號 書入質權訓令	三百五丁
全第十二號 全法律	三百十五丁
全第十三號 農業貸付金規則	三百八十五丁
全第十四號 民法ニケ係	四百四十九丁
全第十五號 給與金ノ割合	四百五十二丁
全第十六號 農業貸付金但日本參考用	四百五十三丁

四

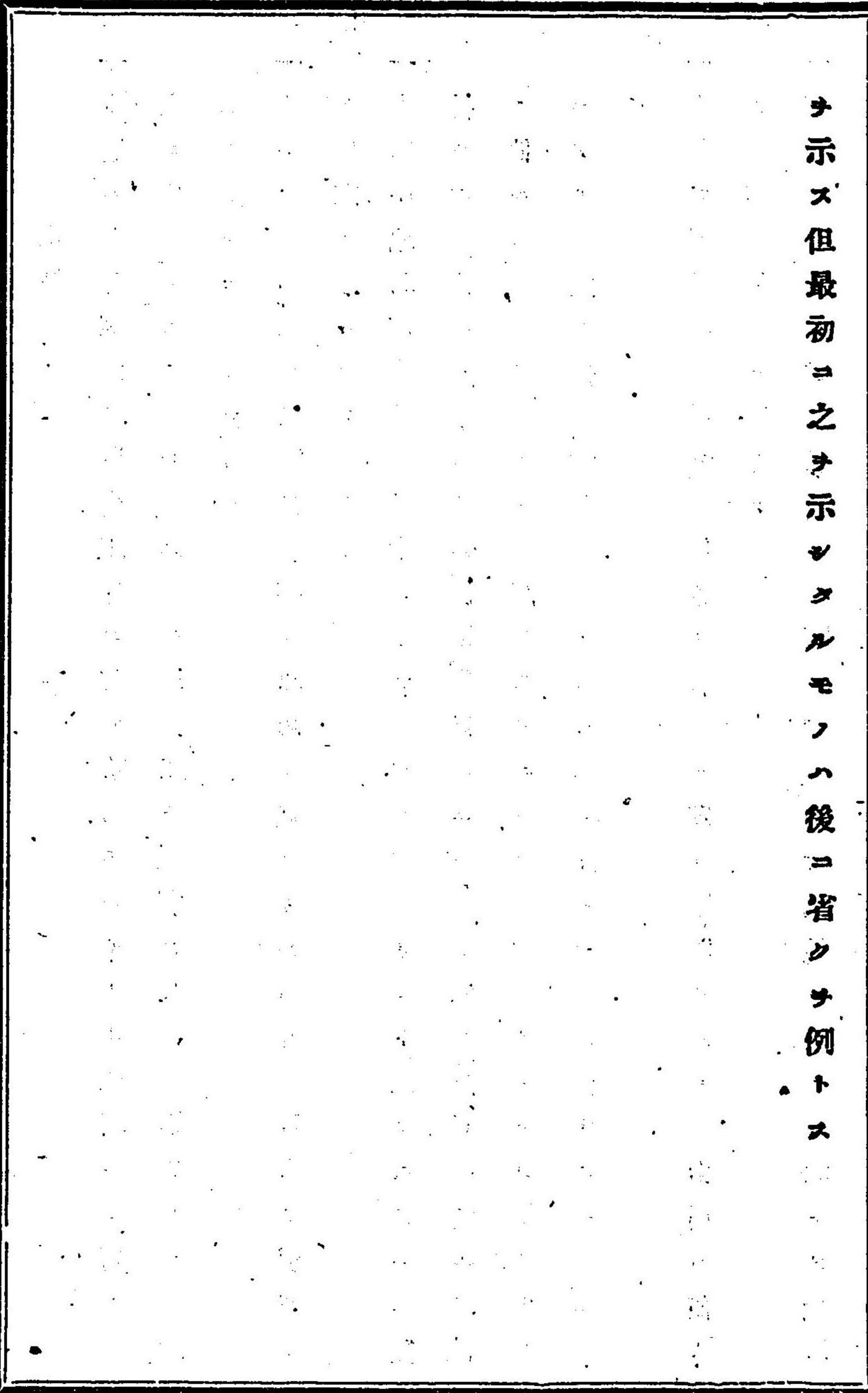
全第十七號 公證人ノ報酬金定額	四百六十七丁
全第十八號 家畜育養ニ係ル訓令	四百八十一丁
全第十九號 農業巡回教師	四百九十一丁
全第二十號 農業巡回教師訓令	五百十三丁
全第二十一號 モルランペルツ工業兼製圖學校規則	五百三十三丁
全第二十二號 ゴムリ工商業學校規則	五百四十九丁
全第二十三號 女子職業學校規則	五百六十一丁
全第二十四號 カン工業學校規則	五百七十三丁
全第二十五號 徒弟學校規則	六百二十丁
通計二十五號	

凡例

- 一本篇ハ白耳義國ノ農商工務ニ就キ着目スルモノヲ取調ヘ本省ノ參考ニ供スルモノナレハ必シモ農商工ヲ區別シ又ハ全篇ヲ通シテ敘事ヲ定メタルコトアラズ
- 一本篇ニ氷産、山林、特許、地質等ノ事項ヲ載セサルハ各當局者ヲ派遣シテ取調ヲ了セシメハナリ
- 一本篇中地名ハ雙柱(國名中ニモ世ニ普ク識ラサルト想フモノニハ雙柱ヲ加フ)人名ハ單柱、物名、數量、貨幣名ニハ「」ヲ加フ然レモ已ニ譯名ノ世ニ普ク識ラレタルト想フモノニハ之ヲ加ヘサルハ其繁ク省クニアリ又適右傍ニ假名ヲ附シタルハ原語ニシテ左傍ナルハ邦語ナリ
- 一本篇特ニ目次ヲ附セス緒言ノ書目ニ就キ丁數ヲ示シテ索引ニ便スルハ簡ニ從フニ過キス
- 一尺度、量衡及貨幣ノ名稱ハ其國ノ制ニ隨ヒ割註ヲ以テ本邦トノ比例

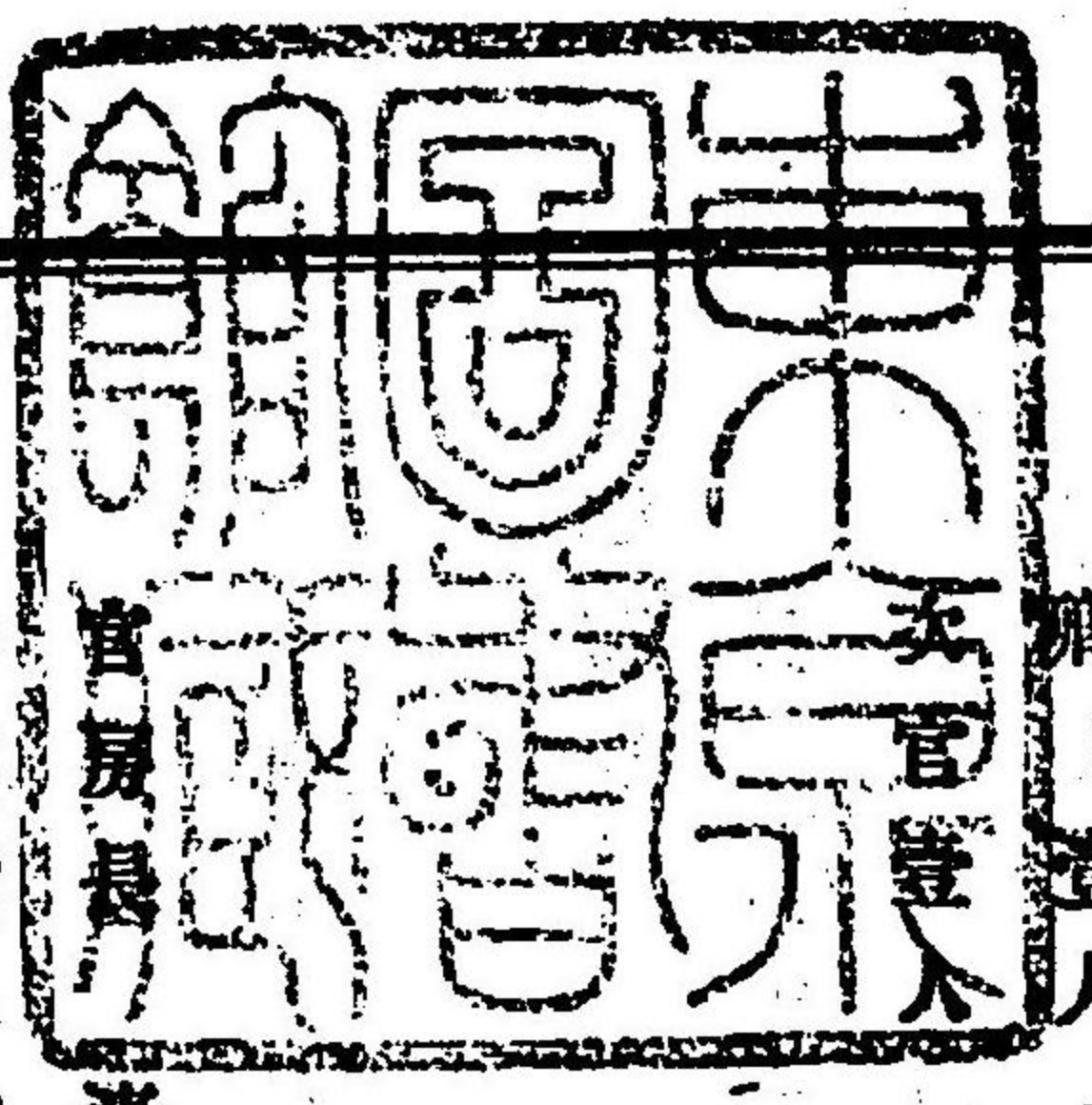
凡例

ヲ示ス但最初ニ之ヲ示シタルモノハ後ニ省クテ例トス



白耳義國農工務兼工部省
本省ハ千八百八拾四年内務省ヨリ分裂シテ本省ヲ置ク

官房



卿 壹人

女官 壹人

官 壹人

官房長 壹人

書記官 三人

此書記官ハ農務、製造、美術、土木、鑛山、ノ各局ヨリ各一名宛ヲ出務

セシメテ卿ノ職務ヲ助ケシム(方今農務工務ハ一局トナルヘキ

積ニテ右兩局ヨリ一名美術局ヨリ一名土木局ヨリ一名合三名

省中百般ノ事ヲ統督ス

國會ノ議定セル定額ニ依リ省中會計ノ事ヲ監督シ會

計檢査院ノ檢閲ヲ經テ其責ニ任ス(會計檢査院ハ國會

ニ屬ス)

省中職員ノ勤惰能否ヲ監督シテ之カ進退黜陟ノ事ヲ

卿ニ具狀ス

トス其鐵山局ヨリ出務セサルハ官房長鐵山ノ事ヲ熟知スルノ
人ナレハナリ

(斯ノ書記官ハ眞ノ書記官位置ノ人ニアラス各局課長ノ位置ニ
當ル人ナリト云)

秘書官

國王ノ任命スル官ニ非スシテ卿ノ任命ヲ請ケ秘密ノ事ヲ掌ル

總務局

長二人ヲ置ク内一人ハ省中職員ト進退黜陟及什器筆紙墨等ニ係
ル事務ヲ擔當シ一人ハ省中會計ニ係ル事務ヲ擔當ス

總務局ニテハ全省ノ諸回讀書ヲ閱覽ス
諸經費ノ仕拂總務局ニテ査印ナキモノハ會計ノ取扱ヲナサス

農務局

農務ニ關スル事務農業ニ關スル用水排水森林及農業ニ關スル學
校獸醫學校ノ事ヲ管理ス

工務局

諸製造及職工學校ニ關スル事ヲ管理ス

美術及文學局

美術上ニ係ル畫學、音學、天文彫刻等高等教育ノ事ヲ管理ス
音樂大學校(全國ニ三ヶ所アリト云)ヲ管理ス
博物館、古物保存、古建物ノ保存、古畫購入、他國へ畫學彫刻學ノ爲メ
人ヲ派遣、著述者ノ登錄、發明者登錄ノ事ヲ掌ル
國王ノ書籍館及府民共有ノ書籍館ノ事ヲ管理ス
國王ニ屬スル博物館及動物園植物園ノ事ヲ掌ル
佛語、フラマン語、ノ高尚來歴ニ關スル教育及繪畫共進會ノ事ヲ管

理ス

土木局

鐵道ノ建築、隄防、道路、橋梁ノ事ヲ掌ル

鐵山局

鐵山試堀、借區ノ事ヲ管理ス

農務局及製造局ヲ合セ掌ル 大局長 一名

農務局局長 一名

製造局局長 一名

農業監督官 一名

白耳義國農工務兼工部省經費千八百八十五年度分

一 壹千六百拾四萬三千八百四十八法

經費定額金

此譯

(S)百貳拾七萬三百貳拾五法

農務定額金

內譯

貳拾三萬法

拾六萬貳千法

屠殺動物賠償費

獸醫事務費、動物衛生取締費、退

職獸醫及其寡婦、孤兒恩給費、豫

備金

拾萬壹千五百法

壹萬千六百法

家畜改良費、地方ノ補助金

農業高等會書記俸給并手當、農

務地方委員俸給并手當、農業高

等會及農務地方委員會費、共進

會及博覽會補助費、農會獎勵金、農業試驗場及農用化學所費、官吏俸給及補助金、淡水魚類繁殖費、瑞西國ベルス府ヒロキセラ「害蟲萬國會議」加入シ締約ノ事、項ニ要スル費、農業及園藝ニ關スル著述獎勵金、農業雜誌、農業賞牌費、農業及園藝取調派出費、農科大學及官立園藝學校官吏俸給、非職官吏ノ俸給、農業及園藝學校教場費、監督委員及審査官費、豫備金、農業及園藝講義費、

拾壹萬六千四百法
拾萬二千二百法

カンピリス開拓事務官俸給、開拓及樹木植附事務費、千八百四十七年三月廿五日法律施行ノ監督費并ニ手當、山林用苗圃費、(此費目ハ悉ク臨時トス) 官立獸醫學校官吏俸給、監督委員費、非職官吏俸給、官立獸醫學校物件費、豫備金、獸醫ノ審査官、(此費目中六千法ノ臨時費ヲ含有ス) 官有植物園、官吏俸給、官有植物園ノ物件及耕作費、農業工師俸給、手當及旅費、農業監督官旅費、

貳萬〇八百法
貳萬五千法
拾萬貳千五百二十五法
五萬七千八百法
三萬壹千二百法
五萬五千二百法
六萬四千法

壹萬六千法

限中ハ百分ノ二個半ヲ官納セシム而シテ婚姻ヲナシタルモノハ百分ノ四個半ヲ官納セシム

但此金ハ國庫ヘ納入スルコト非ラス又各省均一ノ分一ヲ納メシム

ルニアラス省毎ニ貯蓄セテ已ニ其貯蓄ノ多キ省ニ在テハ稍其分

一ヲ減ス此金ノ利子ヲ以テ官吏奉職年限中死去ノモノ、寡婦又

ハ遺兒(別男女ヲ差)ヲ郵ムナリ但寡婦再嫁スルキハ給與シ來ル全額ノ

半ヲ給シ兒女ハ十七歳ニ滿レハ給セス其郵金ハ養老年金ノ算法

ニナリ然レトモ其額ハ四千法ニ超ルコトヲ得ス

一官吏登用ノ法トスルニ非サレトモ官吏ノ遺子ハ無縁ノモノヨリモ

先シテ登用スルノ慣習ナリ

一官吏ノ登用ニハ官吏トナリ得ヘキ科業ヲ備フヘキハ勿論編輯科目

及課長タルヲ得ヘキ科目ノ試験ヲ經テ後テ合格シモノヲ以テ登用

スヘキモノトス

但大學校卒業生ニシテ博士ノ免狀ヲ有スルモノハ稀ニ試験ナク

シテ登用スルコトアリト雖モ普通ハ博士ト雖モ試験ヲ請フヘキノ
例ナリ

一官吏係長以上ノ任命ハ卿ノ具狀ニヨリ國王之ヲ任命ス其他ハ卿之
ヲ命ス但各局長ハ小吏ヲ任命スルコトヲ得

一課長トナルニハ七級階ヲ二ケ年宛經過シタルモノニ非サレハ之ニ
任セス課長ノ中ヨリ漸次局長ヲ撰任ス

一係り長ニ任スルニハ之カ試験ヲナスト雖モ課長以上ハ經歷已ニ備
ナルモノヲ選用スルヲ以テ試験ヲ須ヒス

一課長ノ年俸ハ五千五百法、六千法、六千五百法ノ三等トス
一各局長ノ年俸ハ九千法、九千五百法、壹萬法ノ三等トス

但五十歳ニシテ廿五ヶ年以上勤績ノモノニハ俸給貳割ヲ増ス
ヲ得尤經費ノ餘優アルニ非サレハ別段ノ支給ハ國會之ヲ許サス

歐洲巡回特報第十一號 (白耳義國比律悉府發)

明治十九年八月十二日

谷大臣隨行

榎田書記官

白耳義國領事ノ配置及商業博物館

白耳義國政府ハ商業ノ獎勵ニ甚熱心シ五大洲各國ノ要地ニ夫々領事ヲ置キ其數毎ニ五百五拾名乃至六百名ニ至レリト而シテ其内僅々廿七名ハ本國政府ヨリ派遣スルモノニシテ餘ハ悉ク其國其地方ニ在住セル他國商人ヲ以テ之ニ任命ス

白耳義國ニ外國商務及領事局アリ即チ外務省中ノ一局ニシテ外國商業ニ係ル事務ヲ管轄スルノ局ナリ

本國ヨリ領事ヲ派出スルハ特別ノ場合ニ非サレハ之ヲ派遣セス而シテ多ク歐洲外ノ各國ニ派遣スルモノナリ然レトモ當時歐洲内ニテモ井スハニヤ、埃地利、伊太利、ローマニ、ノ四國ニハ未ダ派遣スルモノアリト雖モ漸次引揚ケノ見込ナリト但公使ヲ置クノ國ニハ斯ノ領事ヲ

置カス公使ヲシテ領事ノ事務ヲ兼テシム此領事ヲ置クトキハ概テ之
 ナ總領事トシテ該國內數多ノ名譽領事ヲ統轄セシム尤場合ニ依リテ
 ハ其地ニ名譽領事ノアルニモ係ハラヌ特ニ取調ノ爲メニハ派遣スル
 一アリ
 領事ヲ派遣スル特別ノ場合トハ例ヘハ某ノ運河開鑿ニ就テハ商業上
 將來如何ノ關係ヲ生スヘキトカ或ハ某ノ鐵道落成シ商業上ノ新關係
 ナ生スルトカノ場合ナ云
 其他ハ悉シ名譽領事ヲ置ク而シテ商業上ノ報告其他トモ本國ヨリノ
 領事ヲ置クノ効用ト毫モ異ナルコトナキノミナラス其一地方ノ事情ヲ
 探求スルニハ寧ロ派遣ノ領事ニ優ルモノアリト云ヘン何トナレハ一
 ハ他國ノ客ニシテ其地ノ商況ヲ識ラントスルハ容易ニアラス一事ヲ
 探求セントスルニモ自ラ他人ノ耳目ヲ注カシムルノ嫌アリテ其實ヲ
 得難ク一ハ居ナカラ其事情ヲ識ルノ其人ナレハナリ若探求スヘキ事
 情アルモ我店ノ手代ヲシテ普通商業上ノ事ヲ探求スルカ如クナレハ

能カ之ヲ怪シムモノアラシヤ是レ名譽領事ヲ以テ優レリトスル所以
 ナリ然リト雖モ名譽領事ト云ヒ本國ヨリ派遣ノ領事ト云ヒ其事ノ舉
 否ハ固ヨリ其人ニ存スルヲ以テ一概ニ論スルヲ得サレトモ大勢ヲ違
 觀スレハ前陳ノ如キモノナリ
 領事ノ報告ハ一ケ年一回ノ商業上年報ハ必ラス關シヘカラス猶且商
 業上ニ關係アルコト例ヘハ今年ノ如ク伊太利ニ流行病アレハ該地ノ領
 事ハ日々其景況ヲ報ス況ンヤ物價ノ變動ノ如キハ隨時ニ報道ヲ關シ
 ナ得ス然レトモ其任ヲ盡スモノハ自ラ報道モ多ク且詳カナリ否ラサ
 ルモノハ之ニ反スルヲ以テ其人選ハ最モ注意ヲ要スル所ナリ
 其報告ヲ集メテ人民ニ報道スルニハ印刷會社ニ附シテ之ニ自由賣買
 ナ許ス尤報道中外國商務及領事局長ハ報告上篤ト閱覽シ政府ノ體面
 ニ關シテ不可ナキヲ認メタルニ非サレハ之カ記載ヲ許サス此印刷ノ事
 ニ關シテハ政府ヨリ別段保護金ヲ與フルノ事ナシト雖モ印刷發賣ノ
 望人比々ナリト其報告ノ例ハ別冊戊號ニ詳カナリ

名譽領事ヲ選舉スルニハ各其商業ニ關係チ有スル地方ノ商法會議所ニ附シテ推選セシム就中アンゾニス港ノ商法會議所ノ意見チ尤モ採用ス素ヨリ本國公使駐在ノ國ニ在テハ公使ノ意見チ參酌シテ之カ任命チナス此場合商法會議所ニ通議シテ(案ヨリ商法會議所相互ノ間ニハコト)其人物財產品行等ノ事ヲ取調ヘ愈白耳義國ノ領事トナシ有益ト認タルモノヲ推舉スルナリ

名譽領事ノ事タル素ヨリ多數ノ望人有之モノニ付直ニ任命スレハ甘シテ之ヲ奉セサルモノナキハ勿論ナレハ白耳義國政府ヨリ直ニ本人ニ任命シテ後本籍ノ政府ニハ該國駐在ノ白耳義國公使ヨリ通報シ公使ナキ國ニテハ外務省ヨリ通知スルヲ以テ式トス但佛國ノ東洋屬地ノ分ハ當初佛國政府ト協議濟ノ上ニアラザレハ任命スルヲ得ス是レ佛國西國ノ爲メ計ルヨリ寧ロ白耳義國ノ利ヲ計ルノ傾キアランナリ恐ルレハナリ

名譽領事ヲ任命シタルモノニシテ免職スヘキ場合四種アリ第一老年

又ハ疾病ノ爲メ其職ニ耐ヘサルモノ第二領事ノ職ニ當ラサルモノ第三不品行成ハ家産ヲ敗リシモノ第四白耳義國ノ體面ニ損チ負ハスルモノ是ナリ而シテ其第一ハ名譽ヲ得タル退職トス第二ハ旨ヲ論シテ辭職セシメ第三ハ直チニ免職シ第四ハ職任ヲ剝脱スルナリ然レトモ第二已下ノモノハ實際ニアルヲ甚稀ナリ蓋シ必無ト謂フヲ得ヘシ是レ任命ノ始メニ最モ推選ヲ謹シメハナリ

名譽領事ニハ別段ノ報酬ナシ只間接ニ商業上ノ信據ヲ得テ自家ヲ益スルモノ少カラス是レ隱然報酬ニ當ルヲ以テ各人競フテ此職ヲ奉セシムト企望スルノ風習ナリ但特別ノ功勞アルモノニシテ十ヶ年已上勤績ノモノニハ稀ニ勳章ヲ賜フアリ假令如何ナル功勞アルモノ十ヶ年已内ノ勤務ニテハ決シテ勳章ヲハ賜ハラサルナリ而シテ勳章ヲ賜フハ尋常ノ例ニアラス現ニ三十ヶ年モ無恙勤績スルモ勳章ヲ賜ハラサルモノ比々皆然リ

郵便稅電信料成ハ商品見本送致料ノ如キハ其實費ヲ支給シ他ハ筆墨

等ノ料ヲモ給スルナリ尤白耳義國公使館或ハ政府へ特ニ呼出スカ
 如キ場合ニハ相當ノ旅費ヲ給與ス
 已上ハ領事任免配置ノ概況ナリ若夫職務上規程等ノ如キハ別冊甲號
 ニ詳カナリ
 白耳義國ニハ政府躬ヲ本國ノ美事ト誇稱スル處ノ商業博物館ナルモ
 ノアリ其設ケタル商工業者ヲ保護スル無上ノ政策ナルカ如シ其趣向
 ハ五大洲各地ノ物産中ニ就キ荷クモ白耳義國人民ニシテ商業ニ工業
 ニ從事シテ益ヲ得ヘキ物品ト認ムルモノハ悉ク其國ニ在ル領事ヲシ
 テ見本ヲ購入シ且價值需用ノ區域好尚ノ點荷造ノ仕様運賃及通貨ノ
 格位等其他之ニ關スル要用ノ事柄ヲ詳悉ニ具シテ報道セシメ之ヲ陳
 列スルモノナリ
 商業博物館ニハ前陳ノ見本ヲ陳列シテ之ニ番號產地賣捌先及略解説
 等ヲ標附シ加之運賃其他ノ詳悉ヲ列記シタル列品目錄ヲ備ヘテ商工
 業或ハ農業者ノ參考用ニ供シ猶且其辨解ヲ與ヘテ當業者ニ隔靴ノ思

ヒアラサラム其陳列ノ方法ハ三層ノ石室ニシテ每階其類品毎ニ區
 域ヲ陳列セリ而シテ陳列品ハ望ニ應シテ之カ幾分ヲ分割シ無料ニ
 テ之ヲ與フ所謂其品ヲ座右ニ置テ講究セサルヲ得サルモノ、意ヲ滿
 タスニアリ
 列品目錄ハ一ハ國別ケニス例セハ佛蘭西或ハ日本トシテ該國ノ物品
 ヲ集録スルナリ一ハ品物別ニス例セハ羅紗ノ部ヲ佛蘭西ノ羅紗英ノ
 羅紗ト列記スルナリ其冊首ニ索引ヲ附ス但索引ノ部ハ色違ノ紙ヲ以
 テスルハ尤注意ニ出タリト
 列品ノ説明ヲ聞カントスルモノハ二階ナリ三階ナリ其階ニ備ヘタル
 呼鈴ヲ押セハ直チニ吏員其場ニ至リ詳悉ノ説明ヲ示ス如斯ハ時間則
 チ金貨タル貴重ノ時間ヲ商工業者ニ費サシメサルノ注意ナリト
 列品場ノ出入ニハ別ニ吏員ニ斷ル事モナシ個ハ成ルヘク隨意ニ便理
 ヲ得セシムルヲ主トセリ
 列品場ノ傍ラニガラス天井ノ一室ヲ設ケ之ニ五大洲各地ノ商工業雜

誌報告類ヲ蒐集シテ縱覽セシムルノ備ヘアリ(此雜誌報告ハ交換ノ爲メ購入スルモノ)該室ニハ各國ノ商人錄其他ノ書籍ヲモ備ヘタリ
 如之商工業者ニシテ某國某品ノ見本或ハ運送賃或ハ需用ノ數量或ハ好尚ノ點或ハ荷物ノ仕様等何事ニ依ラス商工業上必用ノ取調ヲナシ度望ヲ以テ本館ニ申出ルモノアルトキハ直チニ外務省ハ其手續ヲナシ速ニ其便宜ヲ與フルニ勉ムルナリ其事務ヲ執ルモノ本館内ニ四名ノ吏員相詰居レリ
 本館ハ今チ距ル三年前ノ創設ナリ其初メ千八百八十年ノ博覽會ニ基ヒセリ當初假リニ其形ヲチナセシニ大ニ當國ノ人心ニ投セシチ以テ遂ニ本館ヲ設立スルニ至レリ爾來熱心シテ周旋シ年一年ヨリ盛大ニ趣キタリト云
 其一ケ年ノ經費ハ官吏ノ給料(官吏ハ六名ニテ其額多クナリト聞ク)ヲ除キ貳萬五千法ナリト云
 此館ノ設カタル美舉善策ト稱セラレタリ即チ則チ本館ニ取リ其設ケ

チナスモノ歐洲中已ニ三ケ國ニ及ヘリト云
 而シテ物品ナルモノハ自ラ流行アリ新陳代謝セサルヲ得サルヲ以テ其陳ニ屬スルモノヲ除キ其新クナルモノヲ加ヘ且價值モ日新ノモノナレハ時々其時價ヲ取調ヘテ商業者ノ便ヲ闕カサラシム但時價萬一ニ實際上差違ノアリトモ政府ハ素ヨリ其責任ヲ負擔スルニハ非ラスト云猶列品目錄樣式等詳細ノ如キハ別冊乙號丙號ニ詳カナリ
 商業博物館ニ於テ毎周一回本館雜誌ヲ土曜日ニ發刊シテ商業者ノ便ニ供ス斯ノ雜誌ハ七百部ヲ政府ニ無代上納セシメ之ヲ地方廳郡廳公使館及必用地ノ領事ニ送附ス此雜誌ハ印刷會社ニ附シテ發刊セシメ自由販賣ヲ許ス尤雜誌中ニ政府ノ記事ヲ載ルカ故ニ若干ノ保護金ヲ與フト云其實捌代價ハ五十參ナリト云其詳細ノ例ハ別冊丁號ニ詳カナリ

歐洲巡回特報第十二號 (比律悉府發)

明治十九年八月廿三日

白耳義國農區及巡回教師

白耳義國ハ全國ヲ九農區ニ別ツ該區ハ必シモ行政上ノ區域ニ係ルニ
非ラス主要ハ同土質同氣候ニ依ルモノニシテ所謂物産區域ナルモノ
ナリ(然レトモ成ルヘク行政ニ依ル)每農區ニ一名ノ巡回教師及一名ノ巡回教師補
ヲ置キ其地方ニ在任セシム此教師及補ハ白耳義國農業大學校ニ於テ
卒業セシモノニシテ猶卒業後二ケ年間ノ實地經驗ヲ經タルモノ、中
ヨリ實地上ノ試験ヲナシ其任ニ適當ノモノヲ選抜シテ任用スルノ法
ナリ其任命ハ國王ヨリス但教師補ハ教師ニテ手廻リ兼スルノ月ノミ
勤務セシムルモノトス

巡回教師職掌ノ大要ハ如左

一土地ニ適當スヘキ農業仕方ノ事

一 種子物選方ノ事
 一 農具器械用ヒ方ノ事
 已上ノ事ヲ説示シ及誘導スルモノトス

一 農區内ノ試験圃指揮ノ事
 一 試験圃ノ長結果ヲ公示シ受持農區内ニ行ハレシムル事
 一 試験圃ノ景況ヲ監督官ニ毎月報告ノ事

農區内ニ試験圃若干所ヲ置シ(方今全國ニ六百ヶ)該試験圃ハ素ヨリ民有地ニ就キテナスモノナレハ耕耘其他ノ勞力悉ク所有者ノ負擔ニシテ官ニ在テハ只良キ種子物ヲ選ヒ與ヘ(種子物ハ購入ノ際ニハ附與セズ必ス肥料ヲ給シ及ヒ耕耘ノ改良法ヲ示スニ在リ)試験圃ハ斯ノ保護ヲ請ケタル報酬ニハ該圃ニテ收穫シタル種子物若干ヲ官納スルヲ以テ義務トスルナリ

試験圃ハ必ス一區ノ半地ニ本人ノ舊慣法ヲ以テ耕耘施肥セシメ残り半地ニ改良法ヲ行ハシメ(種子ノ試驗、肥料ノ試驗、耕耘ノ試驗等種々)其長結果ヲ眼

前ニ顯ハシ然ル後其理由ヲ學術上ニ照シテ説示ス是レ人民誘導上最モ便宜ナルモノニシテ此法ヲ設ケテヨリ農事ノ進歩ハ實ニ著大ナリト云

試験圃ニ用フヘキ良種子物及肥料ハ(調合書ヲ添ヘテ)巡回教師ヨリ農業監督官(本省内ニ農區監督官)ヘ請求スレハ監督官ヨリ之ヲ送致ス但監督官ハ毎ニ各農區内巡回勝ナルヲ以テ一名ノ屬官在廳シテ之ヲ辨ス尤肥料調合ノ爲メニハ貳名ノ調合方ヲ使用ス(從來ハ各地方ニテ肥料調合配達スルノ經濟ナルニ如カサルヲ以テ今般)試験圃ハ志願人ヨリ主務卿ヘ願出ツ省中ニテハ監督官ノ主務ナレハ監督官ヨリ該地ノ巡回教師ヘ質シ其急不急ヲ計リテ之カ許否ヲナス(全地農家ニ就キ試驗圃ノ得失ヲ圖クニトノ眼ヲナリ)巡回教師ハ農區内ニ豫テ主務省ヨリ指定セル農業演説所(主務省ハ各農區内ノ村落ニテ年々輪轉シテ其急要ノケ)ニ於テ現業上ニ係ル演説ヲ所ヲ選定シ一農區五ヶ所以上ノ演説所ヲ指定ス(ニ於テ現業上ニ係ル演説ヲナス其度數ハ該地方人民ノ適度ニ應シ一ヶ年二三回乃至七八回ニ及フ)アアリ但牧畜地方ニテハ二十回以上ニモ及フアアリ是レ牧畜ハ其作用多クレハナリ尤稍人智開達ノ地方ニテハ度數ヲ減シテ其地方ノ

人意ニ適セシムト云
 巡回教師ハ隨時人民ノ需メニ應シテ演說或ハ説明ヲナシ(巡回教師ノ受
 給額ニ用算スヘキ農區ノ割合ニテシテ)場合ニ依リテハ農業者ト俱ニ
 角農區ノ大ナルハ實際ニ不便ニシテ(現ニ)場合ニ依リテハ農業者ト俱ニ
 現業ヲ執リテ之ヲ教フルナリ(現ニ)場合ニ依リテハ農業者ト俱ニ
 現業ヲ執リテ之ヲ教フルナリ(現ニ)場合ニ依リテハ農業者ト俱ニ
 巡回教師ノ年給ハ當初三千法ニシテ漸次功勞ヲ積ミクルモノニハ四
 千法迄ヲ給ス教師補ハ一ヶ月貳百法宛ヲ勤務セシ月數ニ應シテ之ヲ
 支給ス全國ニ肥料及租子物分析所八ヶ所アリ(方今九農區中一ヶ所ノ開
 支中ナリト聞ク)其詳細ハ後報ニ讓ル
 農業上ニ關シ巡回教師ノ職掌ハ前ニ掲ケルカ如クノ區域ナレハ他ニ
 専門學士ヲシテ演說セシムル法アリ(例ヘハ牛馬ノ衛生法ト云)此場合ニ
 ハ演說者其土地ノ人ナレハ一回三拾五法他地方ノ人ナレハ旅費ヲ込
 メテ五拾法ヲ主務省ヨリ給與ス但此演說ヲ願出ルモノハ前年中ニ其數
 ナ取關ヘ定額金ニテ支辨シ得ヘキ程ヲ急要ノ地ニ就キ許可スルナリ

歐洲巡回特報第十三號 (白耳義國比律悉府發)
 明治十九年八月廿八日

白耳義國農業監督官及農務委員

一 農業監督官 一名 屬官 一名
 此監督官ハ農務局中ニアツテ局長ト同位置ナリ(農務局中ニ農務製造
 ハ製造ノ事ヲ擔當ス農務監督官ハ是ト同位置トス)卿ヨリ命ヲ請ケ局長ニ
 協議シテ事ヲ執ル其擔當ノ事務ハ如左
 一 農學校、果樹學校、花園學校及分析所
 一 農區巡回教師
 一 農區試驗圃
 一 農務委員
 已上ノ計畫及實際ノ適否ヲ鑒ミ其得失ノ責ニ任ス故ニ監督官ハ每
 ニ實際ヲ巡視スルモノニシテ在廳ノ日ヲ少シトス

此監督官ハ農業大學士中特ニ優等ノ學識アルモノニシテ數年巡回
教師又ハ農務官ニ奉職シ其經驗卓越顯著ナル人ヲ選ミ國王之ヲ任
命ス尤其官等ニ應スル俸給官務トモ一般ノ官員ニ同シ
一上等農務委員九名

此委員ハ一農區一名(一州一縣ニシテ)國王之ヲ任命ス但時宜ニ依リ
國王ハ定員外ニ五名乃至六名ヲ増置スルコトアリ此委員ハ己レノ
選舉セラレタル農區ノ委員タル資格ニ止マラス全國ノ農事上ニ
就キ事ヲ議スルノ權アリ尤此委員ハ必ス其農區ノ居住人トス
此委員ハ名譽官ニシテ無給ナリ但特ニ政府ヨリ上等委員會ノ爲
メ招集スルコトアルトキハ一日拾貳法ノ膳料及每五基「メートル」ニ
法ノ旅費ヲ支給ス
委員會議ニ係ル筆紙墨其他ノ諸費ハ政府ヨリ之ヲ支辨ス
上等委員會ヲ要スルノ場合ニハ主務卿ハ其事ヲ令達シテ會同セ
シムルナリ(方今ニ至リ農區委員ノ制度能ク行届タルヲ以テ卿ノ

參考ニ供スルノ報告等毎ニ充分ニシテ殊ニ農務工務兼工部卿ハ
特ニ老練ナルヲ以テ農產物ニ賦稅スル等ノ場合ヲ除キ上等委員
ヲ會同セシムルコトナキニ至レリ)

一書記一名

此書記ハ上等委員ニ屬スルモノニシテ政府ヨリ年給千五百法ヲ
給ス但此勤メハ何人ニテモ平常ハ私宅ニテ其用ヲ辨シ及開會ノ
時ハ筆記ヲナスモノトス但人選ハ委員ノ推選ニ依リ主務卿之ヲ
命ス

一農區委員拾八名

此委員ハ一農區二名宛ニシテ國王之ヲ任命ス但必ス其農區内ノ
居住人トス

此委員モ亦名譽官ニシテ無給ナリ但政府ヨリ特ニ事ヲ命シテ巡
回セシムルコトアルトキハ膳料及ヒ旅費ヲ支給スルコト上等委員ニ
同シ(當初一農區三名ノ委員ヲ選ヒ其中ヨリ一名ヲ復選シテ上等

委員ニ充テ殘二名ハ即チ此農區委員トナルモナリ
 此委員ノ中ヨリ三分ノ一已内ハ巡回教師ニ選舉セラレ得
 一 小農區委員定員ナシ
 此委員ハ一村又ハ數村ヲ聯合シテ便宜ニ小農區トシ每區ニ委員
 一 此委員ハ其受持區内農事ノ改良進歩ヲ圖リ及主務省ニ對シ農業
 上ニ就キ細大ノ通信ヲナスノ義務ヲ負擔セシム
 小農區委員ノ集會ニハ農業監督官臨席シ委員ノ意思ヲ善導ス
 一 此委員ハ其受持區内農事ノ改良進歩ヲ圖リ及主務省ニ對シ農業
 上ニ就キ細大ノ通信ヲナスノ義務ヲ負擔セシム
 小農區委員ノ集會ニハ農業監督官臨席シ委員ノ意思ヲ善導ス

歐洲巡回特報第十四號 (白耳義國比律悉府發)
 明治十九年九月八日

白耳義國農工業者協會ノ典章
 農工業者ニ協會ヲ授與スルノ典ハ千八百四十七年十一月ニ布告セル
 法律ニ依ルモノニシテ其授與スヘキ種類ハ左列如シ
 一 自作農業者及農業ノ被傭人
 一 製造ノ職人、職人小頭及職人大頭
 一 漁業者
 一 職人病難保險會社長、書記取締等ノ社役員及社員
 備考 此會社ハ社員(職人及被傭者)各一月一法又ハ二法ヲ積ミ職人中病難
 フルトキハ一法ヲ積ミタル職人ニハ罹病中ノ一日一法宛ニ二法ヲ
 積ミタル職人ニハ一日二法宛ヲ給與スルノ法ナリ猶病死ノ職人
 ニハ葬式ノ費用ヲ助ケ又ハ別ニ社員銘々一法或ハ數法ヲ適宜義

捐之ヲ集メテ其遺族ノ困難ヲ濟シ或ハ業ニ就カシムルノ資本トナスナリ此會員ハ職人ノ外ニ身元健ナル慈善家及上流ノ官員モ之ニ加ハリテ誘導補助スルナリ(現ニ元老院議員某氏ハ某社ノ取締役ニ農務局次長ハ書記ニ推選セラレ數年勤績ヲ職人等ノ方嚮ヲ善誘スルニ勉ムルナリ)

一職人病難救助會社ノ社長書記取締等ノ社役員及社員
備考此會社ハ慈善有志者ヲ以テ成リ立テ職人ノ疾病アルトキ醫師ノ診察及藥劑ヲ給與シテ介抱スルモノナリ

褒章ハ一等金章二等銀章ノ二種トス褒章ニハ其功績ヲ記シタル褒狀ヲ添ニ(褒章褒狀ノ實物ハ別ニ郵送ス)

褒章ハ當初二等章ヲ賜フ但特別ノ詮議ヲ以テ一等章ヲ賜フモノハ此限ニアラス

二等章ヲ賜フタルモノニシテ猶優等ノ行爲アルモノニハ一等章ヲ賜フ但此場合少シモ十ヶ年ヲ經歷セサルヘカラス

褒章ハ農務製造土木卿ノ奏上ニ依リ國王之ヲ許可シ每歲八月十五日即チ國祭日ヲ以テ國王及女王臨場シ主務卿及關係ノ上官列席ノ上之ヲ主務卿ヨリ授與ス

此褒章ハ男女ニ限ラス但三十歳未滿ノモノニハ賜ハラサルノ法ナリ然レトモ特ニ人ノ龜鑑トナルモノアルトキハ此限ニアラス

褒章ヲ賜フヘキモノ、申立及調査ノ順序ハ左ノ如シ

一雇入主人ハ我カ雇入ノ善行ヲ舉ケテ賜章ノ申立ヲナスコトヲ得一戸長、農區委員、及農業會社ハ人ノ善行ヲ舉ケテ賜章ノ申立ヲナスコトヲ得

已上ノ申立ハ縣令又ハ主務卿ニ申立ルナリ但主務卿ヘ申立タルノ場合ニハ之ヲ縣令ニ附シ戸長ニ移シ(縣令ヘ申立ノトキモ亦タ戸長ニ移ス)詳細ニ其事歴及刑法ニ觸レタルコトナキヤテ取調シム戸長ハ取調書ヲ縣令ニ呈出ス

縣令ハ戸長ノ呈出セル調書ヲ農區委員及病難保險會社若シハ病難

救助會社ニ附シテ之カ意見ヲ諮問ス(製造業ニ係ルモノハ別ニ委員ナキヲ以テ農區委員ニ諮ラカ如キ此一段ノ手順ノミハ無之)

褒章ヲ賜與セシモノヲ顯揚ノタメ姓名、出生地名、年月日、職業及賜賞功績ノ摘要ヲ官報ニ掲載シテ國民一般ニ告知セシム

褒章ヲ授カリタルモノハ名譽甚重シ前日トハ殆シト別人ノ如キ他人ノ敬愛及信據ヲ得ルノ風習トナレリ殊ニ政府ニテハ村會議員ノ選舉權ヲ附與ス(制限選舉ノ制限ニ)又西部ノフランドル縣ノ如キハ政府ノ斯ノ褒章ニ附帶シテ縣費ヲ以テ年金五十法乃至七十法ヲ給スルナリ各縣々トモ博覽會共進會ニテハ優待ノ爲メ此褒章ヲ帶ヒタルモノニハ通券料ヲ徴セサルモノ屢々アリ

(已上ノ二例ハ政府ノ法律ニテ定メタルモノニアラスト雖モ獎勵上甚効アリテ漸次普及ニ至ルヘシト云)

褒章ノ人員ハ千八百四十七年ノ法律ニテ一等二百人二等八百人ト制限セシモ千八百八十年ノ法律ニテハ一等五百人二等千二百人ト改定

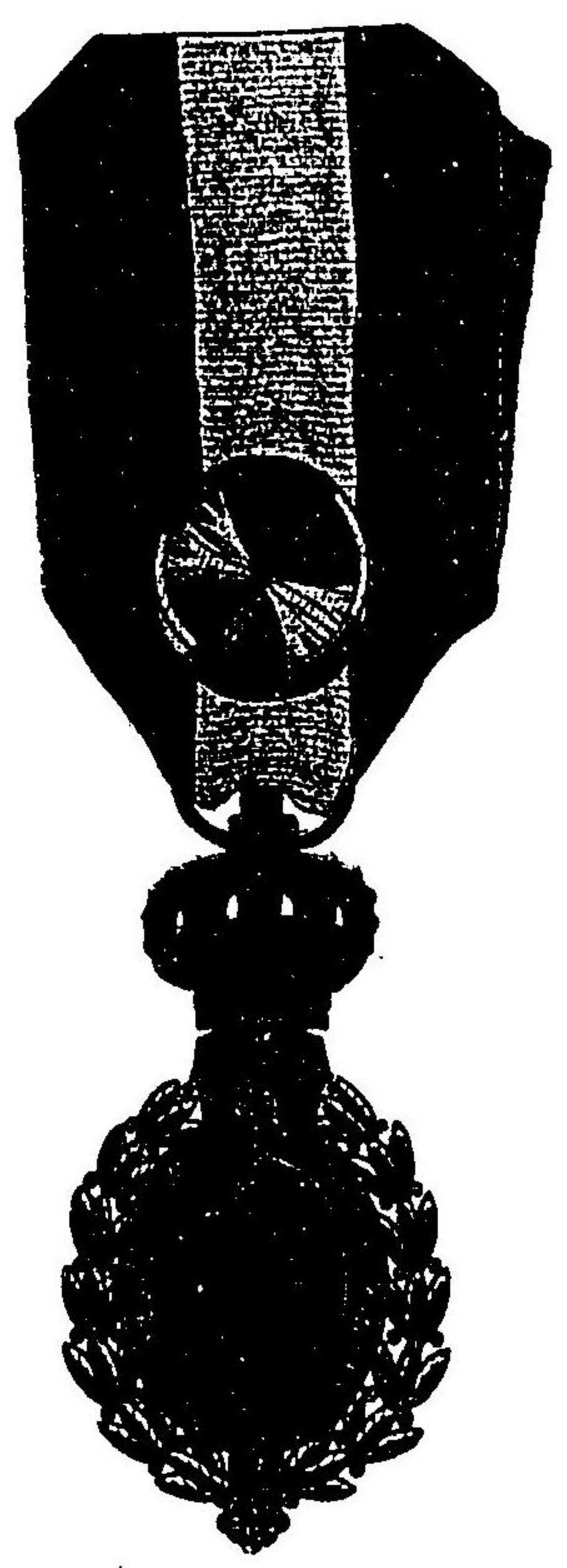
セリ

褒章授與式ノ招集ニハ往返トモ運車無料ノ乘客切符ヲ附與シ此切符料ハ主務省ヨリ支辨ス且其妻子同行シテ臨場ヲ望ムモノニハ妻子ヘモ本人同様ノ無料切符ヲ附與ス(是レ其榮譽ヲ請ケシムルノ満足ヲ與フルカ爲ナリト聞ク)

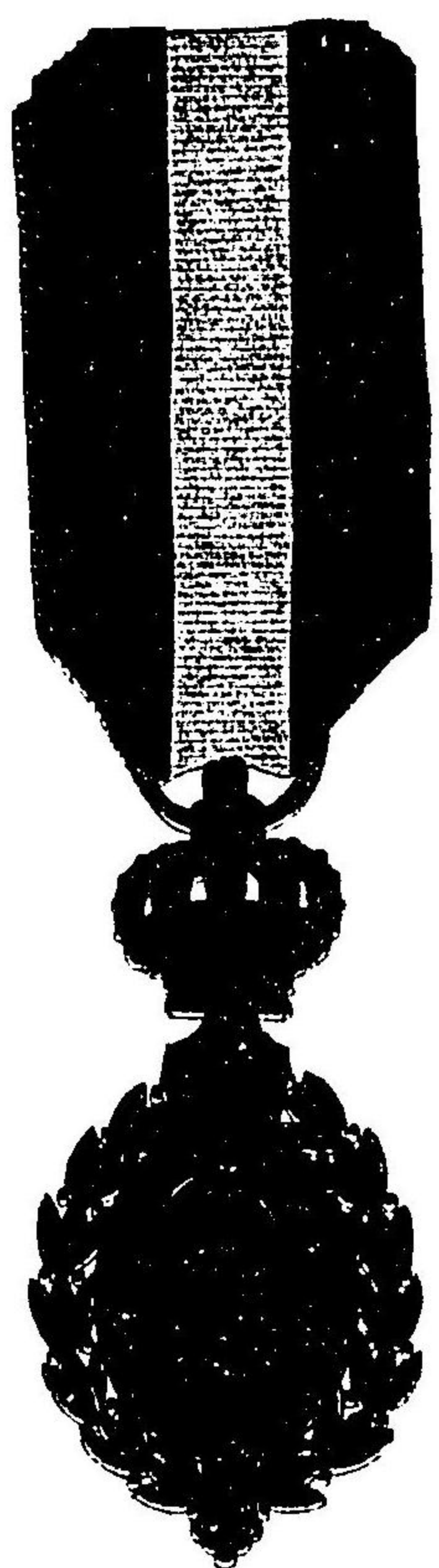
式場ニハ近衛樂隊ヲシテ樂ヲ奏セシム(式場ニハ通券ヲ許ス)因ニ云式場ニテ主務卿ヨリ褒章ヲ授カリタルモノ(女ニハ脚手ヲ授章ワ首ニカケ遊遊手ヲナシテ本人ヲ満足セシム)壇ヲ下リ國王ニ敬禮スレハ國王ハ拍手ノ形ヲナシテ之ヲ賞賛シ女王ハ首ヲ傾ケテ之ヲ愛顧ス是レ本年ノ式場ニ拙官モ主務省ノ案内ヲ請ケ大禮服着用主務省上官ニ陪席シテ實際ニ目撃スルヲ得タルノ現況ヲ附記ス

大農業家ニシテ多人數ノ農夫ヲ傭入ル、モノ及大製造家ニテ多人數ノ職工ヲ使用スルモノ等ニテ功績アルモノニハ一般ノ勳章ヲ賜フモノニシテ此褒章ヲ賜フヘキ限ニアラス

白耳義國農工業者工賜フ一等褒章ノ圖



白耳義國農工業者工賜フ二等褒章ノ圖



白耳義國農工業者へ賜ふ褒記



Recompense nationale
habileté
et
moralité

Nationale belooning
bekwaamheid
en
zedelijkheid

Par Arrêté Royal du
15 août il a été décerné à
Mademoiselle R
domicilié à Gembloux
âgé de 63 ans, la décoration de
2^e classe instituée par
l'Arrêté Royal du 1^{er} Mars 1848

Bij Koninklijk besluit
van is aan
servante de ferme
Woonachtig te
oud jaren, verleend het
eereteken van Klasse door
Koninklijk besluit van 15 august

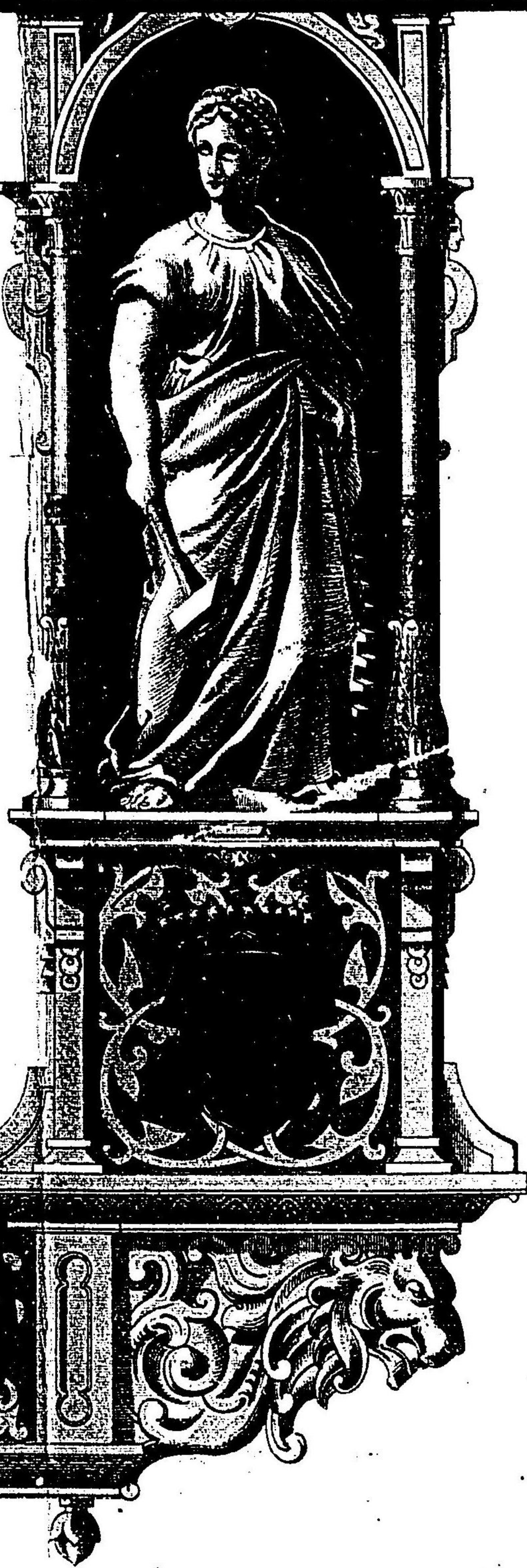
譯文

ジヤンブ
農家

農業者ノ老練及徳義ヲ賞セン
一日ノ勅令ヲ以テ制定セル第
勅令ニ依テ授與スルモノナリ
千八百八十六年八月比律

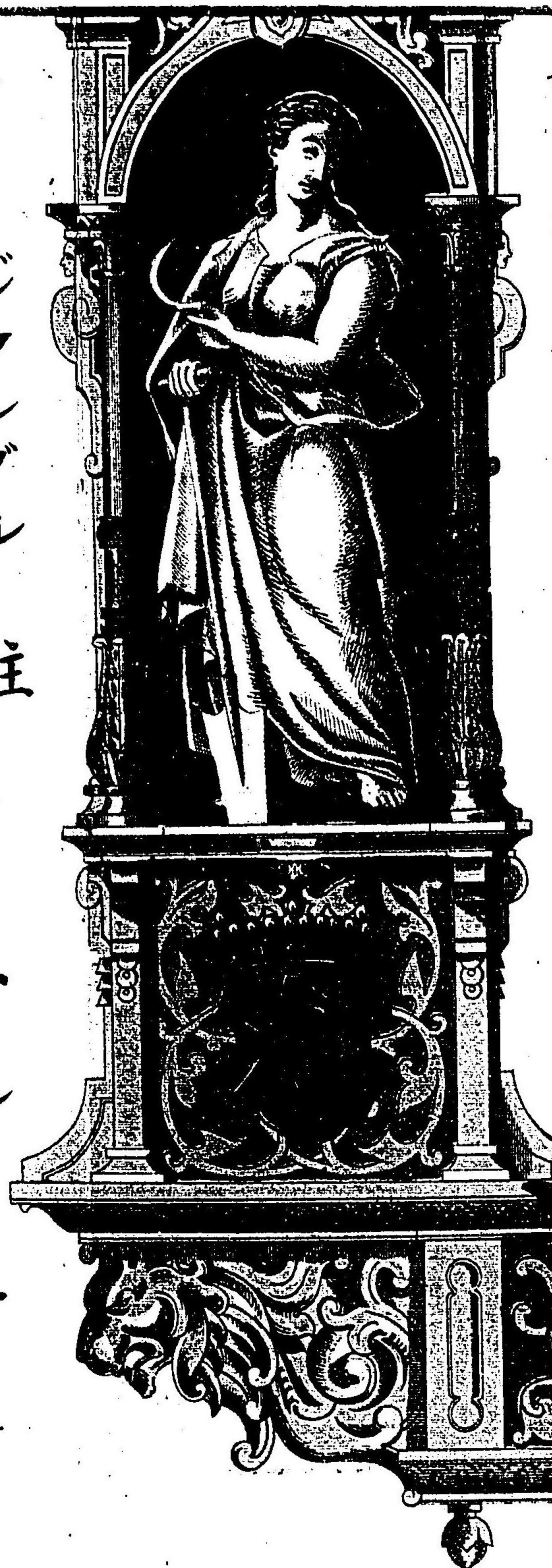
石へ賜フ褒記ノ圖

褒記中ニ二様ノ文アリ一ハフラマン語ニシテ
 一ハ法朗西語ナリ然ル所以ハ同國ニ二様ノ
 語並ヒ行ハルレハナリ



van is aan
 servante de ferme
 woonachtig te
 ond jaren, verleend het
 ereteeken van Klasse door
 Koninklijk besluit van 1^{ste} Maart
 1848; ingesteld om de bekwaamheid
 en de zedelijkheid der landbou
 wers te beloonen.
 Brussel, den 188
 De minister van landbouw,
 nijverheid en openbare werken

15 août il a été décerné à
 Mademoiselle R
 domiciliée à Gembloux
 âgée de 63 ans, la décoration de
 2^e classe, instituée par
 l'Arrêté Royal du 1^{er} Mars 1848,
 pour récompenser l'habileté
 et la moralité des travailleurs
 agricoles.
 Bruxelles, le août 1886
 Le ministre de l'agriculture,
 de l'industrie et des travaux publics.



ジヤンブル一住
 農家被雇職
 工ル 某
 當六十三年

德義ヲ賞センカ爲メ一千八百四十八年三月
 テ制定セル第二等褒章ヲ八月十五日ノ

ハスルモノナリ
 六年八月比律悉ニ於テ

農工務兼工部大臣

Chromolith. artistiquee pichot Larin Bruxelles

歐洲巡回特報第十五號 (白耳義國比律悉府發)

明治十九年九月廿日

白耳義國統計ノ調査

統計ノ調査ハ凡ソ十ヶ年毎ニ一回トス其事ハ隨時布告ヲ以テ之ヲ定ム(即チ千八百四十六年千八百五十六年千八百六十六年千八百七十六年千八百八十六年千八百九十六年)但毎年農産物ノ調査ハ別ニ農區委員ヨリ報道スルモノヲ以テ其收穫高ヲ購ルト云

統計ハ左ノ三大目ヲ以テ全國ニ通シテ調査スヘキモノトス

一人口ノ調査

一農業上ノ調査

一製造上ノ調査

統計調査ノ經費ハ悉皆政府ノ政費ニシテ千八百八十年ノ調査費ハ九百萬法ヲ要シ國庫ヨリ支出セリ其費目ノ大別ハ左ノ如シ

一調査費

一印刷費

一諸給料及旅費

統計調査ノ基日農産物ハ(九月十五現在)製造物商業及人口ハ(十二月卅一)トセリ

統計調査ノ爲メ千八百八十年ニハ政府中臨時一局ヲ設ケ町村ニモ臨

時委員ヲ設ケケリ但町村ノ委員ハ主トシテ小學教員ヨリ選ツ是レ教

員ハ其事理ヲ辨スル者コソテ教師其人モ亦本務ノ外ニ若干ノ報酬ヲ

得ヘキ兩便アレハナリ

農業上ニ關スル統計ノ主要ハ左ノ如シ

一農業者ノ人口但收畜農業ノ區別ヲナス

一開拓地及未開拓地但開拓地ハ植物植付種ノ區別ス

一森林但森林ノ調査ハ政府ノ官吏ニテ之ヲ熟知シ居レハナリ

一牛馬但從前ハ鶏犬ノ如キモノ迄モ取調ヘタリシモ千八百八十年ニハ之ヲ省クリ是レ調査ノ煩ニレナク其煩ヲ取ルヘキ程ノ實益ナクレハナリ

一土地ノ價值但土地ノ價值ハ其ノ用途ノ別ニテ異ル

一土地賃借料及傭人給料但土地賃借料及傭人給料ハ其ノ用途ノ別ニテ異ル

調査ノ主要土地ハ新ニ丈量シ新圖ヲ製シ其他ノ取調總テ既往ニ泥マ

ス一新ノ實數ヲ得ルヲ以テ目的トス其調査ハ順序ハ左ノ如シ

一調査ノ事ハ前廣ニ布告ス但調査スヘキ要目ハ書式ヲ印刷シテ政

府ヨリ縣廳及支廳ヲ經テ村長ニ渡ス村長ハ該村ノ委員ニ附シテ

一人一枚宛ヲ配達セシム人民ハ配達シ來ル處ノ用紙ニ己レカ管

スル所ノ實數ヲ記入シテ十五日間ニ委員ニ返附スヘキモノトス

一人コテ數村ニ土地ヲ所有スルモノニハ其村數程ノ用紙ヲ渡ス

一村内ニテ幾區ノ土地ヲ所有スルモ用紙ノ配達及取纏一切本籍

ノ村ニテ取纏メ他村ノ分ハ村長ヨリ其地元ノ村長ニ送附スヘキ

モノトス

一村ノ大小ニ依リ十名以内ノ委員ヲ置ク

各村ノ委員ハ各受持部内ノ用紙配達及取纏メノ事ヲ擔當ス但配

達ノ際其記入スヘキ書式ヲ說示シ若取調上不可ナルトキハ之ヲ

訂正セシムル等總テ其責ニ任ス此委員ノ報酬ハ政府ヨリ用紙一

枚ニ付廿五(ヤ)ンナトシチ支拂ヘキモノトス

一 一村ノ統計ハ委員ノ差出シタルモノニ就キ村長コア之ヲ纏メ支
 廳長ニ出ス(直ニ縣廳ニ出ス)支廳長ハ所轄内ノ各村ヲ統計シテ縣令
 ニ出ス縣令ハ一縣内ヲ統計シテ政府ニ出ス但毎村ノ統計表ヲ添
 フルナリ

土地貸借料及雇人給料等ハ如キハ毎個別ニ調査シタル上一村一
 縣ノ平均ヲ仕出スヘキモノトス

一 政府ニテハ一町村一縣全國各詳細ノ統計表ヲ製シ猶且一目瞭然
 ノ簡明圖ヲ製シテ物産ノ盛衰其他ヲ區別シ易カラシム

斯ノ統計調査ハ國ノ盛衰物産ノ數量等ヲ識ルニアリテ賦税ノ事ニハ
 毫モ關係ナシ

斯ノ統計ハ其調査年ノ現數ヲ調フルモノナリ而シテ年々豊凶ニ因リ
 數量ノ増減アルカ如キハ別ニ毎年農區委員ハ調査スルモノニ依リテ
 政府ハ其平均數量ヲ仕出シ表面ニ併攝スルモノナリ

○附報

白耳義國ニテハ二ヶ年前ヨリテレガラフ線ヲテレホン線ニ併用スル
 ノ器械ヲ發明ナセシ人アリ漸次試用ノ上愈實効アルニ依リ即今ハ專
 賣特許ヲ得テ盛ニ之ヲ使用スルニ數十里ノ遠距離モ電話上少シモ差
 支ナシ故ニ歐洲各國中已ニ佛蘭西國ニテハ發明者ヨリ壹百萬法ヲ以
 テ佛蘭西全國ノ使用權ヲ買請ケ其他ノ國々ニモ競フテ試用スルコト
 ナレリト云其方法ハ別ニ靈妙ノ器械アルニ非ラス簡易ナル電話器ヲ
 以テ線ヲ電信線ニ密着セシムルニ過キス而シテ電信電話同時ニ併用
 シテ毫モ差支ナシ如斯費用ヲ要セスシテ便理ヲ得ルノ大ナル發明ハ
 實ニ希代ノ國益ト謂フヘシ此事ハ直接本省ノ事務ニ關係ナキカ如シ
 ト雖モ不可措ノ樞要件ト思考スルヲ以テ茲ニ附報ス

歐洲巡回特報第十六號 (白耳義國比律悉府發)
明治十九年十月一日

歐洲巡回特報第十六號 (白耳義國比律悉府發)
明治十九年十月一日

白耳義國アソツニス港商品陳列場

アソツニス港商品陳列場ハ曩キニ特報第十一號ヲ以テ報道セル
リコシセル府商業博物館ト稱其形ヲ均シシテ其性質ヲ異ニス然
レトモ兩者ノ關係モ亦離ルヘカラサルモノナリ而シテ(甲)商業博物館ハ政
府ノ設立ニシテ(乙)商品陳列場ハ本港有志者ノ發起市會議ノ可決ヲ以テ一
港市民ノ共立ニ成ルモノナリ
夫レ商業ノ原則ハ甲(製造者)乙(需用)ノ間ニ直接ノ貿易ヲナスニ利アル
ハ素ヨリ不俟辨ナリ然シテ從來我國ト歐洲ノ取引上交際ハ反之モノ
ニシテ其中間數多ノ仲買者及ヒ問屋様ノ手ヲ經ルニ隨ヒ原價ニ手數
料口錢及利益等ノ重疊トシテ加ハルモノハ甲乙兩者ノ損毛ニ非ス
テ何ソヤ

アンヴェルス港ハ歐洲著名屈指ノ良港ニシテ日々出入ノ貨物如雲輻
 湊シ其盛大ナルヲ實ニ人目ヲ驚カセリ如斯商業繁盛ノ地ニシテ各國
 商品ノ陳列場ナキハ頗ル失計ナルヲ感シ昨年來有志者奮テ此舉ヲ
 起ストトナレリト云

我國ノ產物及製造品ノ如キ未ダ親シク歐洲人ノ耳目ニ觸レシムヘキ
 器械アラサルハ甚遺憾トスル處ナルニ幸ニシテ本港ニ此舉アルハ我
 國產販路擴張ノ良器械タルヘキヲ以テ曩キニ本港ノシヤンドマン氏
 ヲリ展此陳列場へ出品ノ事ヲ本省へ勸告アリキ就テハ拙官東京出發
 ノ際統計課ヨリモ實際ノ取調ヲ托セラレタリ先般來白耳義國ニテ諸
 取調ノ序本港ニ至リ實際ヲ見聞ノ上反覆彼是ノ人ニモ質議シ傍ヲ考
 案ヲ下スニ實ニ其設ケノ善良ニシテ得アリ損ナカルヘキモノタルヲ
 信スルナリ

然レト雖モ我國ノ雜貨、陶磁、銅漆器等ノ如キハ從來屢博覽會ノ殘品其
 他商人ノ競賣上ヨリ徒ニ貨物ヲ輸出シ其販路ニ苦シ、遂ニ投ケ賣チ

ナシ或ハ不長質ノ品ヲ玉石混同シタル等方今歐洲各地ノ市上日本雜
 貨ノ店晒レモノ多ク殆ント歐人ナシテ其品物ヲ厭フニ至ラシメタル
 一ヲ見聞ス夫レ我國陶磁、銅漆器ノ需用ハ之ヲ歐洲人ノ日用品トナス
 ニ非スシテ珍貴ノ品トスルニアリ然ルニ富家貴族ノ貴珍トシテ續々
 高價ニ購入室内ノ裝飾物トナシタルモノハ豈計ラシヤ市店ノ晒物ト
 ナリ而モ其廉價聞クニ忍ヒサルノ投ケ賣アラントハ於是乎該品ハ貴
 族富家ノ裝飾品タルヲ得サルノミナラス甚シク嫌厭ノ情ヲ生スルニ
 至レリト如斯景況ナレハ陶磁、銅漆器ノ如キハ暫ク本場へノ出品ヲ見
 合スルヲ以テ得策トスヘシ

本場ノ陳列品ハ先ツ日用品ヲ以テシ而カモ其品物ハ政府ヨリ出品セ
 ス商賣營業者ヲ誘導シテ出品セシメ他日需用アルトキハ直チニ其人
 ヲリ取引ヲナスヘキ事尤肝要ナルヘシ然レトモ萬一商業者ニシテ見
 本ト實賣買品ヲ異ニスルカ如キ或ハ商業ノ眞理ニ基カス奇利ヲ得ン
 トノ奸計ニ出ルカ如キ一アラハ忽チ我國產ノ販路ヲ縮ムルノ媒介ト

相成ルヘキニ付夫此厚ク御注意アランコトヲ
 將ダ本港ニテ方今取引相成ルヘキ我國產物ハ概ネ左ノ種類ニアルヘ
 シ
 米、菜種、煙草、紅茶、絹織物、木蠟、魚油、礦物
 右等ノ品ハ陳列場へ出品アラハ蓋シ將來我國產販路擴張ノ端緒トナ
 ルヘシ

因ニ歐人某氏ノ忠告摘要ヲ左ニ掲ケ御參考ニ供セントス
 商賣品ハ一度世上ノ需用トナリタルモノハ將來之ヲ需用ヲ止ムル
 一能ハサルモノニ非サレハ商法ニハ相成ラサルナリ
 米ノ專賣者(三井物産會社ハ一ノ手ニテ日)アルハ日本ノ大不利益ナリ
 日本ノ製造品ハ特別ノ風韻アルモノナリ其證ハ歐洲人之ヲ模造ス
 ルモノ多キヲ以テ識ルヘキナリ然レハ日本ハ固有ノ美術ヲ保持シ
 テ模造品ノ企テ及ハサル處ヲ以テ守ラサルベカラス
 日本ヘノ歐洲人山店ハ日本直接歐洲人ノ注文ヲ請ケ又直接ニ注文

モサルカ爲メナリ若當陳列場へ國產ヲ陳列シテ毎ニ歐人ノ耳目ニ
 觸レシメテハ自然歐洲人ノ直注文ヲ請ケ而シテ正當ノ取引ヲナシ
 信據ヲ博スヘシ
 一度直取引ノ道開ケテハ歐洲人ノ日本出店ハ忽チ其利ヲ消滅スル
 ニ至ルヘシ
 從來日本ノ爲メニ力ヲ盡スト已ニ十ヶ年ニ涉レルハ只此直接貿易
 ノ目的ヲ達センカ爲メニ外ナラス其目的ヲ達スヘキノ方便ハ商品
 陳列場ヲ措キテ他ニ手段アルナシ

商業博物館(特報第十號ニ記シタル件ヲ云)ヲ白耳義國ニ創設シタルハ萬國ニ先立タ
 ルモノニシテ爾來歐洲ノ國々漸ク其例ニ倣フニ至レリ是レ其設ケ
 ノ必用トスル實證ナリ
 アンゾニル港ハ世界商業ノ中心ナレハ今度創設ノ陳列場モ亦世
 界ニ魁シテ設置スルモノナリ
 日本出品ノ專ニ就テハ歐人某氏自ラニ委託セラレンコト然ルルハ

其品物ハ特別ニ監護シ之カ販路ノ周旋ヲモ懇切ニスヘシ
 委託スヘキコトナラハ其事ヲ内外國人ニ對シ信據ヲ保證スヘキ手
 段即チ新聞紙其他ニ公告ノ手數ヲ日本政府ヨリナサ、ルヘカラス
 品物ハ度量ニ依リ直段ヲ附スヘシ其直段ハ横濱若及荷造積込一切
 ノ費用ヲ込メ横濱港ニテ船ニ積込濟ノ上ノ原價ヲ記スヘシ尤モ物
 價ハ時々變動スヘキモノナレハ實際取引ノ際ハ必ラス相互ノ問應
 答ヲ爲スヘキモノナリ
 賣上代價百分ノ三ハ賣人ヨリ委託者即チ某氏ニ手數料ヲ拂ハサル
 ヘカラス
 直取引ヲナサ、ルノ失ハ一ニシテ足ラスト雖モ嘗テ屑系ヲ日本ヨ
 リ龍動ヲ經テアソヅエル港ニ送リ來レリ其運賃ハ直接ナレハ七
 磅ニテ相當ナルニ轉々手數ヲ經テ終ニ五十四磅ノ運賃トナレリ如
 斯ハ其迂濶ニ驚入リ又日本國ニテ不注意事モ多キ中ニハ原價若
 干トシテ其原價ハ何レノ地ノ原價ナルヤ荷造及横濱迄ノ運賃ヲモ

不込シテハ日本内地ノ運送賃及諸掛リ等幾干掛ルヤハ歐洲人ノ議
 リ得サル處ニシテ如斯迂濶ノ原價ニテハ商業上ノ取引ハ出來サル
 ナリ又目錄ノ度量ニ日本文字日本度量ニテ申越シタル事アリ殆ン
 ト困却如何トモ成ス能ハサリキ自カラモ五ヶ國ノ語ハ辨スレトモ
 未ダ日本語ヲ識ラサルカ爲メナリ商品陳列場ノ規則ハ已ニ(統計課)
 即チ現今ノ報告課ヘ送致セリト

拙官モ陳列場ヘ該委員并シンドマン氏(同氏モ亦委員ノ一人ナリ)ヲ同
 行シテ實際ヲ目撃スルニ昨年萬國博覽會ノ際佛蘭西國ハ自國ノ出品
 館ヲ建築シタリ其建物ヲ其儘寄附シタルモノヲ商品陳列場ニ用フル
 ナリ此建築ハ異様ノ建物ニシテ博物本館ノ左脇ニ在リ方今ハ創設ノ
 當坐ニテ未ダ充分整頓セス然レトモ本港人心ノ熱中スル處ナレハ其
 場ハ漸次如何様ニモ擴張スヘシト云
 陳列品ハ度量及方積ニ制限ナシ但洋度洋量衡ヲ用フヘシ日本ノ爲メ
 ニハ一區ノ場所ヲ與ヘ且其日本國商品ト題セル大額面又ハ每品ノ飾

箱其他硝子類ニ至ル迄悉ク該場ニテ引請ケ陳列シ毫モ費用ヲ徴スル
ヲナシト云荷物運送ノイハアンヅニス港ニベスト、コンバニナル
會社アリ毎月横濱アンヅニス間ノ航海船アリト聞キ拙官モ其會社
ニ至リ社長ニモ面會シ且其所々ニテ開調スルニ該社ハ確實盛大ナ
ルモノニシテ而モ社長ベスト氏ハ確實名望高キ人ナリ
因之觀之ニ博覽會等ノ如キ手數ト費用ヲ要シ而モ僅々日期アルノ陳
列トハ同日ノ論ニ非ラス我國産ノ販路擴張ノ爲メ實ニ不可闕ノ良器
械ト被考候

歐洲巡回特報第十七號 (陸參堡府發)

明治十九年十月十四日

需用品ヲ原價ニテ輸入スヘキ方便

世上ノ需用品ハ其用ニ適シテ價ノ廉ナルモノヲ選フヘキハ普通ノ原
則ニシテ商業ニ貫テ處モ亦之ニ外ナラサルヘシ然ルニ我國ノ海外ト
ノ商業ハ一種ノ變則ニ出テ海外商人ノ卒先シテ出賣ヲナスモノ之カ
得意トナリ當初已降法外ノ買買ヲナセシモ漸々海外ノ事情明ルナ
ルニ隨ヒ其代價モ稍平準ヲ得ルノ傾キトハナレリ然レトモ其傾キダ
ルヤ未ダ製造家ノ原價ニ當然ノ運賃諸掛リヲ掛ケタル價格ニ傾クニ
非スシテ甲乙丙丁轉々ノ手數料及ヒ口錢其他種々不相當ノ掛リモノ
相加ハルハ依然トシテ只出賣商人輩カ法外ノ利潤ヲ占メタルモノヲ
稍法外ナラサラシメタルニ過キサルナリ今ヤ海外ノ事情日ニ月ニ明
ラカニシテ最早是等出賣商人ニ利潤ヲ得セシムヘキノ秋ニ非サルニ

モ係ハラス實際ハ依然トシテ出賣商人ノ利ヲ專ラニスルモノアルハ未ダ製造所ノ原價ニテ購入スヘキ方便ノ備ハラサルカ爲メナルヘシ先般來歐洲巡回ニ就テハ各地ノ製造所ニ就キ其製造ノ次第及原價ヲ聞キ之ニ運賃諸掛ヲ加ヘ我國ノ仕入直段ト對比スルニ格外ノ懸隔アルカ如シ聞シ既往我國ヨリ某國人某國人ノ手ヲ經テ注文セシモノハ某ノ件ニテ幾萬圓某ノ件ニテ幾十萬圓ノ利益ヲ中間ノ取扱商人ニ得ラレシトハ之ヲ實際ニ照ラシ一入遺憾ノ思ヲ相増スト雖モ既往ハ不可遂將來ハ深ク愛ニ鑒ミスンハ非サルナリ

夫レ歐洲各地ニ製造所多シト雖モ自國ノ需用ニ超過シテ他國ノ輸出品ヲ製造スルノ許多ナルハ蓋シ白耳義國ニ及フモノ非サルヘシ其實證ハ舉國ノ人口ハ六百萬人ニ滿タスシテ其職工及家族ノ數ハ殆ント三百六十萬人ニ過クト云故ニ一ヶ所ノ製造所ニシテ地上ニ壹萬貳千人地中ニ八千人ヲ使用スルノ大製造所モアリ村々里々至ル處煙筒林立トシテ其煙ヲ遠望スレハ野戰演習ノ大砲ヲ連發シタル後ノ如ク滿

目噴煙ナリ該國ノ盛ニ製造所ノ煙筒ヲ見スシテ道ヲ往ント欲スルモ不能ナリト其製造ノ盛ナルヤ可謂ナリ就中重ナル製造品類ハ如左

鐵道ノ鐵具及蒸機、鐵橋ノ具、建築用ノ鐵具、木綿糸及織物、麻糸及織物、大小麻網及鐵刃金鋼、硝子瓶用、密用、砂糖、羊毛絲、色染粉、トタン板及瓦用鐵板トタン板、鍍シタル瓦及壁用、羅紗、帽子、蠟燭

如斯製造ハ盛ニシテ加之アンツェルス港ノ如キ歐洲大陸最一ト稱スル盛大完全ノ良港アルニモ拘ハラズ海外ニ對スル商業ノ思想ハ遠シ英獨ノ國々ニ劣レリトス畢竟殖民地ノナキカ爲メニモアルヘシト雖モ從來製造ヲ以テ利ヲ占メ他ヲ顧ルノ餘念アラサリシニ依ルナレヘシ故ニ其製造品ハ何レノ製造所ニテモ英人又ハ獨乙人ノ注文ニ依リ其注文者ノ商標ヲ附シテ製造スルモノ多シ英國ハ製造ニ著明ナルモノト雖モ白耳義國ノ製造所ニ注文シテ英國製ノ名ヲ以テ我國等ニ輸出スルモノ甚ク多シ然リ而シテ近年歐洲ノ不景氣ハ逐年切逼シ今ヤ殆ント製造家ノ利益ハ消滅ニ垂ントス

於愛乎從來製造ニノミ汲々グリ製造家モ方今ハ販路ノ事ニ思ヒ及
ホサ、ルヲ得サルニ至レリ一度其販路ノヲニ思ヒ及ホスハ需用者
ノ満足ヲ購フノ外他ニ方便アルヘカラス苟シモ需用者ノ満足ヲ購ハ
ント欲セハ品物ノ價格ヲ廉ナラシメサルヘカラス果シテ廉價ナラシ
メント欲セハ内外ヲ顧ミテ其省キ得ヘキ費ヲ省カサルヘカラスト雖
モ今ヤ内ニ省キ得ヘキノ費ナク然レハ只其外ニ顧ミテ轉々賣買ノ手
數ヲ省キ原價ノ儘ニテ需用國ノ商人ヘ直取引ヲナシ其中間種々ノ手
數料口錢及利潤ヲ省クノ一點ヲ覺ルノミ微官等尤モ愛ニ感アルニ就
キ往々各製造所ニ就キ上陳ノ理ヲ説クニ宛モ響ノ音ニ應スルカ如キ
同感ノ意ヲ表セサルハナシ
因ニ云從前ニ在テ假令上陳ノ理由ヲ説クモ白耳義國ノ製造家ハ決
シテ耳ニモ容レサルヘシト云何トナレハ當國ノ如キハ位置自カラ
歐洲文明ノ中心ヲ保テ而モ資本ニ富ニ製造ニテ充分利益アリ殊ニ
局外中立國ニシテ千八百七十年ノ拿破崙戰爭ノ前後杯ニハ兩國製造

ハ殆ント中止ノ姿トナルモ白耳義國ハ爲メニ製造品ノ數ヲ無數ニ
相増シ其利益ヲ占メタルノ率ヲ數フヘカラス如斯利潤ヲ從來ノ富
ミニ加ヘタルヲ以テ爾來舉國融通金ノ多キニ苦シニ經濟家ハ其融
通金ヲ減セサルヘカラスナルヲ論シ實業者ハ之ヲ減セントハ汲々
トシテ漸シ距今三四年間ニ他國ノ公債購入等ニ融通金ヲ他國ヘ出
セシメ一貳億萬弗已上ニシテ方今稍融通金ノ高チ減シ得タリト雖モ
未ダ融通金ハ過度コシテ今一層融通金ノ額ヲ減セスンハ經濟上宜
シキヲ得サルトノ事ナリ如斯ノ國ナレハ世間好景氣ノ際ナレハ自
國ニ居ナカテ利ヲ得ルモノ莫太ナレハ他事ハ耳ニ入ラサルナリト
斯ル機會ニ乘シテ我國ニ商業博物館ノ設ケヲナシ之ニ各製造所ノ見
本ニ價格ヲ附シテ陳列シ以テ商業家ノ參考ニ供スヘシ然ルトキハ論
ヨリ證據ニシテ一目瞭然其原價ニ我國若港迄ノ運賃諸掛リヲ加ヘタ
ルモノト從來ノ仕入直段ヲ對比セハ不謂シテ明瞭ノ得失ヲ識ルニ足
ルヘシ

製造品ノ事タル我國ニ製造ヲ盛ニスヘキハ素ヨリ企望スル處ナリト雖モ時勢ト資本ノ如何ニ依リ大ニ得失ノ分ル、モノナレハ深ク經濟上百般ノ關係ヲ考究シタル後ニ非サレハ輕々若手スヘキニ非ラス然レモ未ダ我國ニ製造ノ起ラサルノ間及之ヲ起スヘキ器械ニテモ其用ニ適スル廉價ノ品ヲ購入スヘキノ方便ヲ需ムルハ時ニ當リテ緊要件ト謂フヘシ

然リ而シテ製造品ハ單ニ白耳義國ニ限ルニアラス汎ク世界ニ見本ト原價ヲ需メ其最モ需用ニ適シ最モ廉價ナルモノヲ選ンテ取引ヲナスヘシ之ヲ爲スニハ商業博物館ノ設ク最モ緊要ナルヘシ幸ニ我國商業學校ニテハ從來生徒ノ講習ニノミ用ヒシ商品陳列場ヲ擴張シテ廣ク商業家ノ便利ヲ計ラントスル由過般新聞紙上ニ散見セリ冀クハ其計畫ヲシテ充分ヲラシメ商業家ニ満足ヲ與フヘキニ至ラシメントシテ就テハ先般來白耳義國ノ製造所中著明ノ分數十ヶ所ニ就キ實地ヲ見聞ノ際往々我國ノ商業博物館ニテ陳列ヲ要スヘキ機會ニハ出品セフ

レノコトヲ談シ置ケリ本省若シ前陳ノ舉ニ御賛成相成微官ヘ御通報モ有之候ハ、夫々各製造所ヘ通牒シテ大ニ陳列ノ事ヲ贊ケント欲ス最已ニ麻織物ノ如キ羊毛色染糸ノ如キ色硝子ノ如キ小見本モシテ一斑ヲ窺フニ足ルヘキモノハ主務ノ局長ヘ其見本ヲ送致シ置ケリ

已上ハ購入品ニ關シタル意見ヲ陳スルニ過キス若夫レ製造所ヲ起スヘキノ件ニ付テハ他日別ニ開陳シテ御參考ニ供スルコトアラントス

歐洲巡回特報第十八號 (荷蘭陀國海牙府發)

明治十九年十月廿四日

白耳義國農業貸附金方法

白耳義國ニテハ佛國ニテ唱フル「クレジット」トホソエ即チ不動産抵當銀行ナルモノハ從來屢條例按ノ取調ヲナセシ「ア」リ「シ」モ利害ノ點ニ關シ議論百出途ニ利アリテ害ナキ農業獎勵ノ貸附金方法ヲ講究シ以テ之ヲ實施シタルニ効驗甚著シト云其方法ハ概ネ如左
農業貸附金ハ農業ノ改良又ハ公益ヲ起スヘキモノニ低利子ニテ年期ヲ長ク貸附クヘキモノトス

但道路排水堤防等公共ノ工事等ニハ貸付ヲナサス
貸附ノ原金ハ政府ノ貯金預リ所ヘ預ケ入レタル貯金ノ積成「シ」タルモノヲ以テ之ニ充ツ此貯金ハ猶我國驛遞局貯金預リノ如シ
貸付ハ政府直接ニ舉行セス白耳義銀行及其代理店ヲシテ政府ト負債

者ノ中間ニ立クシメ貸借者若返納ヲ滞ルコアルトキハ銀行ハ政府ニ
 對シ返納ノ義務ヲ負擔ス
 利子ハ百分ノ四トス(但此利子ノ定メハ法律ノ出來タル日ノ定メナレハ世上金
 融上ノ如何ニ依リ世上ノ金利ト俱ニ昇降ス然レトモ世間
 一般ノ金利ハトリス)收入利子ノ四分ノ一ヲ銀行ノ所得トシ四分ノ三ヲ政
 府ニ拂入ルヘキモノトス
 此貸付金ニ對シ抵當品トナスコトヲ得ルモノハ如左
 (五) 不動産土地、家屋
 (六) 公債證書、株券但取引所ニテ賣買ノ出來ルモノニ限ル
 (七) 其年ノ收穫物、家畜
 抵當品ハ必ス政府ノ公證官ノ公證ヲ請クヘキモノトス
 (八) 抵當品ハ代價分明ナレトモ(九) 抵當品ノ如キハ代價不分明ニ付
 證書ニ必ス其代價ヲ明記セムヘキモノトス
 (十) 抵當品ハ該地ノ公證人ノ公證ヲ請クテ後政府ノ公證官ノ公證ヲ
 請クヘキモノトス

(一) 抵當品ノ如キハ二重抵當ニ入ルコトナキヲ保セス故ニ之ヲ防ク
 爲メ別ニ(二) 抵當品ヲ帳簿ニ記スヘキ役員アリ必ス此役員ノ手ヲ經
 ヘキモノトス
 總テ抵當品ハ第一ノ抵當トナリタルモノト雖モ第二第三ノ抵當トナ
 スコトヲ許ス然レトモ此貸付ハ第一抵當ニ非ザレハ貸付クルコトヲ得ズ
 抵當ハ貸付年限ノ期ニ至リ必ラス書換ヲナスヘシ然ラキレハ第二ノ
 抵當ハ變シテ第一ノ抵當權利ヲ得ルコトナルヘシ但土地抵當ハ十五
 年期ヲ極度トス
 抵當品ヲ債主ニ無斷シテ場所ヲ轉シ或ハ人ニ貸シタリトノ事アルト
 キハ銀行ハ解約スルコトヲ得
 抵當品ニ疵ヲ附ケ或ハ牛馬等年老ヒ又ハ劣等ノ牛馬ニ交換スル等ノ
 場合ニハ其價ヒテ負債者ニテナサハルヘカラス
 地主ニテハ牛馬ノ數、藪、溜池ノ魚、蒔附ノ種子物モ不動産トナルト雖モ
 小作人ニテハ動産トナラナリ

小作人ニテ收穫物ヲ抵當トナシ置キ小作料ヲ拂ハサルトキハ銀行ハ
 解約スルコトヲ得之ヲ證スルニハ小作料拂入證ノ切符ヲ銀行ニ披見セ
 ヲケルヘカラス(但此法アルハ小作人ノ信據及地主ノ便理ヲ得ルノ
 良法ナリト)キレバ此等ノ事ハ大ニ便利ナリト云フ
 此貸附ノ抵當ニ書入無之品ニテモ負債者ノ家具果物家屋等先取ノ權
 有ル但公證ヲ受ケ書入レトナリタルモノハ此限ニアラス
 家具果物ヲモ抵當品ニナス得(但抵當ノ帳簿ニ記ス役員ノ手
 經書ルニ書スルニテ)キレバ此等ノ事ハ大ニ便利ナリト云フ
 貸付金ノ約定金高ノ内幾分宛テ用テ度毎ニ借リ出テ得セキ(是
 ノ無用ノ利子ヲ拂ハサル様政府ニテ注意ヲ加フルカ爲メ大ニ便利ナリト云フ)
 貸附期限ハ政府ニテ定メタル定期ナク貸借相互ノ間ニ約定ヲナスヘ
 キモノトス(然レドモ期限短キハ農家ニ毒流スモノナリト云フ)此限
 (一)長期十二年ニモ及ブ(二)及ブ

政府ノ公證官一名ハ該地ニ在動シテ公證上ノ責任ヲ負擔ス萬一公證
 シタルモノニシテ第二ノ抵當ニテアリキハ其辨償ノ責ニ任ス
 政府ノ公證官ハ信據ヲ保證スヘキ爲メ政府ニ若子ノ保證金ヲ預ケ置
 シヘキモノトス若前條ノ如キ不都合アルトキハ直チニ保證金ヲ以テ
 其辨償ニ充テヘキモノトス
 政府ノ公證官ハ證券ニ關スル租稅ヲ徵收スルモノナリ故ニ租稅徵收
 所ノ一地方ニ數ヶ所アルカ如キ場合ニハ其中一ヶ所ノ官員ニ公證官
 國王ヨリ命スルモノトス
 公證官(租稅其他ノ租稅ヲ徵收スル官ニテ公證シタルモノハ總テ
 公證帳簿ニ記入スヘキモノトス)キレバ此等ノ事ハ大ニ便利ナリト云フ
 抵當書入ハ公證ヲ請ケタル順序ヲ以テ第一第二ノ抵當ヲ定メ假令貸
 付ノ月日ニ前後アルモ公證ヲ受クルノ前ナルモノヲ以テ第一ノ抵當
 ト認ムヘキモノトス
 公證官ハ毎日午後四時迄ニ其日ニ公證ヲナシタル件々ヲ公證簿ニ登

記スヘシ若之ヲ忘クルトキハ五十法乃至五千法ノ罰金ヲ科スルノ法ナリ(是レハ親戚朋友ノ爲メ私スルコトヲ防ク爲メニ過量ノ罰金法ヲ定ムルナリト)

公證簿ニハ負債者ノ職業住所姓名及不動産抵當ナレハ其證券ノ全文ヲ寫シ第何號何村ノ公證人保證トノ事ヲモ明記スヘキモノトス

貸付金ノ内幾分ヲ返金スルトキハ之ヲ公證簿ニ記入スヘキモノトス

貸付ヲナシタル銀行甲乙代理店又ハ白耳義銀行ノ間ニテ貸付ヲ讓ルコトヲ得然ルトキハ負債者ハ其銀行ニ對シテ返納ノ義務ヲ移サハルヘカラス

貸付ヲナスノ際政府ノ公證官ニ就キ銀行ヨリ書入ノ確實否ヤテ質問スルトキ公證官ハ之ヲ取調ヘテ確答セサルヘカラス

公證官ハ其土地ニ適當ノ公證手数料ヲ定メテ之ヲ收入スルコトヲ得

政府ハ公證ノ爲メ若干ノ稅ヲ收入ス其稅額ハ別表ニ詳カナリ其百分ノ若干(其數モ亦別表ニ詳カナリ)ヲ公證官ノ手数料トシテ相渡ス(但公

證官ハ別ニ俸給ナシト雖モ收入ノ頗ル多キ職ナリ然レトモ其地方ニ依リ收入ニ甚不同アリト)

公證官ニ就キ抵當ノコト其他取調ヲナスハ一件一回毎ニ一法宛ヲ拂ハサルヘカラス(但不動産抵當ノ分ハ便理ノ爲メ此手数料ヲ銀行ヨリ拂ヒ農家ノ厭フ處ヲ省クナリト)

農業改良ノ爲メ此貸付ヲナスノ證書類ハ總テ無印紙トス(是レ農業ヲ獎勵スルノ特旨ニシテ特例ヲ行フモノナリト)

銀行ニ請取ルヘキ證書ニハ婚姻ヲナセシ否ノコト或ハ子アルコトヲ幾ニシタルコトヲ耕作スルコト自作地又ハ小作地ノコトヲ明記スヘキモノトス

銀行ハ貸附ノ際負債者ノ證書及添書ヲ併テ政府ニ出スヘキモノトス(是レ政府ヨリ貸出ス低利ノ金ヲ他ニ遣ハシメサルカ爲メナリト)返納金ハ年々利子ノミヲ拂ヒ期限ニ至リ元金ヲ返納スルモノ又ハ元利ヲ込メテ年割ニテ返納セシムルアリ(但農家杯ニハ元利ヲ込メテ年割返納セシムルヲ尤モ宜シトスト)

貸附證文ハ三通ヲ製シ一ハ銀行一ハ本人一ハ政府ニ取置クコトアリ又
 ハ一通ノミヲ銀行ニ取リ置クコトモアリト公證官ニテハ正副幾通ヲ寫
 シタルコトヲ公證簿ニ明記スヘキモノトス
 白耳義銀行ヨリハ政府ノ貸出金高ニ對スル保證品ヲ抵當トシテ差出
 サルヘカラス但其抵當十萬法コ對シ貸出入萬法ヲ超過スヘカラス
 貸出高之ニ超過スルトキハ増抵當品ヲ差出サシムヘキモノトス
 銀行ニテ返納ノ期ニ至リ義務ヲ怠ルキハ裁判所ノ手ヲ經テ即日ニ抵
 當品ヲ賣却シ之カ辨償ニ充ツ

歐洲巡回特報第二十一號 (法朗西國巴里府發)

明治十九年十二月三日

白耳義國獸醫及獸醫區

一縣獸醫九名

此獸醫ハ一縣ニ一名ヲ置クモノトシ政府ハ官立獸醫大學校ヲ卒業
 シ最モ經驗ノ著キ學士中ヨリ之ヲ命ジ受持縣内ニ居住セシム
 此獸醫ハ俸給ナレ但移住ノ初年ノミ三百法乃至四百法ヲ給ス尤營業
 ハ自己ノ營業ヲラシム若他縣ニ轉任セシムルノ場合ニモ亦上文ノ給
 與ヲナス
 此獸醫ハ受持區内ニ在テ家畜舎ノ設ケ方其他家畜衛生上ノコトニ關シ
 之ヲ適當ニ誘導スヘキノ責ニ任ス
 此獸醫ハ家畜傳染病豫防等ノ爲メニハ屢受持區内ノ見巡リヲナスヘ
 キ義務ヲ負擔ス傳染病アルトキハ直チニ戶長ニ報告セザルヘカラス

戸長ハ報告ヲ得テハ其權限ニ依リ之ヲ撲殺シ燒亡又ハ土中ニ埋メシムルコトヲ實行ス

備考本文ノ場合ニハ撲殺已前ニ農業者二名獸醫一名ノ立會評價ヲナサシメ其價額ノ三分一或ハ半額ヲ政府ヨリ家畜所有者ヘ給與ス其詳細ハ家畜衛生規則ニ詳カナリ

政府ハ此獸醫ニ命シ牧畜ノ飼養法其他ノ誘導上ニ關シ場所ヲ定メテ演說セシムルコトアリ然ルトキハ一演說ニ付貳拾法乃至廿五法ヲ支給ス備考此獸醫ノ外ニ政府ハ一縣一名或ハ十五箇村乃至廿箇村ニ聯合シタル邑ニ二三名ノ獸醫ヲ指定シ置クコトアリ但其之ヲ置クト

置カサル及員數ノ多少ハ家畜ノ多少ニ依ルナリ此獸醫ハ政府ヨリ命セラル、トハ自家營業上ニ頗ル信據ヲ得ルヲ以テ俸給又ハ手當等ノ給與ナキニ係ハラス歛望者ハ甚多シトス

此獸醫ハ受持區内ニ病馬アリ若貧人ニシテ謝儀ヲナシ能ハサルモノ

ニハ一人ニ頭ヲ限リ無謝儀ニテ治療スヘキ義務アリ主務縣令支廳長戸長及鐵道局ノ驛長ハ此獸醫ヲ招キ病畜アルトシ診察セシムルノ權アレハ之ニ服從セサルヘカラス人民ヨリ往診ヲ請フトキハ往診料一回一法ヲ拂フヘキモノトス他區ヘ往診ノトキハ里程一基毎ニ一法五十參ノ旅費ヲ併セ拂フヘキモノトス此獸醫ハ三ヶ月毎ニ前期中ノ家畜ノ景狀病性及治療ノ得失ヲ具シテ主務省ニ報告セサルヘカラス主務省ニテハ之ヲ編輯印刷ノ上人民一般ニ報告スヘキモノトス備考本文四ヶ度分即一周年分ヲ編輯セシモノハ農業雜誌ニモ掲載スルナリ此編輯ニハ一縣毎ニ色違ノ線ヲ以テ圖ヲ製シ之ニ添フルナリ

一區獸醫

此區獸醫ハ各縣内適宜ニ獸醫區ヲ分テ獸醫ヲ置クコトヲ得セシム

備考本文ノ獸醫區ハ畢竟適宜ニ任スルヲ以テ其多キハアソグエ
 ス縣ノ如キ七獸醫區ニ別ツテ而シテ獸醫區内ノ獸醫ノ數モ亦適
 宜ノ人員ヲ定ムルヲ得セシム故ニラソバント地方ノ如キハ
 一獸醫區ニシテ四十二名ノ獸醫ヲ置クアリ要之ニ實際ノ必用
 依リテ定ムヘキモノトス

此獸醫モ官立獸醫大學校ノ卒業學士中ヨリ命ス
 備考本文獸醫ノ外ニ開業獸醫幾干モアリ然レトモ是又獸醫大學校
 ノ卒業生ニ非サレハ開業スルヲ得ス若シテ犯スモノアルト
 キハ刑法ノ明條ニ依リ之ヲ罰ス

獸醫ハ農業ニ必用ニシテ其所得モ亦多クハ獸醫トナルモノ
 頗ル多シ蓋シ歐洲ノ農家ハ其經濟牧畜ニアリ家畜ノ病ヲ療ス
 ルハ我カ子弟ノ病ヲ療スルロリモ急ナルカ如キ人情アレハナ
 一家畜衛生規則施行ノ爲メニハ全國ヲ二百五十區ニ分テ一區一名宛

ノ獸醫ヲ政府ヨリ命ス
 此獸醫モ官立獸醫大學校ニテ卒業セシ獸醫學士ノ中ヨリ三ヶ年間試
 補ニ命シ而シテ其實用ニ適スルモノヲ以テ本任ヲ命ス但俸給ヲ給セ
 ス使用ノ度毎ニ左ノ如ク報酬ヲナスヘキモノトス

此獸醫政府ノ命令ニ依リ從事スルルハ其受持區内ナレハ一回四法ヲ
 政府ヨリ給ス他區ニ出ルトキハ猶距離一基毎ニ五十參ノ旅費ヲ支給
 ス

備考本文ノ請求ハ三ヶ月毎ニ請求書ヲ差出スモノトシ政府ハ之ヲ
 檢査シテ支給チナス

此獸醫ハ縣令又ハ戸長ノ命令書ニ依リ往診チナスモノトス然レトモ
 直チニ所有者ヘ指揮チマシ又ハ治療スルル者得ズ其診察ノ旨ヲ縣令
 又ハ戸長ニ復命スヘキモノトス縣令又ハ戸長ハ所有者ヘ令チ下シテ
 治療セシムルヲ得

此獸醫ハ毎ニ家畜衛生上ニ注意シテ苟モ懸念ノ事ハ縣令又ハ支廳長

ニ對シ所見ヲ陳スヘキモノトス
 此獸醫ハ病牛馬アルトキハ何病ニ係ハラス發病後遅クモ廿四時間ニ
 ハ狀ヲ具シテ主務省ニ報告セサルヘカラス
 備考本項ハ新法ニシテ本年九月ヨリノ實施ナリ

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並んでいる）

歐洲巡回特報第二十二號 (佛國巴里府發)

明治十九年十二月十日

白耳義國製造學校

製造學校ハ全國ニ三十五ヶ所アリ其種類ハ種々アリテ該地方ノ特産
 ニ隨ヒ其種類ヲ定ム即チ硝子製造地方ニテハ硝子ノヲテ學ハシメ
 紡織地ニテハ麻紡織ノヲテ學ハシムルノ類ナリ
 製造學校ハ夜學ト日曜日ノ午前ヲ以テ教授スルモノトス
 製造學校ノ教科ハ概テ如左

- 一 製造ニ要用ナル經濟學
 - 一 全書學
 - 一 全數學
 - 一 全器械學
- 右ノ外織物多キ地方ニテハ染物又綴糸ノ教科ヲ加ヘ鑛山多

キ地方ニテハ鎮山ニ關スル教科ヲ加フルカ如キハ專ラ該地方ノ必要ヨリシテ敷則チ加除スヘキモノトセリ
 入學ハ滿十三歳已上ニシテ小學卒業ノモノニ非サレハ入學ヲ許サス
 製造學校ハ邑立トス但政府ノ許可ヲ得テ設立スルモノニハ若干ノ補助金ヲ給與ス
 校費ノ歳入ハ邑費、縣費、該地方製造家ノ寄附金、及政府ノ補助金ヲ以テ成リ立テ發出ハ校長已下ノ俸給及諸什器費ニ支出ス
 但校舍ニ充ルノ建物ハ該設立ノ町又ハ村ニテ負擔スヘキモノトス
 政府ノ保助ヲ得テ設立スルハ學校ハ幾千カ政府ノ望ヲ以テ之カ指揮監督ヲナスヘキモノトス其事ハ左ニ揭タルカ如シ
 敷則ハ主務省ノ認可ヲシテ敷則トナスコトヲ得ス
 敷則ハ創立請願ノ際ニ添附シテ願出ツヘキモノトス主務省ハ之レヲ認可スルルルハ布告シテ全國ニ備ラセム
 主務省ハ敷則ノ認可ニ止マラス教育上ノ得失及生徒ノ進歩等ニ關シ

時々監督官ヲ派遣シテ之ヲ監督シ併セテ經費ノコトヲ監督ス
 學校コハ六名已上ノ世話掛ヲ置キ其内二人ハ必ス該地ノ村會議員ヨリ二人ハ政府ヨリ(其一人ハ必ス該縣會議員ヨリ選任ス)戸長ヨリ選任セラルタル世話掛ハ本校取締ノコトヲ任スヘキモノトス
 六人ノ世話掛ハ學校全體ニ注意シ及經費監督ノ責ニ任ス且屢々學校ヲ巡視スヘキモノトス
 校長及教員ハ世話役ノ協議ヲ以テ選拔シ主務卿ヨリ之ヲ命ス
 敷員及世話役ハ毎月一回必ス學校ニ集會シテ報告書ヲ作り猶將來ノ見込改良法等ヲ具シテ主務卿ヘ開申スヘキモノトス
 毎年度ノ經費出入ハ詳細取纏メ主務卿ヘ呈出スヘキモノトス主務卿ハ之ヲ檢査シテ其當否ヲ鑒ミ若不當ナルモノアルトキハ之ヲ改正セシム
 生徒ハ授業料ヲ要セス
 世話役ハ自然ノ義務ト名譽ヲ兼テタル役員ニシテ無俸給無手當トス

監督官ニテ意見アルトキハ所見ヲ具シテ卿へ呈出ス其改正ヲ要スヘキ場合ニハ主務卿ヨリ學校ニ命令ス若其命令ヲ拒ムキハ政府ノ補助金ヲ引揚シルモノトス

各學校ノ外ニ高尙ノ點ニ在テハ百藝學校エリートアリ其最下點ニ在テハ職工學校アリト雖モ個ハ逐次ノ報道ニ讓ル

歐洲巡回特報第二十三號 (法朗西國巴里府發)
 明治十九年十二月十七日

白耳義國農業用分析所

農業用分析所ハ千八百四十三年已降漸次政府ニテ設クルモノ方今已ニ七ヶ所ニ達シ即チヤンブーガニリエーシユバツセルアングエルスモンズルーパーンノ地ニ設置アリ

分析所ノ要旨ハ如左 但 ゴヤンツナリノ分析所ニ限リ草木ノ分析及世ニ上ノ研究ヲモトクナリ

- 一 地味ノ分析
- 二 肥料ノ分析
- 三 農産物ノ分析
- 四 種子物ノ分析

分析所ハ國王ヨリ命スル處ノ委員(官吏ニ)ニテ之ヲ管轄ス
 委員ハ毎月一回必ス分析所ヲ見回り其所爲ノ當否ヲ檢査シ毎年末ニ

ハ事業上一切ノ成績ヲ主務卿ニ報告スヘキモノトス
委員ハ名譽及自然ノ義務上ヨリシテ俸給又ハ手當等ヲ給セス
分析所ハ一般ノ人民各自ノ願出ニ依リ分析ヲナス但分析表ニ對シテ
ハ所長其責ニ任スルモノニシテ政府ハ直接其責ニ任セス
分析料ハ政府ノ定メタル定價表ニ依リ之ヲ拂ハシム
分析所ノ職員ハ如左

所長 一名

分析長 一名

分析員 但事業ノ繁簡ニ依ルモノニシテ定員ナシ

小使 一名

所長ハ政府之ヲ命ジ俸給(三千五百法乃至四千法)モ亦政府ヨリ之ヲ給ス

分析長已下ノ職員ハ委員之ヲ推選ス其報酬金額モ亦委員ニテ相定メ
主務卿ノ許可ヲ得テ之ヲ實施ス
但分析員ハ推選ノ後二ヶ月間ハ之ニ本務ヲ授ケス試驗中トシ然

ル上其適任ナルヲ認メタル上所長ニ協議ノ上本務ヲ任スルモノ
トス

分析員ノ報酬ハ一ヶ年二千法乃至二千五百法トス其分析長ニハ主務
卿ノ許可ヲ得テ猶二百法乃至三百法ノ報酬ヲ増加ス

小使ハ畢竟立働キノモノナリト雖モ多少分析上ノ事ヲ心得居ルモノ
ヲ以テ之ニ充ツ小使ノ給料ハ委員之ヲ定ム

所長ハ分析所構内ニ住居セシム若適當ノ家屋ナキハ委員ハ官宅料
ヲ定メ其金額ヲ給與ス

委員ハ肥料商人或ハ種子物商人ト一ヶ年間分析料若干ヲ以テ悉皆ノ
分析ヲナスヘキ約定ヲナスコトヲ得

所長ハ政府ニ對シ責任ヲ有シ分析長已下ハ所長ノ指揮ニ屬ス
但分析器械等ノ主管ハ分析長及分析員ノ主管ニ屬ス

毎年一回國都(セリム)ニ各所ノ所長及委員ノ會同ヲナシ一般ノ取扱
向及利便ヲ計ルヘキノ協議ヲナスヘキモノトス

前ニ掲ケタル職員ノ外ニ全國七ヶ所ノ分析所ニ通スル會計員一名ヲ
置ク此會計員ハ書記ヲ兼テ國郡ニ居住ス但別ニ事務所ノ設ケテ要セ
ズ自宅ニテ其用ヲ辨スルモノトス猶且自己ノ營業アルモ素ヨリ妨ケ
ナシ其手當ハ一ヶ年五百法トス(方今ハ農務局員中官
務ノ餘ニ之ヲ賦ス)
經費入額ハ左ノ數種ヨリ成リ立ツモノトス

- 一 政府ヨリ下附ノ補助金
- 二 分析所設置地ノ町村費ヨリノ補助金
- 三 肥料及種子物商人ト約定ノ分析料
- 四 分析願人ヨリ拂入ノ分析料
- 五 前各項ノ入金ヲ銀行ニ預ケ入ノ利子
- 六 不用ノ什器賣拂代金

經費ノ支出ハ左ノ數種ナリトス

- 一 分析長及分析員ノ報酬金
- 二 小使給料

三 藥品購入費

四 諸雜費

五 借地料(借宅ナルキハ借宅料)

各分析所長ハ三ヶ月毎ニ經費出納明細書ヲ調整シ之ヲ會計員ニ送附
ス

經費ハ總テ所長ノ主管トシ一切其責ニ任ス

會計員ニテ支出スヘキ經費ハ三ヶ月纏メトシ所長ニ請求ス

會計員ハ簿記法ニ依リ金錢出納ノ事ヲ明ラカニシ年末毎ニ各分析所
ノ決算表ヲ調整シ各其委員ニ差出ス

經費ノ出納ニ過金アルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越シ若シ不足金ヲ生ス
ルトキハ政府ヨリ之ヲ補充ス

翌年度ノ豫算ハ委員ニテ取調ヘ主務卿ヘ進達ス主務省ハ詮議ノ上下
附スヘキ補助金ノ定額ヲ定ム

創立ノ際ニ要スル器械及什器料ハ一ヶ所毎ニ若干ト見込テ相立其金

額ヲ政府ヨリ下附セリ

参考方今七ヶ所ノ分析所補助金定額九千九百五拾法トス尤右金額
 外ニ所長ノ俸給ハ政府ヨリ支出ス
 如斯定額ヲ定メ置シモ漸々人民ハ分析ノ必用ナルヲ感シ年毎
 ニ分析料ノ收入ヲ増シ千八百八十五年ノ一例ヲ舉ケハ右七ヶ
 所ノ内創立ノ久シキ四ヶ所ノ合計收入ハ五萬七千法ニシテ其
 支出ハ四萬七千貳百法ナリキ然レハ差引九千八百法ノ過剩金
 ナ出ス猶且各地方數百ヶ所ニ設ケタル試験圃ニ係ル分ハ分析
 料ヲ徴セスシテ分析ヲナスナリ
 右七ヶ所ノ外縣立一ヶ所町村立二ヶ所ノ分析所アリ何レモ政
 府ヨリ些少ノ補助金ヲ下賜スト云

歐洲巡回特報第二十五號 (佛國巴里府發)
 明治二十年一月七日

白耳義國家畜販賣規則

備考民法上總テ見本ニ異ナル物件ヲ送ルトキハ販賣無効トナルハ
 一般ノ通則ナリ然レトモ動物ノ内部ノ痛患等外見ヨリ見ルコ
 テ得サルモノ、詐偽ヲ防シヘキ爲メ政府ハ特ニ法律ヲ設ケタ
 リト云

家畜買買無効トナルノ病目ヲ左ノ十種トス

- 馬病三種
- 牛病四種
- 羊病二種

病名略ス

但十種ノ病目トシテ實際九種ナルハ千八百六十五年全六年ニ
 流行シタル特別劇症ノペストボピンス病其一ニ加ハレハナリ

上ニ掲クル馬病ノ三種牛病ノ四種及羊病ノ二種アルトキハ賣買無効トナルナリ但牛病ノ第四血ノ道ノ病氣ナルトキハ無効ノ限ニアラス
 驢馬ト本馬ヲ交尾シテ生レタル「ミニユレ」及驢馬ハ代價三百法已下ノ
 其最初涙ヲ出シ後明チ亡スル病足スクミトナル病ノ爲メニ無効トナ
 スヲ得ス但三百法已上ノ代價ナルキハ無効トナスヲ得
 「シヤルボンノーズ」及「クラベレ」病アルキハ假令一萬匹中一匹アルモ
 總體ヲ破約スルヲ得
 總シテ破約シ得ヘキ期限ハ如左
 牛ノ「ストマナット」アフト「イズ」病アルトキハ約定ノ日ニ拘ハラズ我家
 へ引取タル後三十日間トス
 馬ノ「フリニクシヨン」ペリヲ「ツク」ヂ「イニ」病ハ全上廿八日間トス
 右ノ外ハ總テ我家へ引取タル後九日間トス尤何レモ返却スヘキ距離
 一日五十基ノ割合ヲ以テ旅行時間トス
 買受タル家畜ニ病氣アルトキハ買方ニテ二人ノ立會人ヲ立テ保證狀

ヲ具シ賣買無効ノ手續即チ動物所有地ノ勘解裁判所へ苦訴ヲナス此
 立會人ハ獸醫ニ非サルモ幾干カ其地ニ名ヲ識ラレタル人ヲ選ハサル
 へカラス
 裁判官ハ一人乃至三人ノ檢査人ヲ設ケテ病氣ノ有無ヲ糾サ、ルヲ得
 ス
 裁判官ハ賣方本人へ電報ヲ以テ通知シ檢査ノ場所へ立會ハシメサル
 へカラス
 傳染病ナルトキハ無論檢疫ノ手續ニ依ルヘキモノトス賣渡後ニ感染
 セル病氣タルヲ確證アルキハ無効トナスヲ得ス
 賣買ノ後無端死去セシ場合ニハ賣買無効ノ訴ヲ起スヲ得ス
 賣買セシ動物病氣アルヲ發見シ夫カ爲メ直下ケテ以テ和解スルヲ
 禁ス
 已上ハ國內ニテ賣買ニ係ル法ナリ
 魯佛等ノ國ニ關シタルモノナルトキハ賣買動物ヲ不殘率越シテ後ニ

至リ破約ヲ施行スルヲ得セシム是レ國民ヲ保護シテ魯佛等ノ裁判所ニ往キ立會フヲ免カレシムルナリ方今ハ歐醫アリテ診察ヲ密ニスルカ爲メ此事ハ少レナリ何トナレハ裁判ヲ請クルカ如キハ雙方ニ失墜多クレハナリ

外國ニ送り返ストキハ一日程百五十基ヲ以テ施行ノ時間トス

外國ニテ買入タルトキハ其動物所在地ノ勸解裁判所ニ告訴セサルヲ得ス若勸解裁判所ナキノ地ナラハ勸解ノ職ニ當ルヘキ邑長等ニ告訴スヘキモノトス

傳染病ナルトキハ外國人ニ係ルモノト雖モ此規則ヲ行フヲ得ス假令死亡ニ至ルモ如何トモスルヲ能ハス

屠牛場ニ至リ發病スルモノハ此規則ヲ用フルヲ得ス

外國人ノ當國ニ來リ訴フルノ場合ニハ證據金ヲ納メ置カサルヘカラス

歐洲巡回特報第二十八號 (佛國巴里府發)

明治二十年一月廿八日

我國維新後職工徒弟ノ風義ヲ紊リ師弟ノ間ニ契約ヲナサシムヘキ必用ヲ感シ嘗テヨリ徒弟條例ノ事ハ一ノ按題トハナリタリキ故ニ今般歐洲巡回中徒弟ニ關スル事ヲ取調ヘ候處白耳義國ニ在テハ往年徒弟條例ノ說起リシモ徒弟ヲシテ自家營業者ニ就キ學ハレムルノ工藝進歩ニ害アルヲ發見シ遂ニ徒弟條例ヲ發セスシテ工藝ヲ教フルニハ職工學校ヲ設ケ工藝教授所ヲ設クルニ至レリト云今其教授ノ大要ヲ左ニ掲ク

白耳義國職工學校

職工ニ工藝及學理ノ一斑ヲ教フル場所ヲ職工學校ト稱ス婦人ノミニ教フル學校アリ男子ノミニ教フル學校アリ俱ニ校ヲ異ニス

男子ノ學校ニテハ晝間ニ工藝ヲ教ヘ夜間其工藝ニ關スル必用ノ學理

ヲ教授ス
 教科ハ大工職ナリ織物職ナリ其他該地方ニ必用ノ工藝ヲ教フルモノ
 トス故ニ各地方各校毎ニ教科ニ異同アリ學期ハ概ネ三ケ年トス
 生徒ニ教授スルカ爲メ各原料ヲ購入シ施工ノ後販賣スルカ如キハ經
 濟上困難ヲ免カレサルヲ以テ總テ施工ノ賃錢定價表ヲ作り之ニ依リ
 テ受負仕ヨリノ委託ヲ請ケ安價ニ工藝ヲ販クモノトス但他ノ職業者
 ナ妨クルカ如キ安價トナスヲ得ス
 女子ノ學校ニテハ晝間ノミ之ヲ教ユ但教科ハ裁縫、シヤツ、手提番下、造
 花、何レノ工藝ニテモ本人ノ好ム處ニ隨ツテ之ヲ教授ス
 工藝ノミヲ學ヒテ必用ノ學理ヲ學ハサル望ノモノハ入校ヲ許サス是
 レ他ニ工藝ノミヲ教ユル工藝教授所ナルモノアレハナリ
 但女生徒ハ此限ニアラス然レトモ女生徒ニ限リ佛語讀書キ算術ノ
 初步ハ必ラス學ハサルヘカラス
 入校試験ニ年齢ノ制限ナシト雖モ男子ハ小學卒業ノモノニ限ル但年

已ニ長シタルモノハ此限ニアラスシテ入校ヲ許ス
 男子ハ授業料ヲ徴セス女子ノミ授業料ヲ徴收ス但赤貧者ハ此限ニア
 ラス

備考男子ハ己レカ藝術ヨリ生シタル利ヲ學校ニ殘スモ女子ハ自ラ
 原料ヲ持出シ藝術ヲ施シタル品自カラノモノトスレハナリ其
 赤貧者ニシテ原料ヲ持出シ得サルモノニハ教師其原料ヲ要セ
 サル様他ノ受負ヲナシテ之ニ授クヘキ方法ヲ立ルニアリ
 男子ノ藝術勞力ヨリ生スル賃金ハ其幾分ヲ生徒ニ給與シ其他ハ學校
 ノ收入トナス
 創立ノ際政府ノ許可ヲ得及監督ノ手續又ハ經費ノ件等概テ特報第二
 十三號製造學校ト大同小異ナリ尤製造學校ニモ職工學校ノ旨趣ヲ含
 有セシムルモノダリ

白耳義國工藝教授所
 此教授所ナルモノ、創始ハ距今四十年前不景氣ノ最モ甚キ時ニ際

經濟學者ノ説ヲ採用シテ貧人ニ工藝ヲ教フルノ場所ヲ設ケザルニ
アリ爾後其實益ノ著シキヲ以テ漸次ニ設立スルモノ多ク方今ハ全國
四十五ヶ所ノ設ケアルニ至レリ
工藝教授所ハ貧人ニ職工ノ藝術ヲ教フル所ナリ故ニ學問上ニ涉ラス
生徒ハ多ク農業ニ従事スルヲ以テ冬季ニ多ク夏季ニ少シ然レトモ之
ニ檢束ヲ加ヘス
授業ノ時間ハ十二時間トシ其内少クモ一時間ハ小學校ノ教員臨場シ
テ普通小學ノコトヲ教授ス
工藝教員ハ學術上ヨリスルニ非ラス老練ノ職人ヲ以テ之ニ充ツ其任
命ハ縣令之ヲナス
入校ハ滿十二歳ヨリ之ヲ許ス但小學卒業ノモノナルハ十二歳未滿
ト雖モ之ニ入校ヲ許ス
授業料ハ徵收セサルヲ例トス尤邑長ニテ貧人タルヲ保證スルモノニ
限ル但貧人ノ保證ナキモノハ徵收スルコトヲ得

卒業ノモノニハ卒業證書ヲ政府ヨリ渡ス
教授所ノ監督ハ縣ノ工藝監督官之ヲ掌リ仍政府ノ監督官之ヲ統理ス
縣ノ監督官ハ毎月數次臨場シテ生徒ノ注意ヲ悉クヘキ要用ノ演習ヲ
ナスヘキモノトス
施設ヲ販クニハ教師ノ注意ニテ夫々ノ職業者ト取組ヲシテ其仕事
ヲ請合ヒ得ル處ノ賃金百分ノ五ヲ積ミ置キ生徒卒業退校ノ日ニ之カ
元利金ヲ支給ス其他ハ即時生徒ニ配與ス但出納會計ハ帳簿ヲ嚴密ニ
シ縣ノ工業監督官之ヲ監督シ仍主務省ノ監督官之ヲ監督ス
創立及經費ノ件ハ概ネ職工學校ニ同シ只少シ其地方ノ負擔ヲ主ト
シ或ハ同業者組合ヲ維持シ若クハ一個人ノ篤志者等ノ設立アル等異
ナルノミ
此教授場ノ設ケハ大ニ民心ニ適シ甚満足ノ結果ヲ得タリト云但製造
ノ爲メノ必用多キニ居ルヲ以テ多クハ製造業ノ盛ナル地方ニ設ケ
タリ

歐洲巡回特報第三十號 (佛國馬耳塞發)

明治二十年三月四日

白耳義國田野警察

田野警察官ハ村會ヲシテ其選舉スヘキ二倍數ヲ選舉セシメ若不適當ナルキハ縣令ハ之ヲ免職スルノ權アリ村會モ亦縣令ヘ免職ノヲ具狀スルノ權アリ

田野警察官ハ縣令ノ任命ニ係ルト雖モ職務上ハ總テ戶長ノ指揮ヲ受クヘキモノトス其職掌如左

一 田野ノ植物及果物ヲ監護スル

二 行政警察ノ事ニ關シ村內ノ安寧ヲ掌ル

田野警察官ニ關員ヲ生スルキハ村會ハ三十日以内ニ二名ノ選舉ヲナシテ縣令ニ具申セサルヘカラス但三十日間ニ村會ニテ選舉セサル場合縣令ハ縣會常置委員ノ議ニ附シテ選舉セシムルヲ得

田野警察官ニ選舉セラル、ヲ得ルモノハ廿五歳已上ノ男子ニ限ル
 但特別ノ場合ニハ滿廿一歳已上ノモノヲ選舉スルヲ得
 田野警察官ノ俸給ハ村費ヲ以テ之ヲ給ス
 田野警察官ハ職掌ヲ盡スヘキ時間ハ劍ヲ付ケタル小銃ヲ携帯セサル
 ヘカラス
 田野警察官ハ職掌外ニ涉ルヲ得スト雖モ縣會ノ特別ニ命スルモノ
 ハ之ヲ奉セサルヲ得ス
 田野警察官奉職中ハ茶店等ノ營業ヲナスヲ得ス
 大農ハ自家ノ爲メニ田野警察官ヲ置クヲ得但縣令ノ許可ヲ請シヘ
 キモノトス此順序ヲ經タルモノハ官ヨリ命シタル警察官ノ補トシ職
 務上同一ノ資格ヲ有セシム若不品行アルキハ縣令ハ其許可ヲ取消ス
 ナリ

歐洲巡回特報第三十三號 (佛國巴里府發)

明治二十年三月廿五日

白耳義國小作條例

小作人ハ地主ノ承諾ヲ得シテ小作地ヲ他ニ貸渡スヲ得ス
 若犯スモノアルトキハ貸渡年限中ト雖モ其地面ヲ引揚ケ且之ニ關ス
 ル一切ノ諸費ヲ小作人ヨリ辨償セシムルヲ得
 小作料ヲ取極メ約定ヲシタル上ハ假令其ノ地面ヲ己レカ當初ノ見
 込ヨリ狭シトカ或ハ地味劣ル等ノ見込違ノ故ヲ以テ破約スルヲ得
 ス
 小作人小作地面ノ幾分ヲ荒シ或ハ肥料ヲ施サス地味ヲ劣ラシムル等
 地主ニ害ヲ與フルノ場合地主ハ貸渡年限中ト雖モ之ヲ引揚シルノ權
 アルモノトス猶且地面ヲ荒シ又ハ地味ヲ劣ラセシムル價金ヲ要求スル
 ヲ得

小作地面内ニアル處ノ倉庫ヲ指定シテ(其ノ倉庫ニハ穀類ヲ貯入レ其ノ倉庫ニハ穀類ヲ貯入レ其ノ倉庫ニハ穀類ヲ貯入レ)収獲物ヲ積ムコトヲ約シタル場合之ヲ違約スルハ地主ハ破約スルコトヲ得

一ケ年已上ノ小作約定ノ地面ニテ天災又ハ凶作ニテ収獲物若クハ地面ノ幾部分ヲ損シタルトキ小作人ハ約定ノ小作料割引ヲ要求スルコトヲ得

一ケ年限ノ小作地面ニテ半収獲已上ノ損毛ヲ蒙ルトキハ小作料半減ノコトヲ要求スルコトヲ得但収獲ハ前年ノ収獲ヲ以テ比例ノ標準トナスヘキモノトス

小作人ノ怠リニテ收穫手後レノ爲メ損毛ニ罹ルモノハ小作料ノ金額ヲ拂ハサルヘカラス尤小作料ノ半額ハ收穫物ヲ以テ拂入レ殘半額ヲ金ニテ拂フヘキ約定ナルトキハ其收穫物ニテ拂入ルキ半額ニ當ル損毛ハ地主ニテ分擔スヘキモノニシテ金拂約定ノ分ハ小作人ヨリ全額ヲ拂入レサルヘカラス

隣地ニ飼ヒタル動物又ハ他ヨリ來ルノ動物小作地ニ入込ミ收穫物ヲ害シタルトキハ其損害ヲ蒙リタル二倍額ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得此訴ハ勸解裁判所ヘナスヘキモノトス此場合勸解裁判所ハ起訴ノ日ヨリ八日已内ニ評價人ヲ立テ之ヲ審査セシムヘキモノトス小作地ニ避クヘカラスナル天災(例ヘハ雷災、水災、雹水災、或ハ戰場トナルノ災等)ニ罹リ收穫ニ半額已上ノ損害ヲ來スキハ小作料ヲ拂入レサルコトヲ得但約定ノ際如何ナル場合ニモ小作料ヲ完納スヘント約定セシモノハ此限ニアラス

已上ハ小作證文ヲ取替シタルモノニ用フルノ例ニシテ猶此外ニ口約束ニナリタルモノニ係ルノ處分法アリ如左

麥、馬鈴薯等ノ六種ヲ輪轉耕作スルノ目的ニテ植物ヲ作ルモノハ六ケ年ヲ經サレハ地主ヨリ引揚クルコトヲ得ス

ナス、メルクニ等ノ如キ壹度植レハ十二ケ年間植替ヲ要セサルモノハ其年限半數即チ六ケ年ヲ經サレハ地主ハ土地ヲ引揚クルコトヲ得ス小

作人事故アリテ小作地ヲ立去ルトキハ跡入込ノ小作人ニ差支ヲ生セ
サル爲メ耕耘種子蒔込施肥其時限ヲ怠リ立去ルコトヲ得ス

備考本文立去場合ノ事ハ法律面ノ旨趣ナリ然レトモ實際ハ甚困難
ノ事ナレハ其細目ニ至テハ地方ノ慣習ヲ以テ裁判スヘシト法
律文面ニモ書加ヘアリ故ニ同様ノ事件ニシテ甲地ノ裁判ト乙
地ノ裁判ハ時トシテ反對ニ出ルコトアリト雖モ怪シムニ足ラス
ト云

因ニ云本文ニ關シテハ地主ハ畫一ノ法律ヲ望ムモノニシテ往
々其事ヲ請求スルナリ然レトモ實際ニ法ヲ立ルコト甚難シ獨リ
當國ニテ難シトスルノミナラス歐洲各國皆難シトスル處ニシ
テ未ク其明文ヲ法律ニ掲ケタルモノアルヲ開カスト云

全上ノ場合ニハ肥料及牛馬ノ敷糞ハ無代價ニテ必ス殘シ置クヘキモ
ノトス但立去小作人入込ノ際肥料及敷糞ヲ前小作人ヨリ讓請ケサル
モノハ此限ニアラス

然レトモ地主ニテ肥料敷糞ヲ殘シ置クヘシト申開ルキハ立去ルヘキ
小作人ト入込ムヘキ小作人ノ雙方ノ間ニ評價ヲナシテ代金ヲ受授ス
ルコトアルモ現品ハ必ス殘シ置カサルヲ得ス
小作年間ハ法律上ニ定限ナシ

備考年限ノ永キハ國ノ爲メ得策ニアラス何トナレハ小作料ハ時々
變動アルモノナレハ永年中ニハ地主又ハ小作人ノ一方ニ必ス
損益ヲ請シルモノ生スレハナリ
故ニ植物ニ依リ永年ヲ要スルモノアルモ十二年ノ小作定メ
ヲ以テ極度トスヘシト云

小作人ノ勞力ニ依リ地價ヲ多クセシモノト雖モ借リ受年限滿テテ後
ハ地主ノ所得ニ歸スヘキモノトス
因ニ云蘭國グルネン縣ノ如キハ小作人ノ勞力ニ依リテ増シタル地
價ハ小作人ノ所有ニ歸シ其増價ノ分ハ小作人ニテ賣買スルコトヲ得
セシム

故ニ該地方ニテハ土地ヲ益々上進セシメ且自ラ貧福ノ平均ヲ得ル
ノ良法ニシテ窮民少ナク甚國家ノ經濟ニ益アリト云
備考小作條例ノ如キハ各地ノ慣習アリテ盡一ノ法ヲ施シ難キモノ
ナレハ其條例ハ大要ヲ掲クルヲ以テ好トシ相互ノ約定ハ詳細
ナルヲ肝要トスルノ意ナリ故ヲ以テ嘗テ小作約定心得書ナル
モノヲ白耳義國農學士メンブル―氏著シ世ニ專ラ行ハレ居レ
リ其中最モ緊要ノ一二ヲ舉レハ如左
土地ヲ瘠ス植物馬鈴薯ノ如キモノヲ小作年限中連年植付ル
トキハ例ヘハ十ヶ年期ノ約束ナレハ七ヶ年目ヨリハ肥料ハ
何ヶチ用ヒテ土地ヲ肥スヘシトノ事ヲ約定書ニ記入スヘキ
ハ必要ナリ
小作人ハ動物ノ頭數及増減收穫ノ實數、肥料ノ用量等ヲ詳記
シタル帳簿ヲ備ヘ時々地主ノ檢閲ヲ請フヘキヲ約定書ニ
記入スヘキハ必要ナリ

歐洲巡回特報第卅七號 (英國龍動府發)

明治二十年四月廿一日

白耳義國製造監督官

製造監督官一名
製造監督官ハ職工學校、工藝教授所其他工藝ニ關スル學校ニ臨監シ校
則及實際ヲ視察ス其校則改正ノ要求ニ關シテハ當否ヲ卿ニ具狀ス
監督官ニ於テ校則改正ヲ要スルノ見込アルキハ卿ノ決ヲ經テ改正セ
シムルヲ得
教員ナルモノ學力ハ有スルモ其任ニ適否アレハ之カ適否ヲ監督ス但
教員ノ適否ヲ調ルニハ監督官ハ生徒ニ就キ臨時質問ヲナシテ其適
否ヲ識別ス
監督官ハ教場器具ノ整否若シハ食堂向キノ如何ニ至ルマテ臨監ス
監督官ハ其不注意ヲ巡察スルニ止マラス注意ノ行届キダルヲモ視

察シテ卿ニ具狀ス要之ニ政府ノ代人トナリテ法律ノ行ハレ及諸事ノ注意ヲ周到ナラシメ惡ヲ除キ善ヲ進ムルニアリトス

巡察ノ度數ハ一定ナラス不注意ノ學校ニハ屢々巡察シ注意ノ行届キタル學校ニハ巡察ノ數ヲ減ス是レ專ラ監督官ノ見込ニアルモノトス

巡察ハ各學校ノ成績ヲ察シテ其善ヲ責ムヘキモノトス

監督官ハ學校經費ノ使用ヲ監督シテ適當ナラシメ及事務宜シ得セシムヘキモノトス

生徒ノ試験ニハ審査員ナルモノ與ルヲ以テ必シモ監督官ノ臨場ヲナスヲ要セス

監督官ハ凡テ人民ノ營業上ニ立入ルヘカラス但火藥其他危險ニ涉ルモノハ其危險ヲ避クヘキ設ケテナシム尤烟突ノ修葺等ニ係ルモノハ別ニ規則アリテ内務省ノ主管タリ

歐洲巡回特報第三十八號 (米國紐育發)

明治二十年五月十五日

白耳義國農大學校

一農大學校一ヶ所 ドイツ云地ニアリ首府アリ

此學校ハ學理ヲ講習セシメ傍ラ實地ノ業ヲ示ス處ナリ

學期ハ三ヶ年ニシテ入校試験ハ如左 (但大學校卒業免狀ヲ有スルモノハ入校試験ヲ要セス)

- 一 滿十六歳已上ノモノ
- 二 中學校卒業ノモノ
- 三 算術平法立法
- 四 讀書
- 五 地球上ノ地理要略及本國ノ地理
- 六 植物學及動物學ノ初歩
- 七 佛文及佛ノ文章論

八 歴史

生徒ニ現業ヲ示ス爲メニハ六十ニシテ地面ヲ本校ニ附屬セ
 リ
 右地面ノ外ニ政府ハ特ニ植物ノ生理進化等ノヲ實地ニ講究スヘ
 キ爲メ一區ノ地面ヲ本校内ニ設ケテ高等試験ニ充タリ
 教授ノ科目ヲ十科トス即チ如左但教授ハ總テ佛
 蘭西語ヲ以テス
 第一 圃ノ拵法、コロノ拵法、用水法、排水法、農用器械用法
 第二 化學、理學、農用分析學、天文學
 第三 動物學、植物學、礦物學
 第四 動物解剖 內科、外科
 第五 農事圃ノ耕耘、果樹ノ
 仕立、花圃ノ仕立
 第六 森林學
 第七 農業經濟學肥料等ノ經濟、牧
 穡物資捌ノ經濟
 第八 普通經濟學

本校ノ職員ハ如左

第九 法律知森林ニ關スル事、地主小作人
 ニ關スル事、本國法律ノ全權
 第十 農業ニ關スル簿記法知、牧畜
 校長一名但必ス一科ノ教師ヲ兼ヌヘキモノトス
 教師六名但校長ヨリ一科ノ教師ヲ兼ヌルヲ以テ合セ七名トス
 副教師 若干名
 校長以下副教師ニ至ル皆政府ノ命スルモノナリ但副教師ハ教師
 ノ已ニ數ヘタルモノヲ復教スルノ任ナリ
 監督官 一名
 此監督官ハ政府ヨリ特ニ置クモノニシテ(常駐ノモノニアラス)生
 徒ノ教育及附屬地耕作ノ整否ヲ監督シテ其當ヲ得セシムルニ在
 リ但此官ハ農業大學校卒業者ニシテ農商務省へ就官セルモノヲ
 以テ之ニ充ツ
 生徒ノ定期試験ハ六月十二月ナリ校長及教師副教師立會ノ上之ヲ

爲ス但不合格ノモノハ幾回モ及第セシメス
 卒業試験ハ政府ヨリ命シタル委員臨場シテ之ヲ執行ス但試験ハ先
 ツ書取ノ答ニ合格シ次ニ口頭ノ答ニ合格シタルモノヲ實地ニ試験
 シ三様合格ノモノニ卒業免狀ヲ與フ若其一ヲ闕クモノハ卒業セシ
 メス
 卒業生ノ中特別ノ優等者一名ニ限り他國ニ至リ猶研究ヲ望ミ將來
 ニ望アルモノハ政府ハ特ニ旅費トシテ千貳百法迄ヲ給スルコトア
 リ斯ノ優待ナル保護ヲ請ケタル學士ハ政府ノ需メニ應シテ遊歷中
 通信ヲナスヘキ義務ヲ負擔セシムルコトナリ
 生徒ノ外來生ハ一ケ年三百法(外國人ナレ)ノ受業料ヲ納メシム
 但寄宿料ハ七百法(外國人ナレ)トス
 特ニ政府ハ一ケ年六千法各縣々ヨリハ四百法乃至五百法宛ヲ支出
 シ之ヲシテ學ニ志シ篤ク且將來ニ見込アルモノハ貧生ニシテ自ラ
 學資ノ給セサルモノニ執學セシムルノ資ニ充ツ

歐洲巡回特報追加第壹號

堀田參事官

白耳義國家畜衛生規則

家畜傳染病ニ二種アリ第一最劇病傳染症第二通常傳染病トス
 第一ノ最劇傳染病ヲニモストボヒンスト云此病症ハ魯西亞或ハ土耳其
 ヨリノ輸入家畜ニアルノ病氣ニシテ此病ハ一般ノ家畜ニ傳染シ殆ン
 トコレヲ病ノ人類ニ於ルカ如キモノナレハ此規則ハ千八百六十五年
 及六年ノ流行ノ際ニ臨時布告ヲ以テ之ヲ定メ其病氣消滅ノ際ニ至リ
 布告モ亦廢止セリ
 其布告ハ傳染病及之ニ接シタル家畜或ハ少シニテモ關係ノ畜類ハ彼
 是ヲ不問悉ク之ヲ撲殺シ身骨俱ニ寸斷シテ石油ヲ以テ消毒シ深ク地
 中ニ埋メテ其上ニ石灰ヲ置クコト半基メートル已上ニシテ一メートル
 許以上ノ深サニ埋ムヘキモノトス
 此流行病アルトキハ全國牛馬市ヲナスコトヲ禁ス

此病畜ニ接シタル人ニハ蒸消毒ヲ施ス
此病ハ素ト魯西亞土耳其ノ兩國ヨリ輸入セルモノニ付方今ニ至リテ
モ猶兩國ヨリ畜類購入ヲ禁ス
將來若此流行病アルトキハ農務局長ハ卿ノ委託ヲ請ケ其地方ニ出張
シテ卿ノ名義ヲ以テ臨機ノ豫防規則ヲ布達シテ充分ノ處分ヲナス
トス

第二ノ流行病ハ左ノ如シ

- 一「ストマナット、アフトー」病
此病牛豚羊ノ足口ニ發スルモノナリ此病氣ハ緩ナル傳染病ナレ
ハ早シ治療スレハ効チ奏スルナリ
- 二「ペリアスモニー、コンダヂヨ」病
此病ハ牛羊ノ肺ニ發スルモノナリ
- 三「ガール」病
此病ハ羊ノ足ニ發スルモノナリ

四「チラー」病

此病ハ乳養ノ畜類ニ發スルモノナリ

五「シャルボノー」病

此病ハ全上

六「ラベレ」病

此病ハ豚ノ足ニ發スルモノナリ

七「フリニクシヨ」病

此病ハ馬ノ眼ニ發スルモノナリ

八「マラヂー、アンシエ」病

此病ハ馬ノ眼ニ發スルモノナリ

九「メリアスモニー、コンダヂヨ」病

此病ハ馬ノ眼ニ發スルモノナリ

十「ノンブリ」病

此病ハ馬ノ眼ニ發スルモノナリ

十一「チヒニス、コンダヂヨ」病

此病ハ馬ノ眼ニ發スルモノナリ

十二「モルブ、ハルサン」病

此病ハ馬ノ眼ニ發スルモノナリ

十三「チラー」病

已上ノ病ハ馬ニ發スルモノナリ
已上ノ病氣發生又ハ發生ノ懸念アルトキハ其所有主ヨリ即時戸長ヘ
届出サルベカラス戸長ハ之ヲ明瞭ニ帳簿ニ記入スヘキモノトス但届
出已前持主ハ已ニ他ノ家畜ト隔離シ置カサルヘカラス若之ヲ怠タル
モノハ七日以上ノ禁錮及貳拾五法以上二百法迄ノ罰金ヲ附加スルモ
ノトス
戸長ハ前項ノ届出ヲ得タルトキハ其地ニ政府ヨリ指定メタル獸醫ヲ
シテ往診セシメ其診斷書ヲ得テ撲殺スヘキモノナルキハ之ヲ實施ス
但此撲殺ヲ命スルノ權ハ縣令及支廳長ニモアリ
家畜ノ病氣チ届出テス他ヨリ發覺セシキハ府知事縣令又ハ戸長ニテ
其他ニ政府ヨリ定メアル獸醫ニ命令書ヲ與ヘテ往診セシム此獸醫ノ
診察チハ何レノ場合ニモ拒ムヲ得ス
傳染病豫防規則ノ要項ハ左ノ三區別トス

- 一 既ニ傳染病ニ罹リタルモノ
 - 二 傳染病ニ感セサルヤノ懸念アルモノ
 - 三 傳染病ニアラスレテ病死ノモノ
- 政府ハ左ノ種類ニ對シテハ令ヲ下シテ之ヲ撲殺セシム

一 既ニ傳染病ニ罹リタルモノ
 二 「モルブ、ハルサン」病「ペリアスモニー、コンダヤヨ」病「クラベレ」病（牛ハ撲殺スルヲ外）「チラー」病
 馬ノ「シヤルボノーズ」病ニ罹タルモノハ之ヲ殺サス（何トナレハ發病後廿四時間ニシテ死スヘキハ死スルヲ以テナリ）
 「ペリアスモニー、コンダヤヨ」病ノ牛羊ヲ撲殺セシトキハ其肺臟チ「ア
 ルコール」液トナシ置カサルヘカラス
 傳染病ニ罹リタルニ非サルヤノ懸念アリシモノハ病氣發徴已ニ相過
 候後猶六十日間他ノ動物ト隔離セシム或ハ病氣ニ依リ三十一日間又
 ハ八十五日間隔離セシムルアリ多數ノ家畜中一頭病ニ罹ルトキハ他

ノ家畜ヲシテ四十五日間外出ヲ禁ス放牧圃ニ病畜アルトキハ四十五日間該草ヲ飼養スルコトヲ禁ス

戸長撲殺ヲ實施スルノ場合所有者若シ傳染病ニ非サルト主張スルトキハ本人ヨリ他ノ獸醫ヲ雇入レ診察セシムルヲ得而シテ政府ノ定メタル獸醫ト同様ノ診察ナルトキハ直ニ撲殺セシム若シ診斷ヲ異ニスルトキハ猶戸長若クハ縣令ハ他ニ一人ノ獸醫ヲ加ヘテ之ヲ診察セシム

家畜ノ病氣ヲ届出テス隠匿セシモノ發露セシトキハ政府ハ傳染病ト否トチ問ハヌ撲殺ヲ實施シテ之ニ償ヒテ與フルコトナシ

馬ノモルブ、ハルサン病牛ノベリプヌーモニー、コンダヤヨース病ニ罹リタルトキハ假令百頭ノ中一頭罹病スルモ他ハ悉ク病徴ノ有無ヲ問ハヌ之ヲ撲殺ス途上ニテ相接シタル牛馬ヲモ撲殺ス

屠牛所ノ働人及牛屋ニ從事スルモノハ病畜ニハアラサルヤノ疑アルトキハ速ニ戸長ニ届出テサルヘカラス

因ニ云牛馬賣買ノ市場取締ハ府縣廳又ハ戸長ニテナスト雖モ之ヲ

獸醫ニセシムルニ如カス他日流行病アルキ此事行ハルハニ至ルヘシト云尤其取締不行届ト認ルトキハ主務卿ハ直ニ之ヲ取締チナスノ權アリ

市場及屠牛場ニテ病畜アルトキハ速ニ戸長ニ届出サルヘカラス

戸長ハ本地又ハ他縣ヨリ取調ヘ他縣ヨリ來ルモノナラハ其本籍ヘ照會シ率出シノ際ヨリ病氣ナリシヤ否及途上發病ナラハ其事故ヲ調フルモノトス

市場ニ傳染病アリト認ムルトキハ戸長又ハ府知事縣令ハ速ニ其病畜ハ勿論他ノ之ニ接シタル家畜ヲモ撲殺セシム若シ其接シタル家畜ノ所有者撲殺ニ不同意ナルトキハ之ヲ一ヶ所ニ閉込置クヘキモノトス

鐵道會社馬車會社其他畜類ヲ多ク飼養スル家ハ政府ヨリ特別ニ獸醫ヲ派シテ巡視セシム

牛ノベリプヌーモニー、コンダヤヨース病ヲ撲殺シタルキハ之ヲ土中ニ埋ムルニ半ニ埋ム此病ハ再出セサレハナリ此病ハ兩股前足及舌

ハ食料トナスモ差支ナシニヤルボノ一ズ病コト撲染シタルモノニハ
 適當ノ消毒藥ヲ以テ消毒セシム但僻地ニテ消毒藥品ナキ場合ニハ平
 素放牧チナス地ヨリ五十メートルノ距離ニテ一メートル半ノ深サニ
 半メートル程石灰ヲ置キ之ヲ埋メシメ且其上ニ橘ヲ植ニヘシ是レ牛
 馬ノ食セサルモノナレハナリ
 馬ノ「モルブ」ハルサシ病及牛ノ「ペリプス」モニ「コンダグ」ヨリス病ニ
 ハ消毒藥ヲ用ヒシム是レ最モ劇症ノ傳染病ナレハナリ
 馬ノ「モルブ」ハルサシ病ノトキハ馬小屋ヲ特別ニ掃除セシム(其規則ハ
 別ニアリ)尤鼻口ヨリ吐出スモノニ毒アルモノナレハ之ヲ掃除スルニ
 限レリ
 其他ノ傳染病ハ空氣ニ病毒ヲ傳フルヲ以テ敷蓋、糞、食器、飼葉、及其畜ニ
 用ヒタル農具ニ至ルマテ悉ク消毒法ヲ行ハシム但消毒法ハ水百分ノ
 五ノ消毒藥ヲ和シテ之ヲ洗フヘシ其洗フニ能ハサルモノヲハ蒸氣法
 ナリテ消毒シ或ハ塗タルモノヲ剝キ新ニ塗替ル等夫々ノ場合ニ應シ

獸醫ヨリ指揮スヘキモノトス

但消毒法ハ種々アルヲ以テ獸醫ノ指揮ニ任スルヲ宜トス
 消毒ヲ行フタル畜舎ニハ十日間ヲ經サレハ他ノ畜ヲ容ル、
 家畜傳染病流行ノキハ他國ヨリノ海陸運路ヲ一線ニ定メ線路ヨリノ
 外輸入ヲ禁シ此線路ヨリ輸入ノ畜類ハ傳染病ノ有無ヲ糺シテノ後ニ
 非サレハ國境ニ入ルヲ許サス若シテ犯シテ病畜ヲ國內ニ輸入スル
 トキハ政府ハ國權ヲ以テ之ヲ取上ルナリ
 但馬ハ「モルブ」ハルサシ病ノ外ハ當國ヲ經過スル途ナレハ別ニ検査ヲ
 ナシテ之カ通行ヲ許ス
 流行病アルニ際シテ牧畜所ニハ悉ク檢疫法ヲ行フ但此場合無病ノ畜
 ハ自由ニ運動セシム
 アンベルグ港ニハ政府ヨリ毎ニ獸醫ヲ置キテ家畜輸入ノ検査ヲナサ
 シメ無病ノモノニハ其證書ヲ與ヘテ通行ヲ許ス
 海上ヨリ輸入ノ家畜検査ノ費用ハ所有者ヨリ支辨セシム拒ムモノア

ルトキハ政府ハ之ヲ斷行シテ後法律ニ依リ之カ費用ヲ徵收ス
 國境ニアル戸長ハ家畜傳染病流行ノ場合ニハ規則ヲ設ケテ施行スル
 ノ特權アリ此場合施行ノ後主務省ヘ届出テサルヘカラス主務省ハ規
 則ノ當否ニ依リ指揮ヲナスナリ
 傳染病流行ノ際ハ全國四十ヶ所ノ鐵道ニ始終消毒法ヲ行フ(但此規則
 ハ別ニアリ)此事ハ政府ヨリ各縣ニ置ク處ノ獸醫ノ監督スヘキトス且
 平常ト雖モ此獸醫ヲシテ毎月三回汽車ノ掃除及檢疫方ヲ検査シ注意
 セシム
 政府ヨリ各地方ニ置ク處ノ獸醫ハ戸長又ハ府知事縣令ノ免許狀ヲ以
 テ何レノ家畜舎ニモ立入ルヲ得
 牛ノペリブヌーモニー、コンダゴヨース病ノ懸念アル分ハ病氣ノ徵候
 已ニ亡シタル後六十日間隔離セシム
 牝羊ノ「シラベレ」病牛ノ「ガール」病牛馬犬羊ノ「チラー」病ハ二十一
 日間隔離セシム

牛ノ「ストマナール、アブー」病アルトキハ庭ヨリ外ヘ出ルヲ禁ス病
 勢已ニナキト認メタル後猶十五日間隔離セシム
 因ニ云斯ノ隔離法ヲ施行スルハ病性ノ如何ニ因ルモノナリ而モ白
 耳義國ノ六十日隔離モ獨乙ニテハ六ヶ月間ナリ
 多數ノ家畜類ノ中一頭死去スルトキハ他ノ家畜ヲ四十五日間閉居シ
 テ外出ヲ禁ス
 牧草中ニ放牧シタル病畜アリシトキハ四十五日間該草ヲ飼養スルヲ
 チ戸長ヨリ禁ス
 病犬ハ溫帶地方ニノミアリトス其「チララー」病犬アルヲ往還ニテ
 認ムルトキハ直ニ撲殺ス他犬ニ接シタルキハ之ヲモ俱ニ撲殺ス此病
 犬アルトキハ縣令ハ布達シテ網付ニ非レハ他ニ出スヲ禁ス網ナキ
 犬アルトキハ巡查之ヲ捕ヘテ定メタルケ所ニ二日間留置キ其時間ニ
 飼人申出ナキハ病犬ニ觸レタルニ非スヤトシテ之ヲ撲殺ス且犬ノ
 所有主ヲシテ其姓名町名ヲ記シタル首輪ヲ入レシムルヲ法トスル

ノ權アリ
 馬ノ「モルブ、ハルサン」病ニ付撲殺ノキハ所有者及立會人衆議ノ上代價
 ノ五分ノ一或ハ三分ノ一ヲ政府ヨリ給與ス但其分一ノ百五十法ニ超
 ル場合アルモ政府ノ給與ハ百五十法ヲ超ルヲ得ス
 牛羊ノ全病全場合ニハ代價ノ三分ノ一ヲ給與ス但政府ノ給與ハ百法
 ヲ超ルヲ得ス
 豚并野牛ハ全上ノ給與ニシテ政府ノ給與十法ヲ超ルヲ得ス
 流行病ノ徵候アリテ撲殺シタルモノニハ馬ハ百五十法迄牛ハ百法迄
 ナ給與シ徵候ナキヤト惡念上ヨリ撲殺ノモノニハ三百法ヲ給與シ全
 ク無病ナレトモ病畜ニ接シタル廉ヲ以テ撲殺ノキハ半額ヲ政府ヨリ
 給與ス但三百法ヲ超ルヲ得ス
 因ニ記ス感病ノ惡念ニテ撲殺シタルモノ、皮ヲラベレ「病」チラ「
 シ」病ノ「ハ」之ヲ寸斷シテ土中ニ埋ム其他ノ病畜ハ消毒シテ皮ヲ
 使用スル「ヲ」得セシム

病馬ノ肉ハ政府ノ許可セシ製肥所ニテ製肥トナシ使用スル「ヲ」得
 但持運ヒノ際道路ニ血ノ漏ル様戸長ニ於テ指揮ス
 馬ノ「モルブ、ハルサン」病ハ馬丁ニ傳染スル「ヲ」アリ但純口ヨリ血ノ入
 ルカ唾ノ口ニ入ルカヨリ傳染スルニ付用心セサル「ヘ」カラス
 乳牛ニ傳染病アルトキハ人ノ小兒ニ傳染スル「ヲ」アリ是レ乳養ノ爲
 メナリ
 牛ノ肺臟ニ生スル赤色ノ小蟲アリ人ニ傳染シ其人ノ唾ヲ吞ミタル
 鶏モ亦悉ク死ス
 佛國ノ名獸醫ハスト「ール」氏ハ多年苦辛シテ種疫法ヲ發明セリ稍長
 結果ヲ得テ百ニ八十ハ其効アリキ然レトモ政府ノ保證シテ萬一ノ
 死ヲ請合ニ非サレハ人民ハ種疫ヲ好マズ
 豚羊ノ「アロール、ヌモニ、コンダチヨ」病ハ種疫ノ長結果ヲ得タリ
 其法肺ヲ切り糞穴ノ上ニ種エ又肺ニ糸ヲ通シテ其糸ヲ尾ノ眞ニ通
 ス是レ即チ種疫法ナリ

白耳義國ウレムス氏ノ發明ニテハ種疫若惡感ノキハ尾ヲ斷切り而シテ後良食ヲ以テ飼養スレハ種疫ノ病害ヲ受ケス
家畜衛生規則ノメニハ毎年二萬法ヲ拂ヒ甚シキハ八萬法ヲ拂ヒタルコアリ

老牛馬ノ老死ハ肉ヲ食スルコトヲ得其食セサルモノハ肥料トナス
老馬ヲ殺スノ場合ハ其主管内務省ヘ風ス

歐洲巡回特報追加第二號

ピルホルド果樹學校 千八百四十九年ノ創立

本校ハ全國ニ一ヶ所ノ果樹學校ニシテ實地及學理ヲ講習スル所ノ官立學校ナリ其教科ハ如左

究理、化學、書學、果樹、佛語、フランス語、算術、簿記、經濟學、植物學、建築學、花園、野菜、花果ヲ室ニテ作ル法、木ヲ作ル法、花野菜及果物ノ種蒔法等ナリ要之ニ該地方實地ニ必用ノ事物大ケテ教ユル處ナリ

學期ハ三ヶ年ナリ生徒ハ寄宿外來俱ニ許ス
生徒教育ノ外ニ毎日曜ニ實地現業者ノ爲メニ演說ヲナシテ實業ニ便宜ヲ與フ

本校ノ職員ハ左ノ如シ

校長 一名
教師 六名

現業頭 二名

此現業頭ハ農業大學校ノ卒業生ニシテ猶實地現業ニ熟練ノ人ヲ
選任ス此任ハ教師ヨリ重大ニシテ最モ實用アリトス現業ヲ教示
スルノ際教師ノ教ヘタルコトヲ復教シテ現業上ニ示スナリ

校務掛 四名 内一名長ヲ置ク

此四名ハ皆國王ノ命スルモノニシテ教員生徒ヲ監督ス但名譽官
ニシテ無給ナリ平日校内ニ詰ルモノニ非ラス出務ノ日及旅費等
總テ農區委員ニ同シ

生徒ハ滿十六歳以上二十歳已下ノモノニ限ル其入學試験ハ左ノ如シ

- 一 身體強壯ノ者
- 一 圃ヲ耕スコトヲ概ネ了解スルモノ
- 一 算術ノ大意
- 一 讀書
- 一 佛語ヲ解スルモノ

毎年末ニ試験ヲナシテ其合格ノモノヲ及第セシム但校長及教員之ヲ
試験ス

卒業試験ニハ左ノ人員ノ立會ヲ要ス

- 一 本省派出ノ試験掛一名
- 一 ガン花園學校教員一名
- 一 本校ノ教員

已上立會試験ヲナスノ要ハ農業ハ重大ニシテ之ヲ誤ルトキハ其害
容易ナラサレハナリ

外來生徒ハ一ヶ年百法(内外人トモ)ノ授業料ヲ納メシム
寄宿生ハ内地人ノ生徒ニ限り貧福ノ度ニヨリ寄宿料ノ幾分ヲ政府ヨ
リ補助ス然レトモ其貧ナルモ概ネ貳百法ハ納メサルヲ得ス其貧福ノ
度ニ應シ政府補助ノ金額ニ増減アリ但此補助ヲ請ケタル生徒ト雖モ
別ニ政府ニ對スル義務アルコトナシ

歐洲巡回追加第三號

ガ
ン
花
園
學
校
(千八百四十九年ノ創立本學校地方ハ花ヲ)
作リテ歐洲各國ニ販出ス有各ノ地ナリ)
本校ハ全國ニ一ヶ所ノ花園學校ニシテ實地及學理ヲ講習スル所ノ官
立學校ナリ其教科ハヒルボル、果樹學校ニ同シ而シテ左ノ教科ヲ加
フ

一 英語、佛語、獨乙語

一 地理書

(已上ノ教科ヲ加フルハ花販賣ノ商業上ニ必用ナレハナリ)
學期ハ三ヶ年ナリ生徒ハ外來ニ限り寄宿ヲ許サス

(此寄宿ヲ許サ、ルハガ
ン
地
方
ハ
花
作
り
營
業
人
多
ク
寄
宿
ヨ
リ
モ
外
來
ノ
地
方
ノ
見
聞
ニ
益
ア
レ
ハ
ナ
リ
尤
寄
宿
ヲ
望
ム
ノ
生
徒
ハ
最
寄
ノ
小
學
校
ニ
寄
宿
セ
シ
ム)
生徒教育ノ外ニ日曜毎ニ實地現業者ノ爲メニ演說ヲナシ實業ニ便宜

ヲ與フ

本校ノ職員ハ左ノ如シ

校長 一名 但教師ヲ兼ネタリ

教師 五名

現業頭一名

此現業頭ハヒルポルト果樹學校ノ現業ノ資格ニ全シ

花書教師一名

校務掛 四名 内一人ノ長ヲ置ク

此校務掛ハ總テヒルポルト校務掛ニ全シ

生徒ハ滿十五歳已上滿二十歳已下ノモノニ限ル其入學試験ハヒルポ

ルト果樹學校ニ同シ而シテ地理學ノ試験ヲ加フ(花ノ販賣ニ各國ノ地

理ヲ要スレハナリ)

年末試験卒業試験ハ總テヒルポルト果樹學校ニ同シ

生徒ノ中僅ニ一科ヲ學フモノアリ此生徒ヨリハ一科卒業迄ニ授業料

二十法ヲ納メシム(是レハ授業料ヲ徴スルハ流行氣ヲ防クニアリテ一
科ノミノ教科ヲモ教ユルハ外國人等ニシテ花作りノ事ノミヲ學フモ
ノ、如キニ便宜ヲ與フルナリ)

因コ云ガソノ地方ハ花作りノ盛ナル地方ニシテ其實上高ハ無數ノ
巨額ニシテ一會社ニテモ一ヶ年六七十萬弗ノ賣上高アルモノアリ
ト云其花ハ世界各國ノ花卉ニシテ蒐集セサルモノナシト云フ

歐洲巡回追加第四號

白耳義國獸醫大學校 ガリムドミジ即ブリニクセル府ニアリ
本校ハ全國一ヶ所ノ獸醫大學校ニシテ學理及現業ヲ講習スル所ノ官
立學校ナリ其教科左ノ十二科トス

- 一 國法
- 一 踏鐵學
- 一 化學
- 一 理學
- 一 藥劑學
- 一 製藥學
- 一 解剖學
- 一 馬仕立法
- 一 交尾法

一 牛馬形體改良法

一 乘馬法

一 病馬問答

本校ニハ「カトリック」ノ僧ヲ附ケタリ是レ必シモ學科トスルニ非サレトモ修身學ノ一ニ備フルモノナリ

學期ハ四ヶ年トス而シテ六ヶ年ニ至リ猶卒業セサルモノハ退校セシム

入校試験ハ年々告示スト雖モ概ネ左ノ如シ但大學校卒業免狀ヲ有スルモノハ試験ヲ要セス

入校ノトキニハ必ラス校中心得箇條書ヲ渡ス

一 佛語ヲ解スルモノ

一 算術

一 歴史ノ大意

一 讀書

一 身體壯健ノモノ

一 滿十七歳已上ノモノ但國法ニ滿テ廿一年未滿ノモノハ開業ヲ許サハム以テ滿十七歳已上ニ限ルナリ

本校ノ職員ハ左ノ如シ

一 校長 一名 教師ヲ兼ネシム

一 教師 八名 但助教師トモ

一 助教試補四名 但生徒ニ教師助教師ノ任ナラズモ復習セシムルノ任ナリ

已上ハ國王ノ任命ナリ已下ハ内閣ヨリ之ヲ命ス

一 幹事 一名

書籍館ノ主管并教師ノ職ニ適スルヤ否及生徒監督ノ事ヲ掌ル

會計掛 一名

會計及食物ニ係ル事ヲ掌ル

目附役 二名

生徒學校ノ出入内外品行器具ノ保存等ニ注意シ生徒ト俱ニ

食堂ニ就テ寢室モ亦生徒ノ寢室ノ傍ニアリテ之ヲ監督ス

前日ニアリシ事件ハ備付野判用紙ノ箇條毎ニ記入シテ翌朝
校長ヘ報スヘキ責ニ任ス

屬官 一名

書記其他一切ノ事ヲ掌ル

委員 五名

此委員ハ名譽官ニシテ國王之ヲ命ス無給ナリ經費支拂及生
徒教育ノ當否ヲ監督スルノ責任ナリ

六ヶ月ニ一度ハ委員一同必ス本校ニ集會スヘキナリ

農業監督官モ一ケ年二度ハ必ス本校ニ臨視セサルヲ得ス

本校ノ生徒ニハ二ケ年ノ業ヲ卒ヘ優等ノモノニハ國王ヨリ卒業證書
渡ス尤此證書ハ生徒ヲ獎勵スルノ具ニ過キスシテ開業其他有効ノ證
ニアラス

本校生徒ハ必ス寄宿セサルヘカラス尤特別ノ事山アリテ政府ノ特許
ヲ得ルモノハ此限ニアラス此生徒ハ一ケ年三百法ヲ授業料ニ納ム

特ニ一科業ノミヲ學フ爲メニハ外來生アリ此生徒ハ卒業迄ノ授業料
トシテ五十法ヲ納メシムルナリ

寄宿生ハ授業料及賄料ヲ合シテ一ケ年七百法ヲ納メシム

貧生ニシテ自ラ學費ヲ辨スル能ハサルモノト雖モ將來政府要用ニ充
ツヘキ見込アル人物ニ限リ學費ヲ政府ヨリ補充シテ入校セシムルコ
アリ

四ケ年優等卒業ノモノニシテ將來有用ノ人物ニハ八百法、九百法或ハ

壹千法ヲ給シテ獨乙佛蘭西等ヘ研究トシテ遊覽セシムルコアリ

定期試験及四ケ年目卒業大試験ノ方法ハ總テ農業大學校ニ同シ試験
席ニテハ誰彼ナシ傍聽ヲ許ス

試験ニハ平素教授セシ教科毎ニ三問題ヲ出シ之ヲ各自抽籤ヲ以テ其
一ヲ抽キ之ニ答シム其答振左ノ如シ

一 年 生 ハ 三 時 間 内 ニ 書 取 ヲ 以 テ 答 チ ナ サ シ ム

二 年 生 ハ 三 時 間 内 ニ 書 取 ヲ 以 テ 答 チ ナ サ シ ム

三 年 生 ハ 四 時 間 内 ニ 全 上

四 年 生 ハ 四 時 間 内 ニ 全 上

右何レモ封書ニシテ差出サシム而シテ口頭ヲ以テ答ルコトヲ始ム口頭ノ答ヘハ圖引ニテ順序ヲ定メテ答ヘシム此席ニハ各階級ノ生徒皆列席セシム一人ノ試験ニ四人程ノ試験掛アリテ點ヲ附シ校長之ヲ檢シ百分ノ五十已上ヲ得サレハ及第セシメテ試験ノ結果ハ校外へ張出シ及政府ニ報告ス

本校ノ罰則ハ左ノ如シ

- 一 忠告 此忠告ハ教師ヨリス而シテ忠告ヲ請ケタルモノハ試験ノ點數ニ關スルヲ以テ甚生徒ノ恐ル、處トナレリ
- 二 他生徒ニ告知ス 他ノ生徒ヲ集メテ其狀ヲ告知シ或ハ校内ニ張出シテ告知スルナリ
- 三 禁足 一日乃至二ヶ月間門外スルコトヲ禁ス
- 四 退校 校長及ヒ教師立會ノ上其罰ヲ裁判シ一ヶ月乃至生涯ノ退校ヲ命ス而シテ生涯退校ハ政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ執行スルコトヲ得ス生涯退校ノ場合ニハ猶政府ハ現在ノ校長幹事舊校長舊教師

二名ニ質問ノ上之ヲ決行スルナリ

生徒七名乃至十二名ヲ組合トシテ動物ヲ解剖シテ其詳悉ヲ説キ示ス故ニ冬六ヶ月ヲ濟シタル後ハ必ス解剖上ニ就キ其一廉ノ品ヲ作り或ハアルコイル液トナシテ動物博物館ニ出品スヘキ責アリ
本校ノ經費ハ一ヶ年器具購入費五萬七千八百法郎教師其他ノ俸給百萬二千四百法トス而シテ生徒ノ授業料及食費等ハ別經濟ニシテ生徒ヨリ收入スル一切ノ全額ニテ食費又ハ生徒ヲ率ヒテ散步スルトキノ費用ニ充テ殘餘金アルトキハ明細書ヲ政府へ出シテ指揮ヲ乞フ政府ハ之ヲ分配シテ賞與金ニ賜ハルナリ
病牛馬犬ノ治療ヲ申出ルトキハ病馬ハ二法、病牛ト病犬ハ五十參ヲ拂ハシム是レ飼料及畜舎料ニシテ藥價ハ總テ徴收セスト云

歐洲巡回追加第五號

白耳義國植物園

ブリュクセル府
オタニツシ、通りワリウ、ワロロヤ、ムニ在リ

本園ハ千八百廿九年ノ創始ニシテ當初果樹組合ノ民立ニ係レルヲ千八百七十年六月七日ニ會社ヨリ政府へ購入シタルモノナリト云其趣旨ハ人民ニ目ヲ樂マシメテヨリ感シテ起サシムルノ植物博物場ナリ本園ノ經費ハ一切農務省ヨリ支出スト雖モ府中ニアリテ公園ノ性質ヲモ帶ヒタルヲ以テ府廳ヨリ府費金ニテ壹萬法ヲ支出ス本園ニハ悉ク地球上ノ植物ヲ蒐集シテ學校生徒或ハ現業家ノ參考ニ供スルノ設ケニシテ生植物及乾植物ヲ集メテ悉ク其產地及種莖ノ事ヲ明示ス就中他ニテ未ダ見サルノ注意ハ鐵板ノ標札ニ略地圖ヲ顯ハシ其產地ノ部ヲ赤色トナス故ニ一目シテ支那ノ何地方産或ハ南亞米利加ノ産タルヲ識別スルナリ本園ニハ大ナル温室アリ小ナル温室モ數ヶ所アリテ尤モ室ノ仕立方

等ハ能ク注意セルモノ、如シ歐洲各國至ル處温室ノ備ヘアラサルナ
 シト雖モ木園ノ温室ハ學文上ノ點ヲ示スモノナレハ其結構甚充分ナ
 ルノ感アリ
 本園ニテハ人民ノ需メニ應シテ解剖ヲナス處ナリ
 本園ニテハ植物會社ノ會議或ハ見微鏡組合等ノ會議ヲナスニハ必ス
 此場ヲ貸渡スナリ
 本園ハ毎日開場人民ノ雜覽ヲ許ス但雨天ハ之ヲ禁ス
 本園ニハ乾草木及書籍ノ備ヘアリ學術研究ノ爲メニハ十五日間チ一
 期トシテ貸與ス特ニ學士等ニハ長期ニ貸スコトアリ

特報追加第六號

白耳義國土地所用規則

他ノ地境ニ地ヲ開クトキ及公用ノ爲メ石垣ヲ築クニハ地中ノ石ヲ取
 ルコト得但建築アルノ場合ニハ五十メートル以内ノ石ヲ取ルコト得
 ス又土石ヲ賣買スル商業者ノ地ニテハ之ヲ取ルコト得ス
 已上ノ場合縣令ノ許可ヲ得サルヘカラス
 隣地ノ持主土石ヲ取ルコト拒ムルハ國王ノ裁許ヲ俟テ處置スヘキモ
 ノトス
 公道ノ用ニ取りタル土石ハ地主ニ相當ノ代價ヲ拂フヘキモノトス但
 其代價ヲ定ムルハ其土地ノ方法ニ依リ評價セシム
 着手ノ十五日已前ニ地主ニ報知シ且八日前ニ其仕様ヲ書面ニテ示ス
 ヘキモノトス
 地主ハ其仕様ヲ如斯クシタントノ申立ヲナスコト得

着手後三十日已上ニ涉ルキハ地主ハ全地面ノ買上ケテ請求スルヲ得
 地主所用者ノ間ニハ若手ノ已前其事柄及代價ノ取究ヲナサ、レハ若
 手スルヲ得ス
 代價不居合ノキハ勸解裁判所ニ訴出テ裁許ヲ請フモノトス此場合工
 事請負人ハ假令高價ト思量スルモ直ニ若手スヘキモノニシテ代價
 ナ拂ヒ置カサルヘカラス
 其不服ノ廉ハ工事着手後ニ控訴スルヲ得
 若持主代金ヲ請取ラサルキハ公金預ケ所ヘ預ケ置キ工事ニ着手セサ
 ルヲ得ス
 甲乙ノ地ヲ隔テ、丙地ヘ河水ヲ曳クキハ甲乙地主之ヲ拒ムヲ得ス
 但通水路ノ潰地ハ評價ヲナシテ其代價ヲ丙地主ヨリ償ハサルヘカラ
 ス
 沼地ノ水ヲ排スル場合モ前項ニ同シ但建家アリ或ハ建家ノ外構アル
 場所ハ工事ヲナスヲ得ス

水道管ヲ埋ムルキモ甲乙地主之ヲ拒ムヲ得ス但此場合ニハ相當ノ
 辨償ヲナサ、ルヘカラス
 丙地主ニテ拵タル水道ノ水ヲ甲乙地ニテ使用ヲ望ミ使用スルヲ得
 此場合ニハ工事費ノ割前ヲ負擔セサルヘカラス
 工事落成後ニ甲地主又ハ乙地主ニテ水ヲ使用シ度申出ルキハ工事費
 ノ全額ヲ支辨セシム但工事中ニ申立ルキハ水ノ需用高ニ應シテ費額
 ナ分擔スヘキモノトス
 右ニ關シテ故障アルキハ其地ノ勸解裁判所ヘ訴ヘ出ツヘキモノトス
 川流ノ變換ニ依リ甲地ヲ損シテ乙地ニ寄洲ノ出來タルキハ乙地ノ得
 トシテ甲地ノ損トナルナリ此場合甲地主ヨリ乙地主ニ對シテ己レカ
 所有ノ減シテ移リタルモノトシテ所有權ヲ主張スルヲ得ス
 海面其他ニ開發スヘキ地面ノ生シタルキハ該村ノ共有地タルヘキモ
 ノトス
 數町村ニ跨ル川路ニシテ堤防ノ低キカ或ハ川幅ノ狭キカ爲メ水害ヲ

業ルホハ甲乙村申合セ修補スヘシ若甲村ハ修補ヲ欲スルモ乙村ニテ
 其害ハ數年ニ涉ラスト做シテ放擲セントスルモ其修補ニシテ必用ナ
 ル場合ニハ縣令ハ關係ノ町村ニ嚴命ヲ下シテ修補セシム
 海岸ノ堤防ニ於ルモ前項ニ全シ
 一村ノ秣場ハ村内雖彼ノ差別ト畜類飼養ノ多少ニ制限ヲナサス數村
 入會ノ秣場モ上ニ全シ但假令自己ノ放牧スヘキ畜類ナシト雖モ他ノ
 多數ヲ放牧スル人或ハ村ニ關シ其牧草代金ヲ要求スルヲ得ス(入會
 地ハ境界ナシトスルハ其法ナリト云)
 一村又ハ數村ノ共有地ニテハ第一格ノ牧草ヲ刈取リタル後ニアリテ
 何人ノテモ放牧スルヲ得
 一村共有ノ秣場ニテ其秣場ノ反別ト該村ノ總反別ト比例レ己レカ自
 作地ニ當ル比例程ハ場内ニ區域ヲ定メ番人ヲ附ケ放牧スルヲ得自
 作地モナク所有地モナキモノト雖モ家畜ヲ持テタルモノハ六頭迄ハ
 共有秣場ニ放牧スルヲ得

他村ヨリ入作ノモノモ其入作反別ニ應スルノ家畜ヲ放牧スルヲ得
 數村共有地ノ秣場アル村々ニテ某ノ所有地ナル秣場アルノ場合モ第
 一ノ草ヲ芟取リタルモ組合村ノモノハ共通シテ放牧スルヲ得若
 之ヲ拒マントスル場合ニハ垣ヲ撤ユルカ又ハ其放牧ヲ謝絶スルノ稅
 ヲ拂ハサルヘカラス而シテ一旦垣ヲ撤ヘタルモ垣破レタルモ亦放
 牧スルモ妨ナシ(但垣ヲ撤フルノ入費ハ多クシテ稅ヲ拂フ方便理ナレ
 ハ稅ヲ拂フナリ)

(參考)不動産ハ民法ニ依リ圍ヒテナスヲ得
 地境ニ堀ヲ掘ルトキハ深サノ半分ヲ他ノ境界ニ殘サ、ルヲ得ス尤斜
 面地ナルモ其深サト等シキ地ヲ他ノ境界ニ殘サ、ルヲ得ス而シテ
 其殘シタル地ハ垣牆トナスヘキモノトス
 土塀ヲ築クトキハ半「メートル」ヲ境界トシテ殘サ、ルヘカラス
 半「メートル」ヲ境界地ニ殘サ、ルモ他ヨリ障リアリト申立ルモ其價
 ヲナサ、ヘカラス然レトモ半「メートル」ヲ殘シアレハ價ヲ要求スルノ

途ナキモノトス生垣土塀ニ手入レテナス爲メ他ノ地内ニ入ルヲ得
 但時附タル植物アル季節ハ此限ニアラス
 地境ノ中眞ニ垣牆ヲ造リ雙方ノ共用トナスコアリ此場合ニハ斷リナ
 シテ他ノ地面ニ立入ルヲ得ス但斷リタルニモ拘ハラズ拒ムルハ
 許諾ナクモ立入ルヲ得然レトモ若作物ニ損害ヲ加フルトキハ之ガ
 辨償ヲナサ、ルヲ得ス
 隣接地ニモ垣アルトキハ其境目ノ垣ヲ己レガ所有ナレハトテ漫リニ
 之ヲ取除クヲ得ス但隣接地ニ垣アラサルモノハ此限ニアラス
 甲乙共同ニテ修繕スヘキ費用アルトキ乙者拒ムルハ甲者ニテ專ラ負
 擔セサルヲ得ス若境目ノ川ニ於ル場合ニハ必ス甲乙負擔ヲ免カル、
 ヲ得ス
 甲乙ノ中眞ニ垣アルハ瓦ノ葺キ方傾キタル方ノ所有トシ左右ニ葺
 分ケタルトキハ共有ナルモノトス但甲ノ單負擔ニ屬スルモノニテモ
 乙地内ニ立入リア修覆スルヲ得然レトモ請求ノ後ニアラサルヲ得

ス若シ乙地主ニテ拒ムトモ之ニ立入ルヲ得尤乙地ニ損害ヲ與ヘタ
 ルハ之ヲ償ハサルヲ得ス其損害ノ多少ヲ争フ場合ニハ其地ノ裁判
 所ニ裁判ヲ仰シヲ得
 地境ニアル木ハ雙方地主ノ共有トス果樹ナルハ其果實ハ雙方ノ取
 分ケトス但甲乙相協ハスシテ枝ヲ卸スハ之ヲ卸スヲ得此場合ノ
 費用ハ甲乙共擔スヘキモノトス
 地境ニ四メートル已上ノ樹ヲ植ルハ三メートルヲ引退キ植付ル
 ニ非サレハ自己ノ所有タルヲ得ス
 果樹ハ塀ニ接シテ植付ルヲ得
 共有ノ塀ナレハ甲乙トモ塀ニ接シテ植ルヲ得若單有ナルハ其所有
 者ニ非サル一方ハ植ルヲ得ス
 (參考)土地ノ風習ニテ五メートルモ引退シテハ本規則ニ抱ハラズ其
 儘ニ据置シナリ
 植付ヨリ三十年間故障ナキハ八期滿特免トナルモノトス但三十「サン

ナメートルハ是非トモ引退カサルヲ得ス
 期滿特免ノ樹枯レ其跡へ再ヒ植次ヲナスルハ本法律ニ從ハサルヘカ
 ラス
 樹ノ枝他ニ差掛ルトキ他ノ地主ヨリ除去ヲ請求スレハ之ヲ拒ムヲ
 得ス
 甲地ノ果實乙地ニ落ナダルトキハ乙地ニテ之ヲ取ルヲ得
 甲地ノ樹ノ差根ハ乙地ニテ自由ニ掘除クヲ得
 樹枝ノ伐去リヲ請ヒ及樹根ノ害ヲ除クニハ期滿特免ノヲ得
 方面正シキ地ニテハ柱ヲ建テ或ハ石ヲ建テ境界表トナスヲ得
 甲地主ニテ境界ヲ正サントスルキ乙地主之ヲ拒ムヲ得ス
 大區域ノ地面ヲ數人ニテ分有シ其境目ニ係リ不服者アルキハ裁判所
 ニ訴出レハ裁判所ハ之ヲ丈量シテ割渡スモノトス但其費用ハ各自ニ
 分擔セシム(森林ナルキハ別ニ法アリ)
 學校又ハ共有官有ノ地ニ垣牆ヲ拵フルキハ二月以前ニ公告セサル

ヘカラス但費用ハ其垣牆ヲ要スル方ヨリ支辨シ縣郡ノ新聞紙ニモ廣
 告セサルヘカラス
 官有地ト民有地ノ境ニ垣牆ヲ拵フルトキハ仕様法ヲ記シタル書面ヲ
 隣地ノ所有主ニ差遣スモノトス若其村ノ居住者ニアラサルキハ書留
 郵便ニテ差遣スヘシ此場合郵狀ノ着否ヲ言フヲ得ス
 其垣牆ヲ拵フル日ニ隣地ノ所有主立會サルノ場合ト雖モ官吏立會ニ
 テ之ヲ拵フルヲ得但隣地主立會ノ地圖ヲ製シ他日ノ故障ナカラシ
 ムヘシ
 此地圖ニハ官有地ノ代表者及隣地主ノ査印ヲナスヘシ縣ニ屬スル地
 ナレハ縣會ノ査査ヲ請シヘキモノトス
 若隣地主他行又ハ出席セサルキハ地圖ヲ製シ不參ノ旨ヲ書加ヘ邑長
 及縣會書記ノ跡へ差出シ置クヘシ邑長ハ縣會ニ附シテ是非ヲ質問ス
 縣會ハ是非ヲ見定タル上正則ノ圖面ヲ差出シシタルカ如ク新聞紙等ニ
 廣告ス

境界ニ雙方不都合ナク縣會モ之ヲ認メタル上ハ境界ニ標ヲ建ルコト
得此場合雙方ノ立會ヲ要ス
縣會ノ認メタルモノニテモ垣牆ヲ游フルノ時ニ至リ隣地主ヨリ故障
ヲ申立ル時ハ裁判所ニ訴ヘ其判決ヲ待テ處分ス其時間ハ待合ハサル
ヲ得ス

農業上等會議

千八百八十五年ノ集會

編成ノ勅令

白耳義國王第一世レヲボルルハ

現在ノ人ニ告ケ將來ノモノニ示ス

農業上等會議ノ組織ニ關スル千八百四十五年三月三十一日附ノ勅

令及千八百五十年八月三十日ノ勅令ヲ再檢シ

該會議ニ關スル諸種ノ規則ヲ完備シテ以テ之ヲ一致セシムヘキノ

時ナリト認メ

我内務大臣ノ申告ニ依リ

左ニ布告ス

第一條 一千八百四十五年三月三十一日ノ勅令ニ依テ設立シタル農

業上等會議ハ左ノ役員ヨリ成ルモノトス

一 各縣立農業委員會ニ依テ年々撰舉セシ二名ノ派出員

二 此員外ニ朕ノ命シタル議員

此末項ノ議員ノ數ハ縣立農業委員會ヨリ派出シタル議員ノ半數ヨリ超スヘカラス

第三條 一名ノ議長及二名ノ副議長ハ各集會中ノ日限ニ在テ朕之ヲ命スルモノトス

一名ノ書記役ハ書類ヲ保管センカ爲ニ農業上等會議ニ隸屬スヘシ

第三條 我内務大臣ハ該會議ノ事業順序ヲ確定センカ爲メ朕ノ允可ヲ經テ其規則ヲ布告スヘシ

第四條 農業上等會議ハ政府ヨリ屬セラレタル事務ニ關シテ其意見ヲ申告シテ而シテ一般ノ利益ニ係リ縣立農業委員會ノ開陳シタル志望ヲ審議スヘシ其他農業上等會議ハ或ハ縣立農業委員會ノ名義ニ依リ或ハ其役員ノ名義ニ依テ該會議々員ノ爲スヘキ農業上ノ議案ヲ決議

スヘシ

此議案ハ筆記シテ少クモ開會ノ期日ヨリ十五日前ニ我内務大臣ニ通知セシコトヲ要ス

第五條 農業上等會議ハ我内務大臣ノ定メタル期節ニ在テ比律悉ニ於テ總會ヲ開クヘシ

總會ノ檢査ニ付スヘキ諸件ハ可成の縣立農業委員會并上等會議員ニ豫知セシムヘシ

第六條 農業上等會議ノ決議并之ニ付帶スル處ノ書類ハ之ヲ内務省ニ於テ刊行スルモノトス

第七條 農業上等會議員ノ職務ハ無給ナリトス

該議員轉移ノ場合ニ於テハ縣立農業委員會議員ト全權ノ旅費及滞在費ヲ給スヘシ

第八條 農業上等會議ニ於テ要スル所ノ費用ハ内務省ノ歲費定額ヨリ支出スヘシ

第九條 我内務大臣ハ現敕令ノ實行ニ任ス

一千八百五十九年四月三十日

レーケンニ於テ布告ス
レオポルト 璽

奉勅 内務大臣 シヤム、ロジエ工署名

農業上等會議内事順序ノ規則
内務大臣ハ
一千八百五十九年四月三十日ノ勅令即チ農業上等會議組織ノ勅令
ヲ檢案シ
該會議内事順序ノ爲メニ左ノ規則ヲ布告ス
第一條 農業上等會議ハ一千八百五十九年四月三十日ノ勅令第五條
ニ依リ内務大臣ノ招集ニ應シテ集會スヘシ
第二條 農業上等會議ノ決議ニ附セラレタル事務ニ關スル書類ハ之
ヲ少シク開會ノ期日ヨリ八日前ニ該會議員ニ通達スヘシ
第三條 農業上等會議員ハ第一ノ集會ニ於テ之ニ下付セラレタル事
務ヲ二種ニ區分スヘシ即チ第一ノ檢査ヲ受ルチ要セサル事務(第二)格段
ノ調査ヲ要シテ以テ委員ニ回付センコトヲ要スル事務之レナリ
第四條 委員ハ三名若シハ五名ノ議員ヨリ成ルモノトス此議員等ハ
農業上等會議ノ本局ニ於テ其撰舉ヲ爲スヘキコトヲ決定セルニアラサ

農業上等會議内事順序ノ規則
内務大臣ハ
一千八百五十九年四月三十日ノ勅令即チ農業上等會議組織ノ勅令
ヲ檢案シ
該會議内事順序ノ爲メニ左ノ規則ヲ布告ス
第一條 農業上等會議ハ一千八百五十九年四月三十日ノ勅令第五條
ニ依リ内務大臣ノ招集ニ應シテ集會スヘシ
第二條 農業上等會議ノ決議ニ附セラレタル事務ニ關スル書類ハ之
ヲ少シク開會ノ期日ヨリ八日前ニ該會議員ニ通達スヘシ
第三條 農業上等會議員ハ第一ノ集會ニ於テ之ニ下付セラレタル事
務ヲ二種ニ區分スヘシ即チ第一ノ檢査ヲ受ルチ要セサル事務(第二)格段
ノ調査ヲ要シテ以テ委員ニ回付センコトヲ要スル事務之レナリ
第四條 委員ハ三名若シハ五名ノ議員ヨリ成ルモノトス此議員等ハ
農業上等會議ノ本局ニ於テ其撰舉ヲ爲スヘキコトヲ決定セルニアラサ

レハ投票ノ過半数ニ依テ命セラル、モノトス而シテ委員ハ自ラ一名ノ議長ト一名ノ報告書記トヲ撰擧スヘシ
 議案ノ起草者ハ無論該議案ノ檢査ヲ回付セラルヘキ委員ノ一人タルヘシ
 第五條 四月三十日ノ勅令第四條ニ循ヒ上等會議員ニ於テ作リタル議案ハ筆記シテ開會前議長ニ通達センコトヲ要ス議長ハ之ヲ上等會議ニ告知スヘキモノトス
 其他ノ議案ニ在テハ何レモ特別ノ決定ニ依リ上等會議ニ於テ其緊急ナルコトヲ認知スルニアラサレハ開會中ニ總會ニ於テ之ヲ審議スルコトヲ得ス
 第六條 至急ニ起リタル諸議案ハ筆記シテ本局ニ呈出センコトヲ要ス此等ノ議案ハ上等會議ニ於テ異反ノ決定アルモノヲ除クノ外其議セラルヘキ日割ノ順序ニ從テ決議セラル、モノトス斯テ豫定ノ議題又ハ日割順定ノ議件ハ常ニ之ヲ問フコトヲ得

委員ハ多クハ八日ノ期限内ヨリ其審査ヲ任セラルタル議題ニ係ル報告ヲ上等會議ノ書記ニ交付スヘシ
 此報告ハ印刷シテ各議員ニ頒布スヘシ
 而シテ後ヲ議長ハ上等會議ノ集會ヲ再ヒ開クノ時ヲ定ムヘシ
 第七條 上等會議ノ總テノ決定ハ現在議員ノ多數決ニ依テ爲スモノトス可否半数ニ分ル、ノ場合ニ於テハ其議案ヲ破棄スヘシ
 第八條 現在議員ノ名ヲ揭示セル始末書ハ各會議ノ爲メニ之ヲ調製スヘシ此始末書ハ次會ノ初メ之ヲ朗讀シ而シテ檢定シタル後ヲ議長及書記之ニ署名スヘシ
 第九條 議員ノ手署ヲ受クヘキ出勤簿ハ本局ニ備置キ而シテ書記役ニ依テ確定セラル、モノトス
 第十條 本局ハ議長及二名ノ副議長ト書記トヨリ成ルモノトス
 第十一條 議長ハ現規則ヲ實行シ及集會ニ於テ秩序ヲ保存センコトニ任スルモノトス而シテ議長ハ會議ヲ開閉シ、書信ヲ通達及發送セシメ、

發言ヲ許シ、議題ヲ定メ、決議ノ結果ヲ知ラシメ而シテ其事務ヲ速成セシ
 カ爲メニ(若シ此場合ノ存スルアラハ)委員ヲ招集スヘシ
 第十二條 書記ハ文庫書藏ノ保存并謄寫ヲ以テ内務大臣ニ傳達スヘ
 キ調書ノ編輯ニ任スルモノトス
 又書記ハ發刊ヲ許サレタル農業上等會議事務録ノ印刷ヲ監督シ之ニ
 關係アル人々ヘ其試摺ノ送達セラレタルヤ否ヤニ注意セシトニ任ス
 ヘシ而シテ受ケタル人々ハ三日以内ニ之ヲ回送セシトテ要ス若シ
 此期限ニ後ルハ其ハ印刷ニ附スルモノトス
 第十三條 農業上等會議ノ決議ハ議長及書記之ニ署名スヘシ
 第十四條 農業上等會議ハ内務大臣并縣立農業委員會ト書信往復ヲ
 爲スヘシ
 第十五條 議長欠席スルキハ副議長中年長ノモノ之ヲ代理スヘシ議
 長及副議長ノ共ニ欠席スルキハ議員中年長ノモノ議長ノ席ニ就クヘシ
 第十六條 農業上等會議ハ其事業集誌ヲ刊行スヘシ

此集誌ニ掲載スルヲ得ヘキモノ左ノ如シ

- 第一 會議錄
 - 第二 自然特別ノ刊行ヲ爲スヘキモノニアラサル農業ニ關セル總
 テノ官報其他
 - 第三 縣立農業委員會ノ報告又ハ少シク此報告ノ要略
 - 第四 農業上等會議ニ進達シタル註誌及記録ニシテ其刊行ノ有益
 ナリト判知セラルモノ
 - 第十七條 各集會ノ後ニ比律悉ニ住居セサル議員ノ爲メニ出勤簿ノ
 總況ヲ調製スヘシ
- 此總況ハ議長之ヲ決定シ書記其側ニ署名シテ出勤手當ノ拂渡ヲ促サ
 シカ爲メ参考書類ト共ニ之ヲ内務大臣ニ進達スヘシ

千八百六十七年二月十二日

比律悉ニ於テ

内務大臣 アムアバンテンペーレボーム署名

一千八百五十九年四月三十日 朕ノ命令

第三條ニ従テ裁可ス

一千八百六十七年二月十二日

レチボルト

農業上等會議員ノ出勤手當給與方ノ勅令

現在ノ人ニ告テ將來ノモ示ス

白耳國國王第二世レチボルトハ

農業上等會議ノ組織ニ關スル一千八百五十九年四月三十日ノ勅令

第七條ヲ再檢シ

レチボルト

我内務大臣ノ申告ニ依リ

左ニ布告ス

第二條 農業上等會議員ニハ轉移ノ場合ノ爲メニ豫定シタル報酬ノ

外ニ會議毎ニ十法ノ出勤手當ヲ給與スヘシ

第二條 我内務大臣ハ現勅令ノ實行ニ任スヘシ

千八百七十年十二月十五日

比律悉ニ於テ布告ス

レチボルト

奉勅 内務大臣ケルプーイス、ド、レタシオン、ホーフ署名

白耳國取調書 第四號

百五十九

農工務兼工部大臣ヨリ農業上等會議員ニ宛テタル回達文
 拜啓拙官ハ一千八百八十五年ノ集會ノ爲メ農業上等會議ノ編成ヲ確
 定セル本月六日付勅令ノ寫文貴下ニ進達致シ候
 拙官ハ右勅令ノ寫文ニ添ヘテ一千八百五十九年四月三十日付上等會
 議ノ組織ノ勅令并内事順序ノ規則書一冊差出候
 本月二十日午前第十一時ヲ以テ第一ノ集會ヲパレデーザガデミー(ア
 カブミイデミアンス)地方ニ開クヘキ事ニ相定候農業上等會議ノ事
 業ニ貴下ノ干與セラレンコト拙官ノ希望致ス所ニ有之候
 農業上等會議ノ本年專ラ從事致スヘキ議題ハ左ノ件々ニ有之候
 第一 農業ノ現況ヲ有効ニ救助セシムカ爲メ若手スヘキ方法如何
 第二 中等農業者ノ少年子弟ニ專ラ適當スヘキ中等農學ノ組織ニ
 着手スルコト有益ナリヤ
 第三 補助肥料ノ使用ヲ普ク行ハシメンカ爲メニ方法ヲ設ケ而シ
 テ其偽造ヲ豫防スルコト以テ適當ナリトスヘキヤ

第四 西フランドルニ於テ存スル例ニ倣ヒ家畜ノ爲メ保險資本ノ
 設立ニ着手スルノ要アリヤ
 第五 農産物及肥料ノ運送賃ニ關シテ鐵道局ヘ請求スヘキ減價ノ
 事ヲ審査スルコト如何
 第六 牛種改良ノ爲メ縣ノ規則ヲ設定スルノ有益ナリヤ
 第七 肥滿家畜ノ共進會ハ政府ニ於テ金錢ノ干渉ヲ保續セルコトヲ
 證明スルニ足ルヘキ重大ノ利益ヲ供セリヤ
 拙官ハ又貴下ニ縣立農業委員會ニ於テ編成シタル議案并其發議シタ
 ル志望ノ書一冊進達致候
 其他拙官ニ於テハ農業上等會議ヲシテ其開會ノ日數八日ヨリ超過不
 致様決議スルコト適當ト判定致スヘキ件々ヲ自ラ規定スルノ注意ヲ爲
 サシムルコト要スルコト信シ候
 農業上等會議ノ組織ハ既ニ相應ノ星霜ヲ經過致候故之ニ變更ヲ加フ
 ル利益ノ有無察知ノ議題ヲ該會議ニ於テ審査セラレシムルコト希望スヘキ

處ニ有之候
 内事順序規則ノ第三條ノ主旨ニ依リ第一ノ集會ハ事務ノ區分ト特ニ調
 査ヲ要スル事務ヲ特別委員ニ回付スルコトニ供セラレシメテ要シ候
 農業上等會議ニ屬サシメ候議題ニ係ル諸種ノ註記ハ別紙ニ揭示有之候
 貴下ノ着手セラルヘキ事務ノ檢査ノ爲メニ必要可有之書類ハ本省ヨ
 リ貴下ニ送達可致候
 若シ貴下ニ於テ一議件ヲ農業上等會議ノ檢査ニ付セント欲セラルハ
 其ハ之ヲ第一集會ノ期日前ニ議長ヘ送付有之度候
 右申進候敬具

千八百八十五年一月十日

比律悉ニ於テ

農工務兼工部大臣 シュバリエー、ド、モロー 署名

官立農用試驗場及農用舍密局管理規則

内務大臣ハ

農用舍密局ヲ兼ネタルセンブルノ試驗場及各農用舍密局ノ編成
 ニ關スル一千八百八十三年十二月三十日ノ勅令ヲ檢案シ是等建物
 ノ管理委員會ノ申告ヲ檢案シ
 左ノ條例ヲ布告ス

第一章

管理委員會

第一條 管理委員會ハ農用試驗場及舍密局ノ爲ニ高等ノ觀察ヲ爲シ
 及之ヲ正整ナル進路ヲ確保セシメンカ爲メ必要ノ方法ヲ設クヘ
 シ
 管理委員會ハ歲出入豫算表并決算書ヲ確定スヘシ
 第二條 管理委員會或ハ其一名ノ派出員ハ少クハ六箇月毎ニ一回舍
 密局所在ノ地方ニ巡廻シ該局長ノ帳簿ヲ檢査シ會計並實物ヲ檢閱ス

ハシ該會ハ年々其職務ノ成績ヲ内務大臣ニ報告スヘシ
管理委員會議員ノ轉移並滞在費及其手當ニ至テハ農業上等會議員ト
全一般トス

第二章 役員

局長

第三條 農用試驗場及舍密局長ノ職務タル一千八百八十三年十二月
三十日ノ編成布告中特ニ掲ケタル章程ヲ盡スコアリ
局長ハ政府ニ對シテ其管理上ノ責任及其貯藏スル所ノ資金並管理委
員會ヨリ供給セシ金員上ノ責任ヲ負フモノトス

第四條 農用試驗場及舍密局ノ諸役員ハ局長ニ直隸スルモノトス
第五條 局長ハ其管理ヲ擔任スル處ニ農用試驗場及舍密局ノ作業
ニ關シ詳細ノ報告ヲ作り各年一月ノ末ニ之ヲ管理委員會議ニ呈スル
該委員會議ハ此報告書ニ註記若シ之レアラハシテ附シテ内務大臣ニ傳達

スヘシ

第六條 局長ハ農用試驗場及舍密局ノ役員ト内務大臣又ハ管理委員
會トノ間ニ立テテ執達ノ勤務ニ任スヘシ

局長ハ接連ノ場合ヲ除クノ外管理委員會議ノ許可ヲ受ケヌヤテ二日以
上續クテ缺席スルコトヲ得ス

局長ニハ年々十五日間ノ休暇ヲ與テ得而シテ其休暇中其申告ニ
依テ管理委員會議ノ指名シタル助手ヲシテ事務ヲ代理セシムヘシ

第七條 各局長ハ其舍密局ノ事務中ニ加フヘキ有益ノ改良ヲ研究シ
且分析法ノ完全及一齊ヲラントシテ審議センカ爲メ毎年一回比律悉ニ
集會スヘシ

管理委員會議ハ此集會ニ一名ノ議員ヲ派出シテ議長ヲラシムヘシ
該集會ノ招集ハ管理委員會議ノ書記ニ依テ扱ハシムヘシ
而シテ報告者ノ職務ヲ執ランカ爲メニ指名セラレタル一名ノ局長ハ管
理委員會議ニ傳達スヘキ調書ヲ記載スヘシ

第八條 センブル試験場ノ調査ハ該場長ノ責任ヲ以テ之ヲ事業ノ終了スルニ随テ時ヲ定メス發刊スヘキ特別ノ雜誌中ニ掲載スルヲ得

第三章

合密助手

第九條 合密助手ハ局長ニ隸屬シテ章程舉行ノ爲ニ起點所ノ諸事業ニ於テ局長ヲ補佐スヘキモノトス

第十條 合密助手ニハ年々分析ノ繁多シクハ時ニ在テ十五日間ノ休暇ヲ與フルヲ得而シテ合密局中數多ノ助手アルルハ其休暇スヘキ順序ハ局長ニ依テ定メラルモノトス

第十一條 助手ハ管理委員會ニ於テ之ヲ假ニ撰舉シ而シテ之ヲシテニ

ケ月間十分ナリ練習ヲ爲サシメタル後ニ委員會ハ内務大臣ニ依テ其確認セラレタルコトヲ告示スヘシ

第十二條 助手ハ其任命ノ時算起算シテ年俸二千法乃至二千五百法ヲ受シヘシ尤モ其年俸ハ合密局ニ付屬シタル歳出費額ヨリ支出ノ豫算アルモノトス

第十三條 助手ハ二ヶ年ヲ經テ右年俸ノ中等給ヲ受ケ四ヶ年ノ後ニ至テ其上等級給ヲ受ルコトヲ得

第十四條 數多ノ助手アル合密局ニ在テハ其中一名ノ者ハ助手長ニ任セラレ而シテ此名義ニ依リ内務大臣ニ於テ定ムヘキ年俸ヲ受ルコトヲ得

第十五條 第十六條 第十七條 第十八條 第十九條 第二十條 第二十一條 第二十二條 第二十三條 合密局小使ハ掃除其他局長及助手ノ指揮ニ從ヒ勤務上所要ノ事務ヲ行フヘキモノトス

受外ハ...

第五章...

第十四條 會計役ハ管理委員會ノ書記ニシテ内務大臣ト管理委員會トノ重複ヲ監督ヲ受クヘキモノトス

會計役ハ該委員會ノ指揮ヲ受クテ總テ會計簿記ヲニ任スルモノトス

會計役ハ委員會ノ備ヘタル資本金ヨリ支出スヘキ一千五百法ノ年俸ヲ受クヘキモノトス

第六章...

第十五條 農用試驗場及舍密局ノ會計ハ左ノ規則ニ從フヘキモノトス

第十六條 收入ハ左ノ事項ヨリ成ルモノトス

第二項 分析上ノ所得...

第二項 肥料製造人及檢査ニ附セラレタル家畜食料ノ製造人ヨリ納メタル税金

第三項 縣及區ヨリ下附セシ補助金

第四項 政府ノ補助金

第五項 官不用品ノ賣却ニ依テ得タル金員

第六項 會計役ニ依テ差引勘定預ケト爲シタル金額ノ利息

第十七條 第一及第五ノ二項ニ於テ定メタル收入ハ三月毎ニ農用舍密局長ニ於テ之ヲ爲スモノトス

其他ノ收入ハ直ニ會計役ニ於テ爲スモノトス

第十八條 各年ノ末局長及會計役ハ各々其擔當ノ事項ニ關シテ納金ヲ延滞セル人々ノ氏名ヲ掲ケテ之ヲ管理委員會ニ進達シ内務大臣ニ傳達セザラズ

第十九條 各局長ハ年々一月中ニ歳費金額豫算案ヲ管理委員會ニ出シテ其認可ヲ受クヘシ
 此金額ノ認可ハ何レノ託言ニ依ルモ管理委員會ノ許可ヲ受ケスニテ之ニ超過スルヲ許ルヤス
 管理委員會ハ年々各舎密局ノ全費額ヲ記入セシ總體ノ歳費豫算案ヲ内務大臣ニ進呈スヘシ
 管理委員會ハ前年度中ニ實行セシ收入簿ヲ此豫算案ニ付録スヘシ
 第二十條 總テ通常費ハ局長ニ依テ指令セラル、モノトス
 管理委員會ハ各局長ノ申告ニ依テ臨時費ヲ許可スヘシ
 第二十一條 諸費ハ局長ニ於テ其所用ニ供セラレタル金額又ハ其受領シタル收入金額ヲ以テ仕拂テヘキモノトス
 總テ局長ハ各三ヶ月ノ末其收入金使用ノ決算ヲ會計役ニ回付シ其剩餘ノ金額ハ期限ニ至リテ會計役ニ拂渡スヘキモノトス

局長ノ署名シタル此決算書ハ三通ニ認メ而シ之ニ勘定ノ證トナルヘキ諸書類ニ通テ添付スヘシ
 會計役ハ此決算書ヲ檢定シタル後テ之ヲ認可シテ仕拂ノ爲メ其寫ニ通テ局長ニ返付スヘシ
 仕拂ヲ受クヘキモノハ其勘定金ノ拂渡ヲ得シカ爲メ勘定書ニ仕拂命令書ヲ添付スヘシ此仕拂命令書ハ檢定ノ後切取扣簿ニ結付スヘキモノトス
 第三十二條 局長ノ所持スヘキ簿冊ハ左ノ如シ
 一 出納簿 該簿第一頁ハ受方ノ部トシ是コハ舎密局ニ於テ爲シタル總テノ收入金ヲ記載シ第二頁拂方ニ於テハ總テノ出費ヲ記入スヘキモノトス
 二 舎密局總テ收入ノ爲メニ用ニヘキ切取領收簿
 此領收簿ハ第一頁ニ拂込ヲ爲セシ人ノ氏名住所日付及拂込ノ理由由第二頁ニハ其拂込タル總テノ金額ヲ記入シ此頁各々ノ下ニ小

計ヲ付スヘキモノトス而シテ此小計ハ收入金ノ第一部分トシテ次
 紙葉ノ第二頁ニ持越スヘシ
 三 仕拂命令臺帳 是レ舍密局長ヨリ渡シタル請求書ノ出シルニ
 依テ用達等ノ勘定ヲ仕拂フコトヲ得ヘキモノナリ
 四 試験場ニ付屬セル諸物品(消耗品を除キ舍密局ノ器械并陳列品
 一ヲ含蓄ス)ノ出入簿
 試験場ニ於テ分析シ得タル諸品、藏書等ノ如キ二三ノ陳列品ニ在
 テハ其入場ノ順序ニ依リ特別ノ目錄ヲ備フヘシ
 五 物品ノ分析ヲ受ケタルモノ、氏名及住所、其納メタル材料及分
 析表送付ノ日付ト共ニ總テ實施シタル分析ヲ其日付ノ順序ニ依
 リテ示シタル簿冊
 六 五ノ項ニ云ヘル簿冊ニ通シタル番號ニ依テ各見本品ノ分析、舍
 密事業舉行ノ要略並驗量及計算ノ結果ヲ示セル舍密局簿冊
 各局長ノ受ケタル總テノ文書ハ保存シテ毎月之ヲ集綴シ會計年

度ニ應セル誌記ヲ調製スヘシ
 ○局長ハ各々一ノ通信簿ヲ所持ス
 度ニ應セル誌記ヲ調製スヘシ

第二十三條 各簿冊ノ首尾ニ依テ其紙數ヲ決定スヘキ會計役ニ於テ
 豫メ檢閲シタル簿冊ニアラサレハ一モ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第二十四條 管理委員會ノ書記タル會計役ハ出納總簿ヲ所持シ之ニ
 ハ受方ノ部ニ於テ順次ニ其領收シタル金額ヲ記入シ拂方ノ部ニ於テ
 局長ノ所用ニ供シ又ハ管理費トシテ局長ノ使用セル全金額ヲ記入ス
 ヘキモノトス
 會計役ノ準備セル資金ハ管理委員會ノ指名シタル銀行ニ帳簿勘定又
 ハ委託ト爲シ置クヘシ
 第二十五條 各年ノ末會計役ハ農用舍密局ノ總收支決算報告ヲ管理
 委員會ニ差出シ而シテ之ヲ内務大臣ニ傳達スヘキモノトス
 此決算報告ハ委員會ニ於テ檢閲シ各局長ノ供備シタル總テノ勘定書
 並管理費ニ關スル書類ニ依テ之ヲ保證スヘシ

第六條 各合密局長ノ旅費ハ一千八百五十四年十月三十一日ノ勅令中第五等ノ割合ニ依テ計算ヲ立ツヘシ

助手旅行ノ場合ニ於テ其旅費ハ局長ヨリ之ヲ拂渡スルニ依リテ入ル

第三十八條 管理委員會ハ現條例ニ依テ豫察セサル場合ニ於テ示言スルニ必要アル諸規則ヲハ内務大臣ニ申告シ該規則後之ヲ設クシ

一千八百八十四年三月二十五日

凡律悉ニ於テ

グ、ロレンツクマン署名

縣立農業委員會組織

白耳義國王レナポルトハ

現在ノ人ニ告ク將來ノモノニ示ス

縣立農業委員會ノ組織ヲ一千八百四十八年一月三十日ノ勅令

ニ依リ設立シタル農會ノ組織ト符合セシムルヲ緊要ノコト認定シ

千八百四十五年三月三十一日、全年九月二日及千八百四十七年五月

三日付ノ敕令ヲ再檢シ

内務大臣ノ報告ニ依リ

左ニ布告ス

第一章 縣立農業委員會ノ編成

第一條 各縣内ニ一ノ農業委員會ヲ置ク本會ハ其縣ノ農區ト全等數

ノ農業者又ハ農學者ヨリ成ルモノトス

政府ノ獸醫官モ又本會ニ加入スヘシ
 第二條 農會又ハ農業組合員タルモノニアラサレハ農業委員會ノ職
 員タルヲ得ス
 第三條 縣立農業委員會議員ハ農會ヨリ差出シ又ハ一農區若クハ其
 一部分内ニ於テ農會ノ職務ヲ盡サンカ爲メニ許認セラレタル農業組
 合及其分社ヨリ差出シタルニ通シテ候補者名簿ニ依リ國王ヨリ任セラ
 ル、モノトス
 候補者ノ撰舉ハ農會又ハ農業組合ノ總會ニ於テ無名投票ノ上現在員
 ノ多數決ヲ以テ行フモノトス
 獸醫ハ縣立委員會ヨリ差出シタルニ通シテ候補者名簿ニ依リ任命セラ
 ル、モノトス
 第四條 前條ニ記載セタル名簿ハ推薦セル候補者ノ可否ニ付意見ヲ
 陳述スヘキ縣會ノ常置議員ヲシテ之ヲ檢査セシメンカ爲メ各年十二
 月一日前ニ之ヲ縣知事ニ送達スヘシ

而シテ後チ此名簿ハ縣知事ヨリ内務大臣ニ傳達スヘキモノトス
 第五條 前條ニ示シタル時期ニ及テ農會ヨリ正則ノ候補者名簿ヲ送
 付セサル場合ニ在テハ常置議員ハ自ラ農會所在ノ農區ノ爲メニ二名
 ノ候補者ヲ推薦スヘシ
 第六條 縣立農業委員會ノ爲メニ候補者ノ撰舉ハ少ナクモ二十五名
 ノ議員ヨリ成ル所ノ農會及農業組合又ハ其分社ニアラサレハ之ヲ爲
 スヲ許サス
 議員ノ數此人員ニ達セサルノ場合ニ在テハ常置議員ハ前條ニ言ヘル
 カ如ク候補者ノ推薦ニ任スヘシ
 第七條 農會又ハ農業組合一農區以上ニ跨ルキハ其各農區内ニ住居
 セル議員ハ各別ニ候補者ノ指名ヲ爲スヘシ
 若シ一農區内ニ農會又ハ農業組合一箇所以上存スルアルキハ各々
 二名ノ候補者ヲ推薦スヘキモノトス此場合ニ於テ常置議員ハ推薦セ
 ラレタル候補者中ヨリ第一等ニ位スルモノト見ユヘキ二名ノ人ヲ撰

定スヘシ

第八條 各縣立農業委員會ハ年々其議員ノ三分ノ一ヲ新更スヘシ
第一ノ退任ハ一千八百五十一年十二月三十一日ヨリ於テ之ヲ行フヘシ
退任ノ順序ハ一千八百五十年ノ年會ニ於テ縣立委員會ノ舉行スヘキ
抽籤ニ依テ之ヲ定ムヘシ
退任ノ議員ハ再撰セラルヘシ

第九條 各縣立農業委員會議員ハ通例其代議スル所ノ農區内ニ住居
セシムルヲ要ス

第十條 國王ハ該會議員中ヨリ議長ヲ任命スヘシ

國王ハ又書記ヲ任命ス但シ書記ハ決議權ヲ有セス

第十一條 縣知事ハ其議長トシテ臨席セシムルヲ必要ナリト判定スル
キハ委員會ノ總會ニ議長タルヘシ

第二章 職掌

第十二條 各縣立農業委員會ハ宜シク其縣内農業ノ改良及進歩ニ裨

益アルヘキ百般ノ事ヲ勉ムヘシ

該委員會ハ之カ爲メ開陳スヘキモノト信スル所ノ志望ヲ政府ニ告知
スヘシ

該委員會ハ政府及縣廳ノ請求ニ應ジテ意見并報告ヲ進達スヘシ

該委員會ハ農業ニ屬スル諸般ノ部分ヲ獎勵又ハ保護セシムルカ爲メニ布
達セラレタル諸制度ノ施行ヲ便助スヘシ

之カ爲メコ該委員會ハ農區代議士ノ紹介ニ由リ其レカ爲メニ承認セ
ラレタル農會又ハ農業組合ト連絡ヲ通スヘシ

第十三條 其他農業委員會ハ家内動物ニ係ル衛生取締上ノ法律及規
則ヲ實行セラルヘキヲ觀察スヘシ

該委員會ノ議員ハ各々其配下ノ邑内ニ起發セシ農業ニ關スル總テ不
慮ノ事件及家畜中ニ起ルヘキ傳染病ニ關シテ其旨ヲ直ニ議長ニ報

知シ而シテ委員會ハ之ヲ其縣知事ニ報知スヘシ
該委員會ハ縣立醫科委員會(若シ之アラハ)ト協議シテ傳染病ノ蔓延ヲ

防止セシカ爲メ必要ノ方法ヲ設クヘシ
 第十四條 該委員會ハ各年二月末日前農業ノ情況ニ關スル報告ヲ縣知事ニ進達スヘシ此報告ハ以テ前年度收穫ノ産額并農業ニ關スル法律及規則實施ノ成績ヲ知ラシムヘキモノトシ又此報告ハ以テ農業ノ利益ニ於テ計畫ヲ要スヘキモノト信セシムル所ノ總テノ方法ヲ明示スヘシ
 第十五條 各縣ノ農業委員會ハ毎年二回該事務局ノ申告ニ依リ知事ノ定メタル時期ニ於テ總會ヲ開クヘシ
 臨時ノ集會ハ内務大臣ノ許可ヲ經テ知事ニ於テ之ヲ募集スルコトヲ得ヘシ
 凡テ集會ハ各縣ノ首府ニ於テ之ヲ開クヘシ然リト雖モ臨時集會ハ内務大臣ニ於テ有益ナリト認ムルト他ノ地方ニ於テ開會スルコトヲ得ヘシ
 第十六條 各縣立農業委員會中ニハ議長、年々該會ニ於テ指名スヘキ

二名ノ議員、獸醫及書記ヨリ成レル中央會議ノ設ケアルモノトス
 第十七條 農業委員會ノ中央會議ハ總會ヲ開カサル時ノ間緊急ノ事務ト全會ニ協議スルノ必要ナキ事務トシテ檢査ヲ行フヘシ然リト雖モ本局ハ其意見ニ附セラレタル重要ノ事務ニ付テハ書面ヲ以テ農業委員會ノ諸議員ニ合議スルコトヲ可トス而シテ各議員ハ其代表スル處ノ農會又ハ農會本局ノ意見ヲ採選スルコトヲ得
 第十八條 議長ハ之ニ屬シタル事務上必要アルニ隨ヒ屢々中央會議ヲ開クヘシ
 第十九條 縣立農業委員會議員ノ職務ハ無給ナリトス書記ハ國王ノ定メタル年給ヲ受クヘシ

縣立農業委員會ノ議員及書記ハ轉移ノ場合ニ於テハ行程一里毎ニ二法、滞在一日毎ニ八法ノ割合ヲ以テ旅行及滞在費ヲ受クヘシ
 鐵道旅費ハ前記費額ノ半ハニ減スヘシ
 第二十條 各縣立農業委員會ノ書記ハ縣ノ首府ニ眞誠ニ住居セシ